

四万十市 男女共同参画に関する市民意識調査
－ 報告書 －

平成24年9月
高知県 四万十市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
1. 性別構成	3
2. 年齢別構成	3
3. 職業別構成	4
4. 未既婚	6
(1) 未既婚	6
(2) 共働きの状況	7
5. 世帯構成	8
(1) 同居世帯の構成	8
(2) 同居している子どもの有無	9
III 調査結果	10
【1】男女平等意識について	10
1. 男女の地位の平等意識	10
2. 男女不平等が生じる原因	14
3. 今後女性の参画が必要と思う分野・領域	16
【2】職業生活について	18
1. 女性が仕事をする事について	18
2. 女性が働く上で支障となると思うこと	21
3. 職場における男女の扱いについて	23
4. 日常生活の理想と現実について	25
5. 仕事と家庭の両立に必要と思うこと	26
6. セクシュアル・ハラスメントと思う行為	28
7. セクシュアル・ハラスメントの経験	31
【3】家庭生活と男女の役割について	32
1. 結婚と家庭に関する考え方	32
2. 家庭内の仕事の分担	35
(1) 理想とする分担	35
(2) 実際の分担	36
3. 子どもの育て方について	41
4. 高齢者介護について	43
【4】地域社会活動について	45
1. 地域活動参加状況	45
2. 地域活動における現状	47
3. 地域社会で必要と思うこと	49

【5】人権意識について	51
1. 女性の人権が尊重されていないと感じること	51
2. DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験	53
(1) DVの経験	53
(2) DV経験者の相談状況	55
(3) どこにも相談しなかった理由	57
3. DVに対する意識	58
4. DVを防ぐために必要と思うこと	60
【6】男女共同参画社会について	62
1. 男女が積極的に活動するために必要と思うこと	62
2. 男女共同参画の推進に必要なと思う施策	65
IV 自由回答のとりまとめ結果	67
資料 調査票	72

I 調査の概要

【調査の目的】

四万十市男女共同参画計画「しまんと男女共同参画プラン」の改定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や実態、問題点や意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施した。

【調査対象】

20歳以上の市民（住民基本台帳による無作為抽出）

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

平成24年（2012年）7月

【回収結果】

発送数 -----2,000件

有効回収数 -----703件

有効回収率 -----35.2%

【聴取項目（大項目）】

- ◇回答者属性
- ◇男女平等意識について
- ◇職業生活について
- ◇家庭生活と男女の役割について
- ◇地域社会活動について
- ◇人権意識について
- ◇男女共同参画社会について

【報告書の見方について】

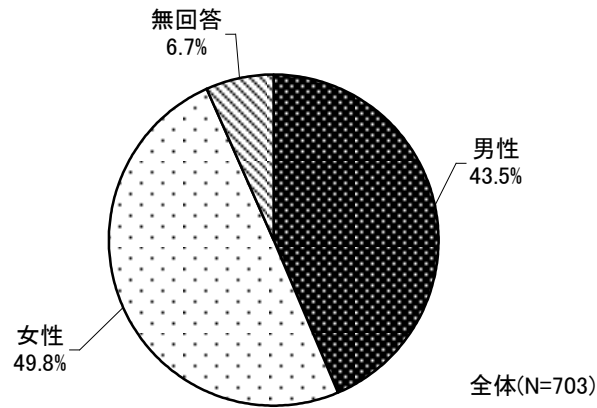
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数^{*}を「n」で標記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成21年度に実施された、内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」や、高知県の「男女共同参画に関する県民意識調査」との比較を行っている。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

※(例)問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における各属性(「男性」や「20歳代」・・・)など、限定された回答者数

Ⅱ 回答者の属性

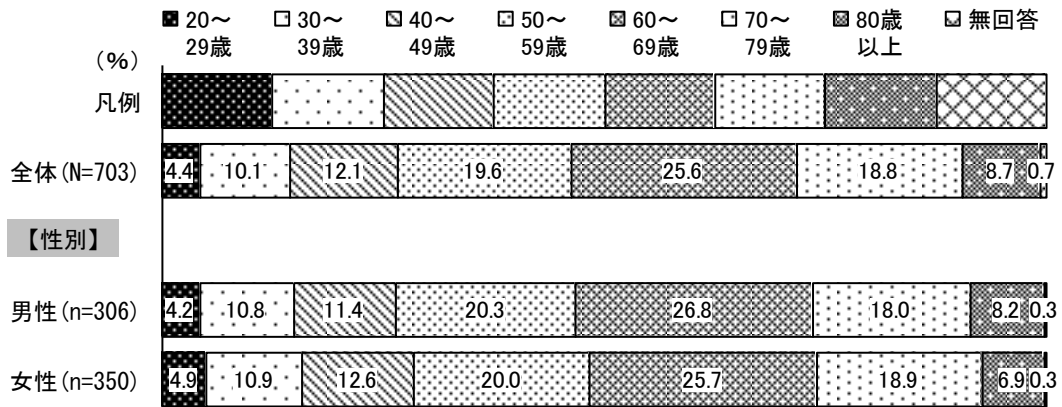
1. 性別構成

回答者の性別構成は、「男性」が43.5%、「女性」が49.8%と、やや女性の割合が高い。



2. 年齢別構成

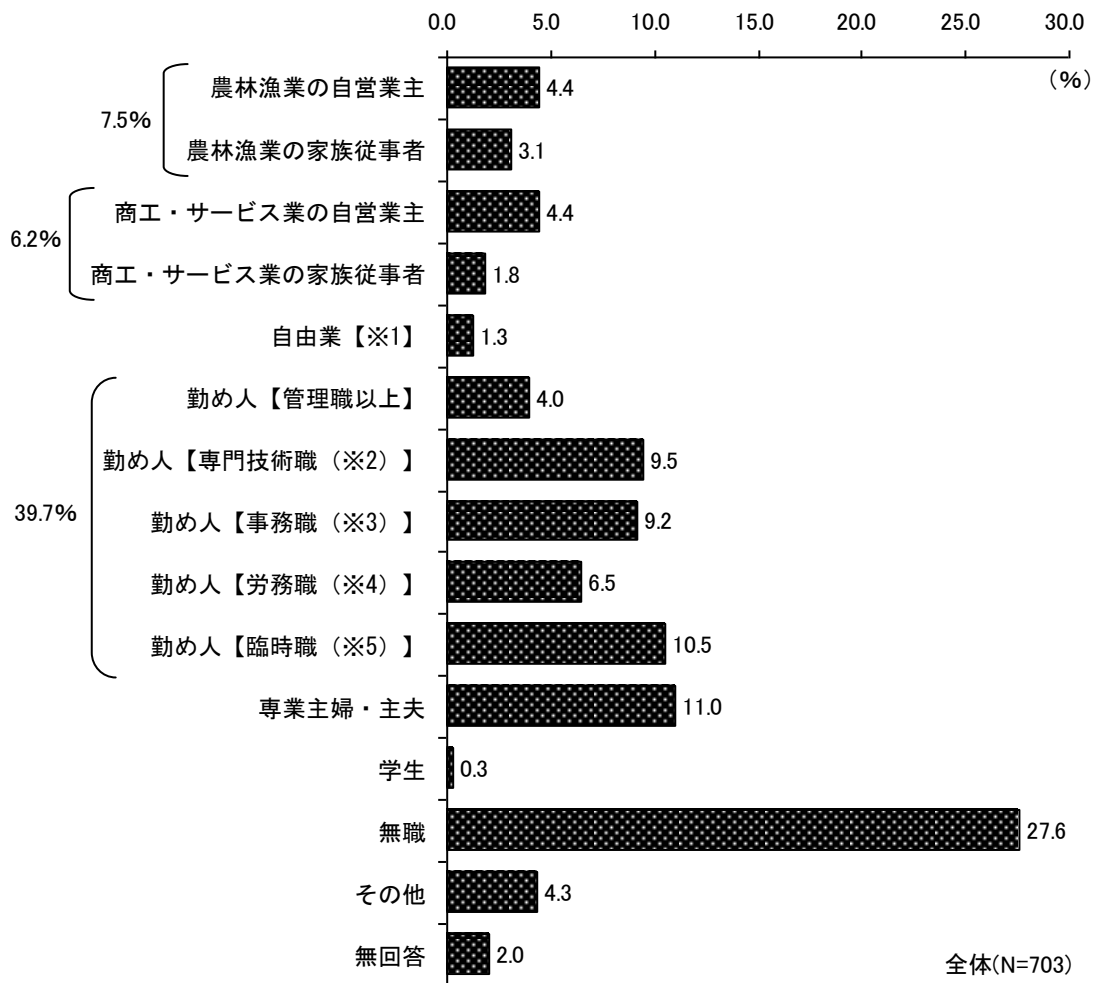
年齢別構成は、「60～69歳」が25.6%と、およそ4分の1の割合を占めて最も高く、次いで「50～59歳」(19.6%)、「70～79歳」(18.8%)の順で、『50歳以上(合計)』で全体の7割(72.7%)を占めている。



3. 職業別構成

職業別構成については、「無職」の割合が27.6%と最も高く、次いで「専業主婦・主夫」(11.0%)、「勤め人【臨時職(パート・アルバイト・派遣など)】」(10.5%)、「勤め人【専門技術職(技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など)】」(9.5%)などの順で、『勤め人』は合計で約4割(39.7%)を占めている。

『農林漁業』は「自営業主」(4.4%)と「家族従事者」(3.1%)を合計して7.5%、同様に『商工・サービス業』は合計6.2%となっている。



- ※1 開業医・弁護士・芸術家など
- ※2 技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など
- ※3 一般事務職・営業職など
- ※4 建築作業員・工員・運転手など
- ※5 パート・アルバイト・派遣など

性別でみると、男性は女性に比べ「勤め人【労務職（建築作業員・工員・運転手など）】」及び「無職」の割合が高く、女性は「勤め人【臨時職（パート・アルバイト・派遣など）】」や「専業主婦・主夫」の割合が高い。

年齢別では、20歳代では他の年齢層に比べ「勤め人【臨時職（パート・アルバイト・派遣など）】」の割合が高く、60歳代の3割また70歳以上の過半数が「無職」となっている。

単位(%)		農林漁業の自営業主	農林漁業の家族従事者	商工・サービスの自営業主	商工・サービスの家族従事者	【※1】自由業	【勤め人】 【管理職以上】	【勤め人】 【専門技術職（※2）】	【勤め人】 【事務職（※3）】	【勤め人】 【労務職（※4）】	【勤め人】 【臨時職（※5）】	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
全体(N=703)		4.4	3.1	4.4	1.8	1.3	4.0	9.5	9.2	6.5	10.5	11.0	0.3	27.6	4.3
性別	男性(n=306)	8.8	2.0	5.6	0.7	2.0	7.2	8.5	8.8	12.4	4.9	0.7	0.0	33.3	3.9
	女性(n=350)	0.0	4.3	3.4	2.9	0.9	1.7	10.0	10.0	2.0	15.4	20.3	0.6	22.6	4.9
年齢別 (男女計)	20歳代(n=31)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	16.1	22.6	12.9	29.0	0.0	3.2	6.5	6.5
	30歳代(n=71)	0.0	2.8	4.2	2.8	0.0	2.8	12.7	22.5	9.9	11.3	12.7	0.0	11.3	5.6
	40歳代(n=85)	1.2	0.0	3.5	0.0	2.4	5.9	25.9	23.5	14.1	9.4	7.1	0.0	3.5	3.5
	50歳代(n=138)	0.7	2.9	6.5	2.9	2.2	11.6	17.4	10.1	8.7	18.8	5.1	0.0	9.4	2.2
	60歳代(n=180)	5.6	3.9	6.7	2.8	1.7	1.7	3.9	4.4	6.1	9.4	15.0	0.6	31.1	5.6
70歳以上(n=193)		9.8	4.7	2.1	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	3.1	14.0	0.0	57.5	4.1

注:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。

(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。

- ※1 開業医・弁護士・芸術家など
- ※2 技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など
- ※3 一般事務職・営業職など
- ※4 建築作業員・工員・運転手など
- ※5 パート・アルバイト・派遣など

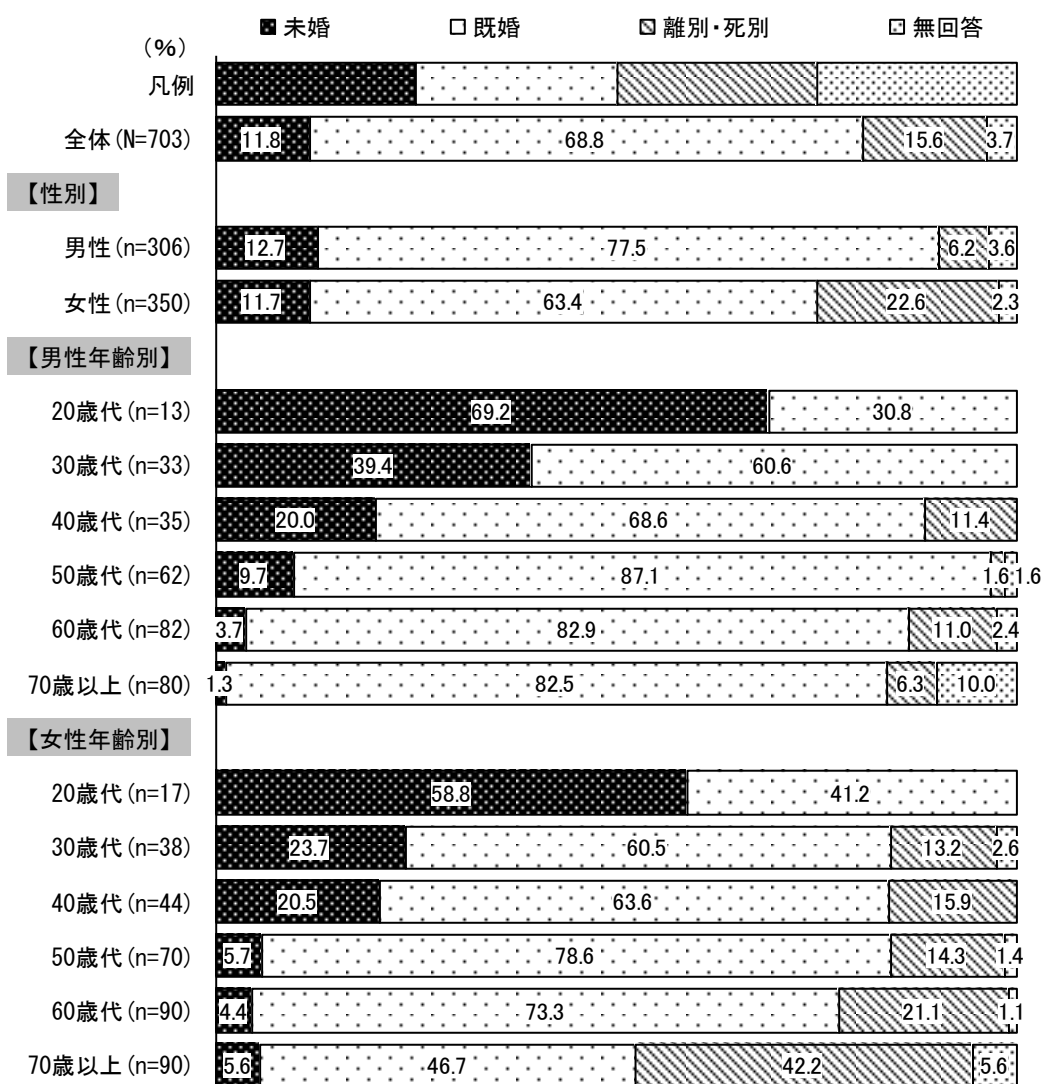
4. 未既婚

(1) 未既婚

未既婚については、「未婚」が11.8%、「既婚」が68.8%、「離別・死別」が15.6%の割合となっている。

性別では、女性で「離別・死別」の割合が高くなっている。

男性、女性ともに年齢が若いほど「未婚」の割合も高い傾向にあるが、特に男性の20歳代では7割近くを占めている。女性は男性に比べ年齢が上がるほど「離別・死別」の割合も高くなる傾向にある。

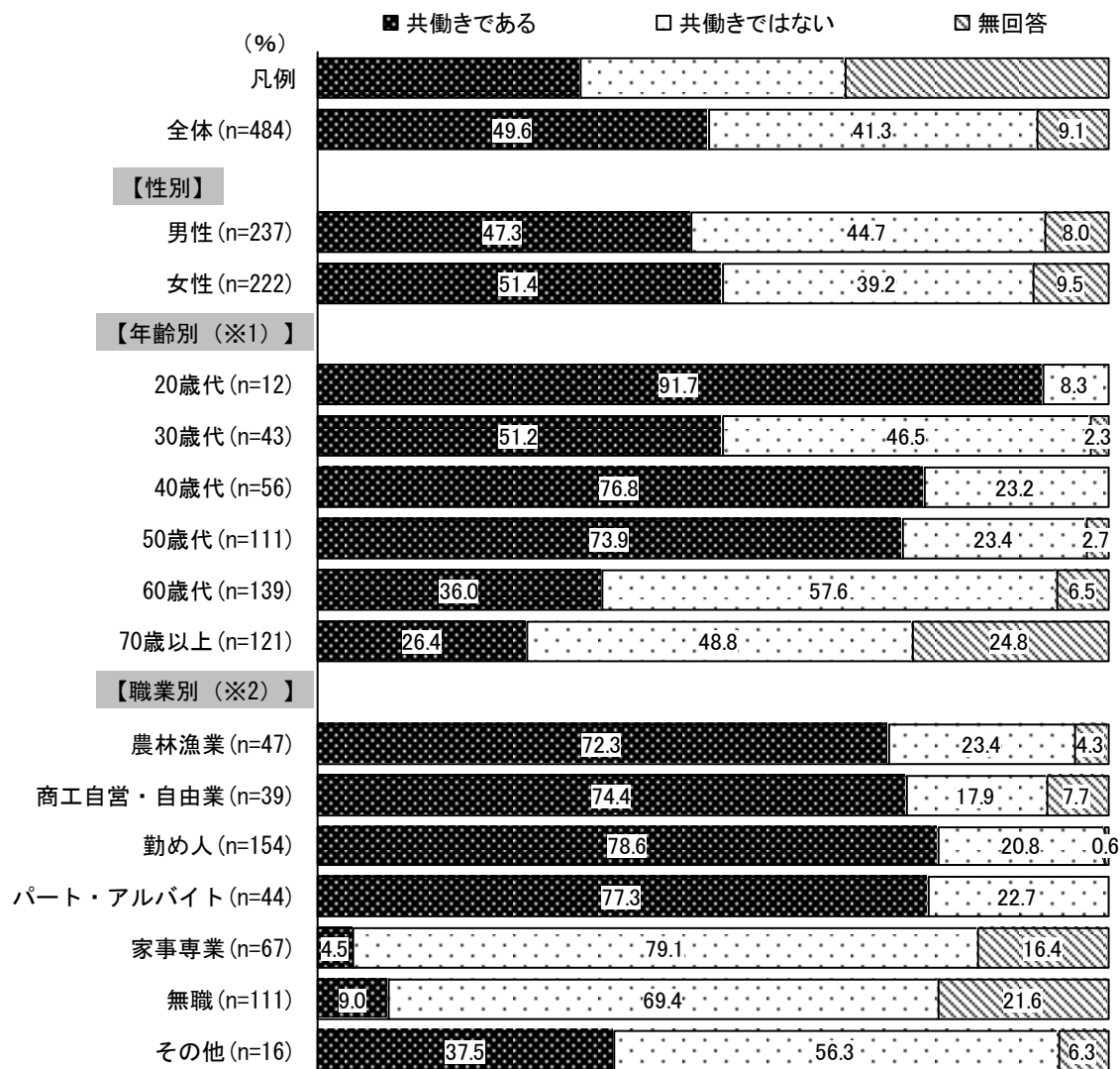


(2) 共働きの状況

既婚者のうち、約半数（49.6%）が「共働きである」と回答している。

年齢別では、20歳代の大半が共働きで、40～50歳代でも共働きの割合は高い。

職業別では、農林漁業、商工自営・自由業、勤め人、パート・アルバイトともに7割以上が「共働きである」と回答している。



※1 年齢別は男女合計

※2 職業別の内訳は以下のとおり

職業別クロス軸 問3の選択肢

農林漁業

1. 農林漁業の自営業主
2. 農林漁業の家族従事者

商工自営・自由業

3. 商工・サービス業の自営業主
4. 商工・サービス業の家族従事者
5. 自由業【開業医・弁護士・芸術家など】

勤め人

6. 勤め人【管理職以上】
7. 勤め人【専門技術職(技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など)】
8. 勤め人【事務職(一般事務職・営業職など)】
9. 勤め人【労務職(建築作業員・工員・運転手など)】

パート・アルバイト

10. 勤め人【臨時職(パート・アルバイト・派遣など)】

家事専業

11. 専業主婦・主夫

無職

13. 無職

その他

12. 学生

14. その他

(本報告書においては以下同様)

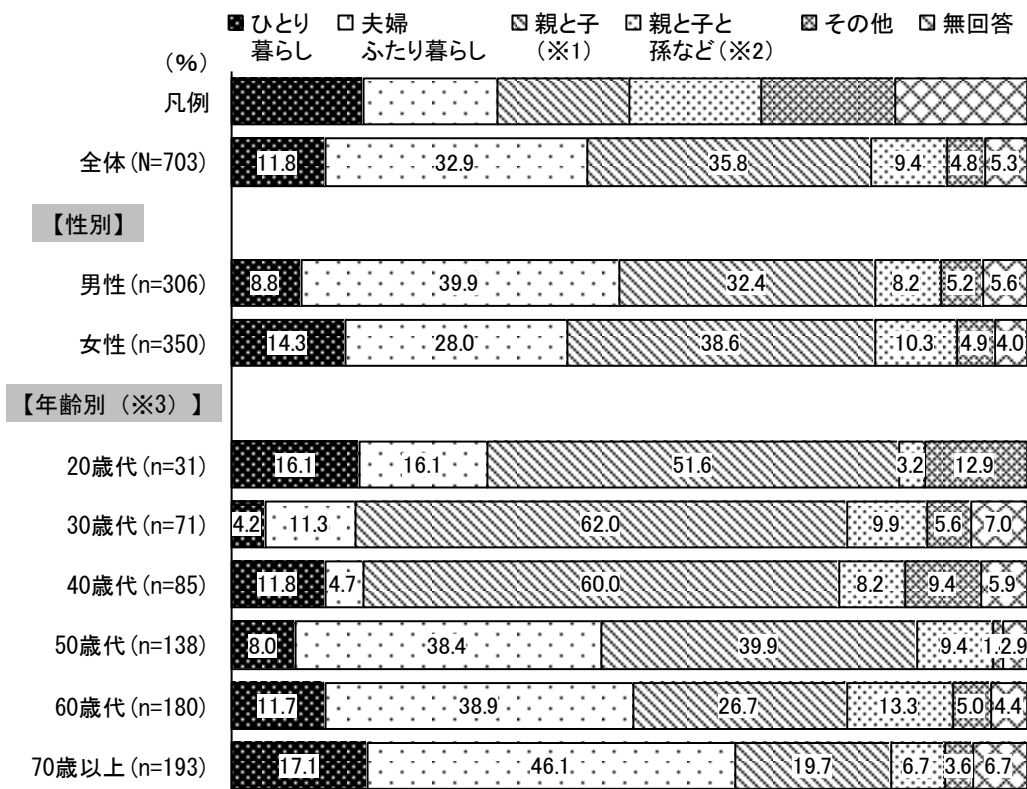
5. 世帯構成

(1) 同居世帯の構成

同居世帯の構成は、「夫婦ふたり暮らし」(32.9%)、「親と子(二世帯同居)」(35.8%)がほぼ同程度で多くなっている。次いで「ひとり暮らし」が11.8%、「親と子と孫など(三世帯以上同居)」(9.4%)の順となっている。

性別では、男性は「夫婦ふたり暮らし」の割合が女性に比べ高く、女性は男性に比べ「ひとり暮らし」「親と子(二世帯同居)」の割合が高い。

年齢別では、年齢が上がるほど「ひとり暮らし」の割合も増える傾向にあるが、20歳代でも高い。30～40歳代では「親と子(二世帯同居)」が高い割合を占めている。



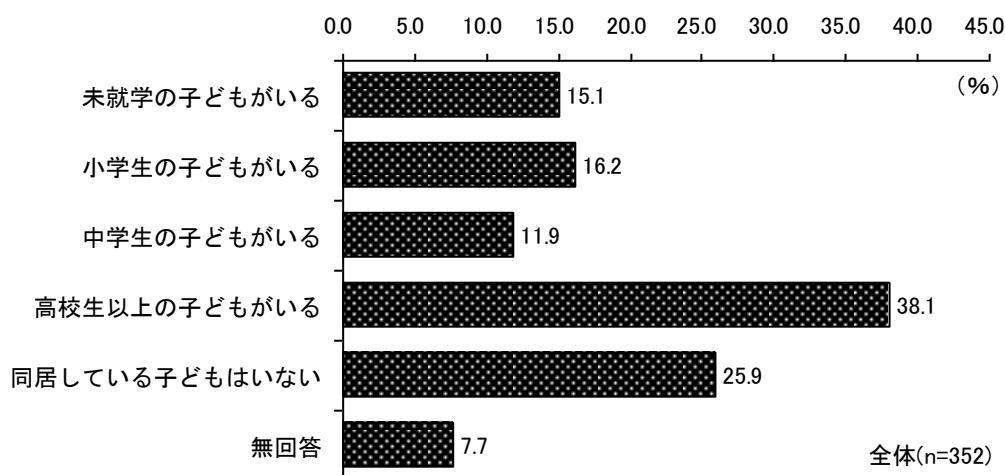
※1 二世帯同居
 ※2 三世帯以上同居
 ※3 年齢別は男女合計

(2) 同居している子どもの有無

同居世帯の構成は、「同居している子どもはいない」の割合が 25.9%であることから、およそ6～7割程度の世帯に同居している子どもがいるとみられる。

子どもについては「高校生以上の子どもがいる」が 38.1%と最も高く、次いで「小学生の子どもがいる」(16.2%)、「未就学の子どもがいる」(15.1%)の順となっている。

年齢別でみると、30歳代の場合、他の年齢層に比べ「未就学の子どもがいる」の割合が高く、40歳代では「小学生の子どもがいる」「中学生の子どもがいる」、50歳代では「高校生以上の子どもがいる」の割合がそれぞれ高くなっている。



単位 (%)		子未 ども 就学 が い る	子小 ども 学 生 が い る	子中 ども 学 生 が い る	子高 ども 校 生 が い 上 る の	子同 ども 居 し て い な い
全体(n=352)		15.1	16.2	11.9	38.1	25.9
年齢別 (男女計)	20歳代(n=21)	33.3	4.8	0.0	9.5	42.9
	30歳代(n=55)	43.6	25.5	12.7	3.6	34.5
	40歳代(n=66)	13.6	36.4	21.2	39.4	18.2
	50歳代(n=70)	7.1	4.3	11.4	60.0	27.1
	60歳代(n=81)	6.2	13.6	7.4	44.4	24.7
	70歳以上(n=58)	5.2	6.9	12.1	44.8	20.7

注:表中の「網掛け」は、クロス集計(年齢別)において最も高い割合を示している。

(例/年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)
「無回答」は表記から省略している。

Ⅲ 調査結果

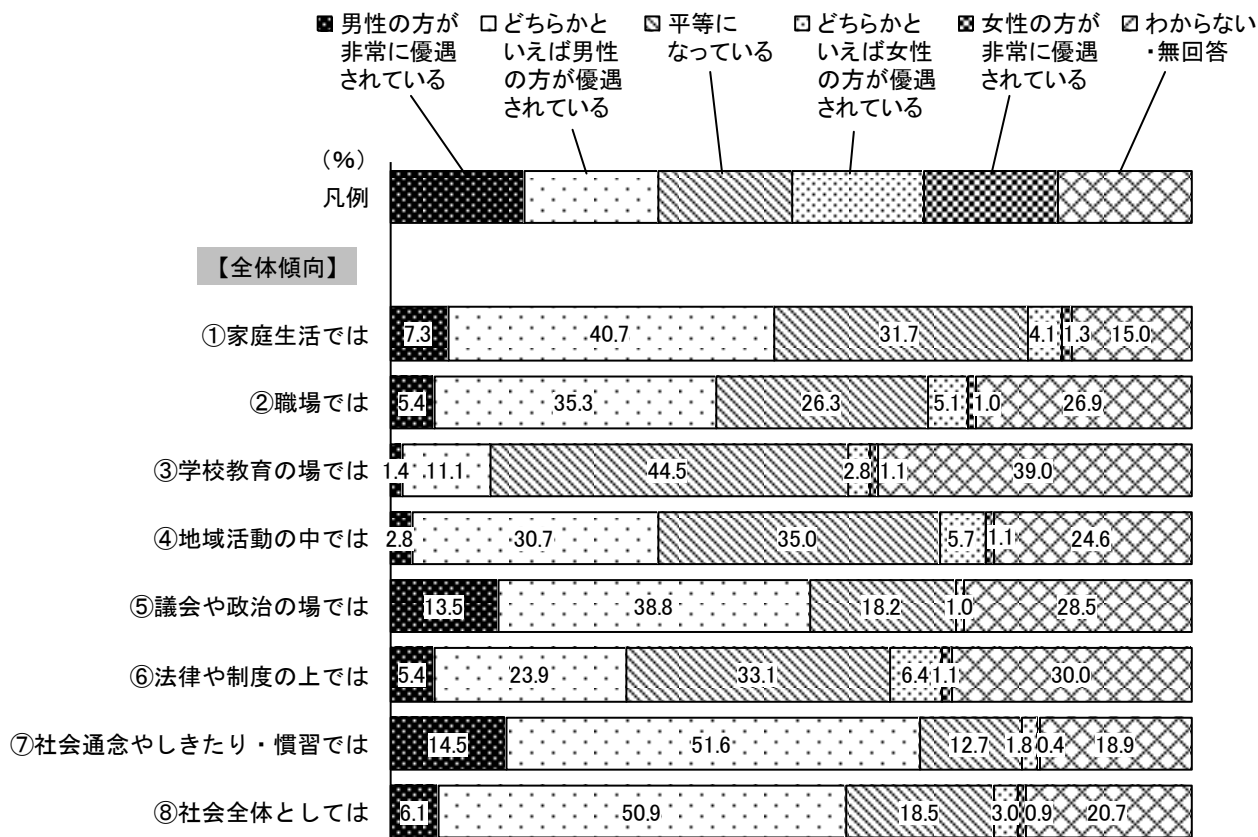
【1】男女平等意識について

1. 男女の地位の平等意識

問6. あなたは、今の社会において、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

全体では、すべての分野において、『男性優遇*』の割合が『女性優遇*』の割合を上回っている。特に、「⑤議会や政治の場」(52.3%)、「⑦社会通念やしきたり・慣習」(66.1%)、「⑧社会全体」(57.0%)で高く、「⑤議会や政治の場」や「⑦社会通念やしきたり・慣習」では「男性の方が非常に優遇されている」割合が他の項目を大きく上回っている。

一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「③学校教育の場」(44.5%)、「④地域活動の中」(35.0%)、「⑥法律や制度の上」(33.1%)などがあげられる。



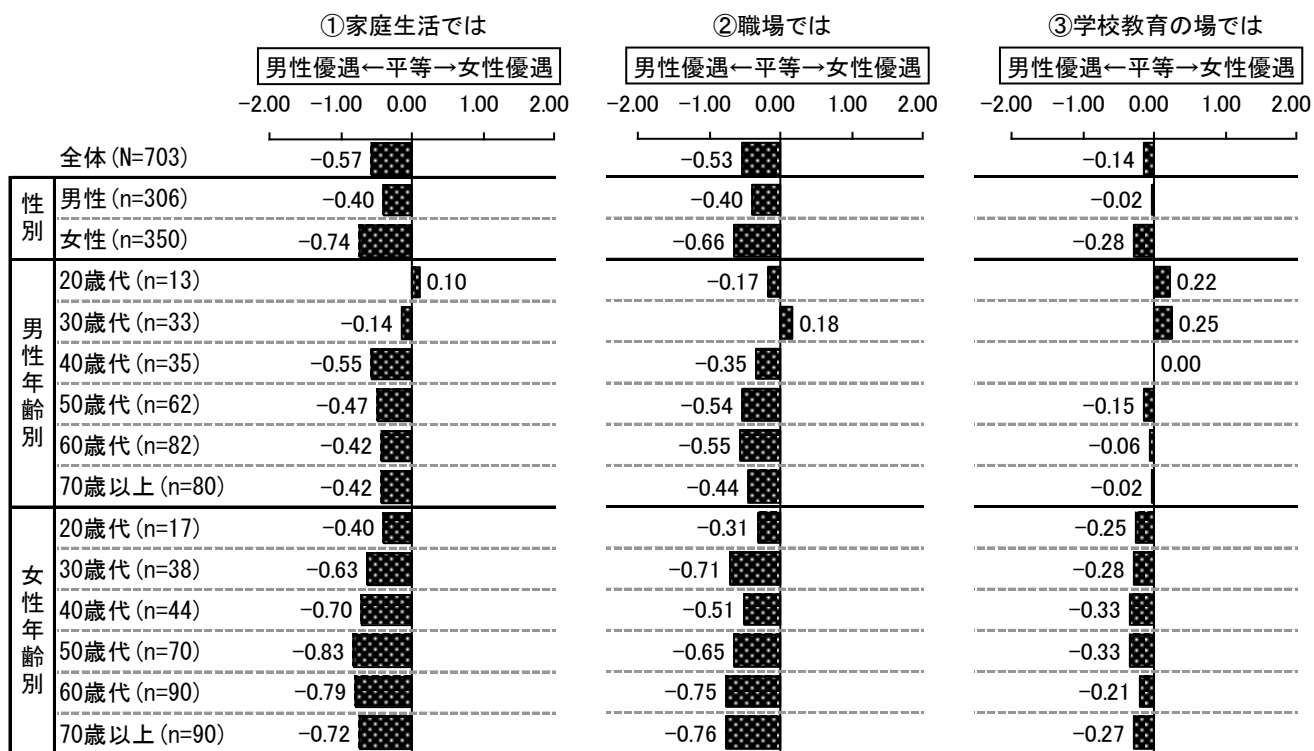
*「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

加重平均値による属性別傾向をみると、性別では、すべての分野において女性で『男性優遇』の意識が高くなっている。

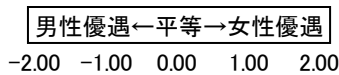
性・年齢別では、男性の20～30歳代の年齢層において「①家庭生活」「②職場」「④地域活動」などの分野で『平等』あるいは『女性優遇』意識が他の年齢層に比べ高くなっている。女性の30歳代では特に「⑤議会や政治の場」「⑥法律や制度の上」で『男性優遇』意識が高く、また30～50歳代の年齢層では「④地域活動」「⑦社会通念やしきたり・慣習」「⑧社会全体」などの分野において『男性優遇』意識が高い。

◆加重平均値による属性別傾向◆

加重平均値とは、「男性の方が非常に優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に-1点、「平等」に0点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に+1点、「女性の方が非常に優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではない。

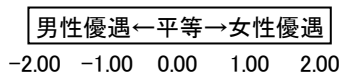


④地域活動の中では



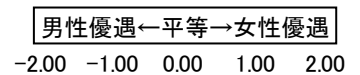
全体 (N=703)		-0.38
性別	男性 (n=306)	-0.27
	女性 (n=350)	-0.47
男性年齢別	20歳代 (n=13)	0.00
	30歳代 (n=33)	-0.03
	40歳代 (n=35)	-0.20
	50歳代 (n=62)	-0.33
	60歳代 (n=82)	-0.37
	70歳以上 (n=80)	-0.29
	女性年齢別	20歳代 (n=17)
30歳代 (n=38)		-0.65
40歳代 (n=44)		-0.53
50歳代 (n=70)		-0.80
60歳代 (n=90)		-0.18
70歳以上 (n=90)		-0.46

⑤議会や政治の場では



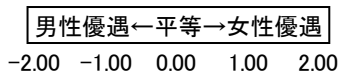
全体 (N=703)		-0.91
性別	男性 (n=306)	-0.74
	女性 (n=350)	-1.08
男性年齢別	20歳代 (n=13)	-0.90
	30歳代 (n=33)	-0.71
	40歳代 (n=35)	-0.79
	50歳代 (n=62)	-0.88
	60歳代 (n=82)	-0.72
	70歳以上 (n=80)	-0.58
	女性年齢別	20歳代 (n=17)
30歳代 (n=38)		-1.42
40歳代 (n=44)		-1.06
50歳代 (n=70)		-1.16
60歳代 (n=90)		-1.00
70歳以上 (n=90)		-0.90

⑥法律や制度の上では



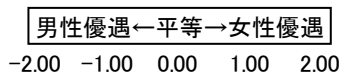
全体 (N=703)		-0.37
性別	男性 (n=306)	-0.23
	女性 (n=350)	-0.51
男性年齢別	20歳代 (n=13)	0.00
	30歳代 (n=33)	-0.21
	40歳代 (n=35)	-0.13
	50歳代 (n=62)	-0.33
	60歳代 (n=82)	-0.17
	70歳以上 (n=80)	-0.31
	女性年齢別	20歳代 (n=17)
30歳代 (n=38)		-0.83
40歳代 (n=44)		-0.53
50歳代 (n=70)		-0.49
60歳代 (n=90)		-0.53
70歳以上 (n=90)		-0.37

⑦社会通念やしきたり・慣習では



全体 (N=703)		-0.96
性別	男性 (n=306)	-0.82
	女性 (n=350)	-1.10
男性年齢別	20歳代 (n=13)	-0.56
	30歳代 (n=33)	-0.70
	40歳代 (n=35)	-0.82
	50歳代 (n=62)	-0.93
	60歳代 (n=82)	-0.91
	70歳以上 (n=80)	-0.71
	女性年齢別	20歳代 (n=17)
30歳代 (n=38)		-1.24
40歳代 (n=44)		-1.16
50歳代 (n=70)		-1.26
60歳代 (n=90)		-0.97
70歳以上 (n=90)		-0.97

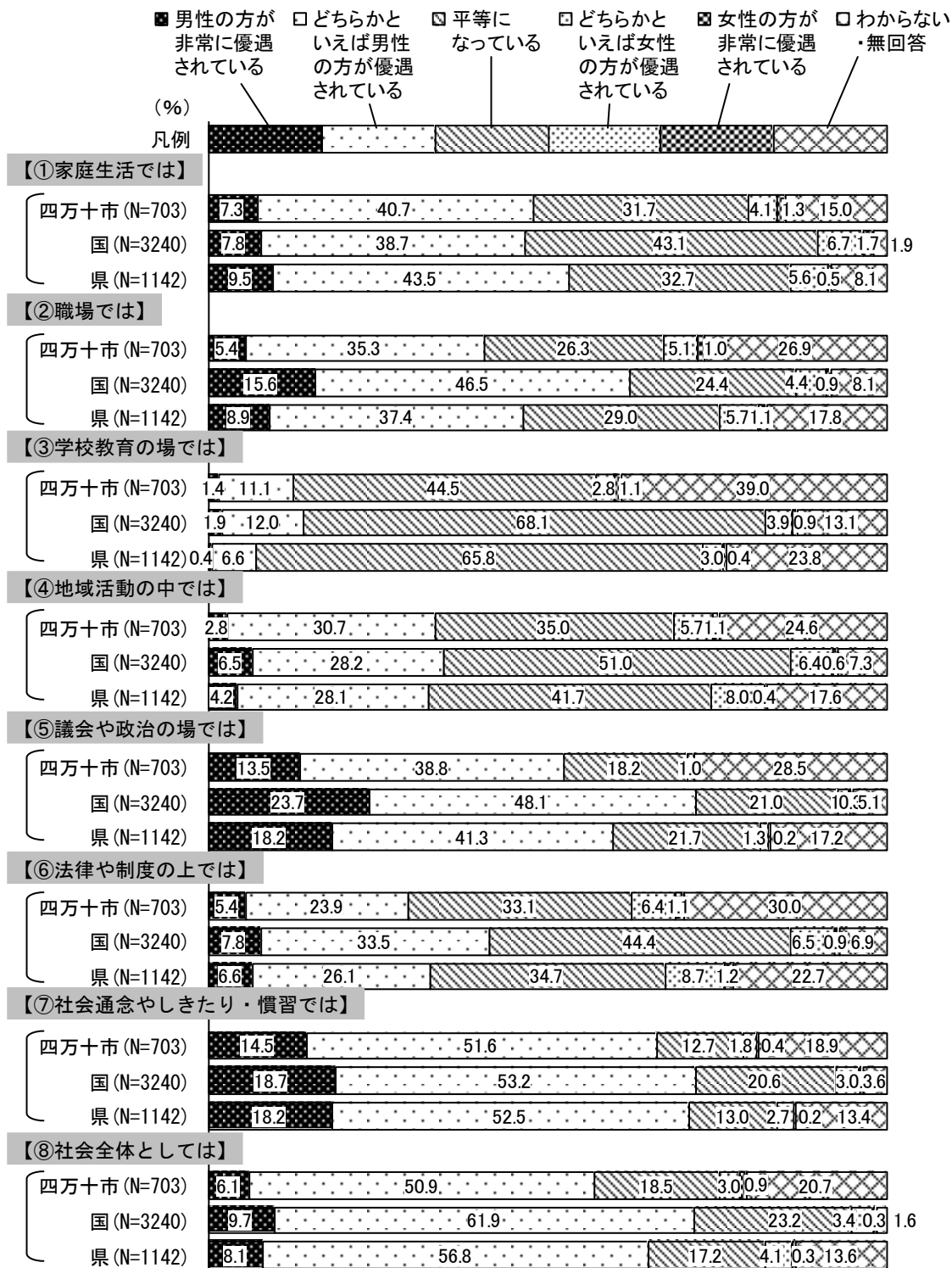
⑧社会全体としては



全体 (N=703)		-0.74
性別	男性 (n=306)	-0.60
	女性 (n=350)	-0.86
男性年齢別	20歳代 (n=13)	-0.33
	30歳代 (n=33)	-0.41
	40歳代 (n=35)	-0.50
	50歳代 (n=62)	-0.73
	60歳代 (n=82)	-0.63
	70歳以上 (n=80)	-0.64
	女性年齢別	20歳代 (n=17)
30歳代 (n=38)		-0.97
40歳代 (n=44)		-0.86
50歳代 (n=70)		-0.97
60歳代 (n=90)		-0.81
70歳以上 (n=90)		-0.77

【参考／国・県調査との比較】

「②職場」や「⑤議会や政治の場」において、国は「男性の方が非常に優遇されている」割合が本市や県の割合を上回っている。



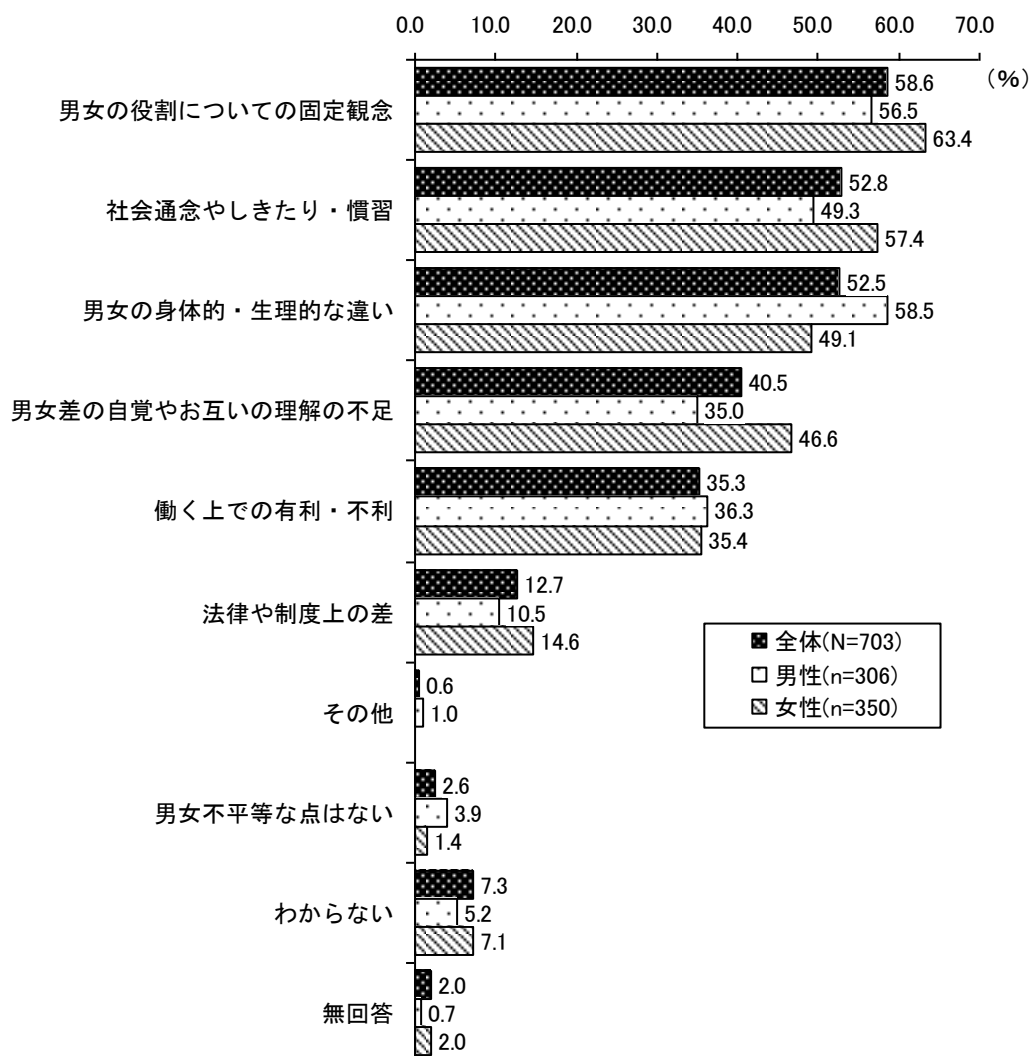
※国(内閣府)の調査結果については、調査方法が異なるため、参考値として参照のこと(郵送ではなく、調査員による面接聴取にて実施。高知県の調査については本市と同様に郵送調査で実施)。

2. 男女不平等が生じる原因

問7. 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。(〇印いくつでも)

男女不平等が生じる原因については、「男女の役割についての固定観念」の割合が58.6%と最も高く、ほぼ並んで「社会通念やしきたり・慣習」(52.8%)、「男女の身体的・生理的な違い」(52.5%)が続いている。以下「男女差の自覚やお互いの理解の不足」(40.5%)、「働く上での有利・不利」(35.3%)、「法律や制度上の差」(12.7%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男女の身体的・生理的な違い」の割合が高く、女性は「男女の役割についての固定観念」「社会通念やしきたり・慣習」「男女差の自覚やお互いの理解の不足」などで男性を上回っており、特に「男女差の自覚やお互いの理解の不足」で差が大きい。



性・年齢別では、特に男性の20～40歳代で「男女の身体的・生理的な違い」の割合が高く、男性20歳代では「男女差の自覚やお互いの理解の不足」、女性の30歳代で「男女の役割についての固定観念」「法律や制度上の差」、女性の20～30歳代で「働く上での有利・不利」などがそれぞれ他の年齢層を上回って高くなっている。

単位(%)		男女の固定観念についての割合	社会通念やしきたり・慣習	男女の身体的・生理的な違い	男女差の自覚やお互いの理解の不足	働く上での有利・不利	法律や制度上の差	その他	男女不平等な点はない	わからない
全体(N=703)		58.6	52.8	52.5	40.5	35.3	12.7	0.6	2.6	7.3
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	61.5	30.8	61.5	53.8	38.5	30.8	7.7	0.0	7.7
	男性30歳代(n=33)	36.4	36.4	63.6	21.2	30.3	12.1	6.1	0.0	9.1
	男性40歳代(n=35)	57.1	48.6	68.6	40.0	40.0	22.9	0.0	2.9	2.9
	男性50歳代(n=62)	66.1	54.8	59.7	46.8	43.5	9.7	0.0	4.8	3.2
	男性60歳代(n=82)	64.6	56.1	56.1	31.7	41.5	6.1	0.0	3.7	1.2
	男性70歳以上(n=80)	47.5	47.5	52.5	30.0	25.0	6.3	0.0	6.3	10.0
	女性20歳代(n=17)	58.8	35.3	52.9	23.5	58.8	0.0	0.0	0.0	5.9
	女性30歳代(n=38)	81.6	71.1	44.7	36.8	52.6	31.6	0.0	0.0	0.0
	女性40歳代(n=44)	77.3	54.5	54.5	40.9	34.1	9.1	0.0	0.0	4.5
	女性50歳代(n=70)	75.7	78.6	60.0	47.1	30.0	17.1	0.0	0.0	0.0
	女性60歳代(n=90)	61.1	51.1	53.3	50.0	42.2	16.7	0.0	3.3	4.4
女性70歳以上(n=90)	43.3	47.8	35.6	53.3	22.2	8.9	0.0	2.2	20.0	

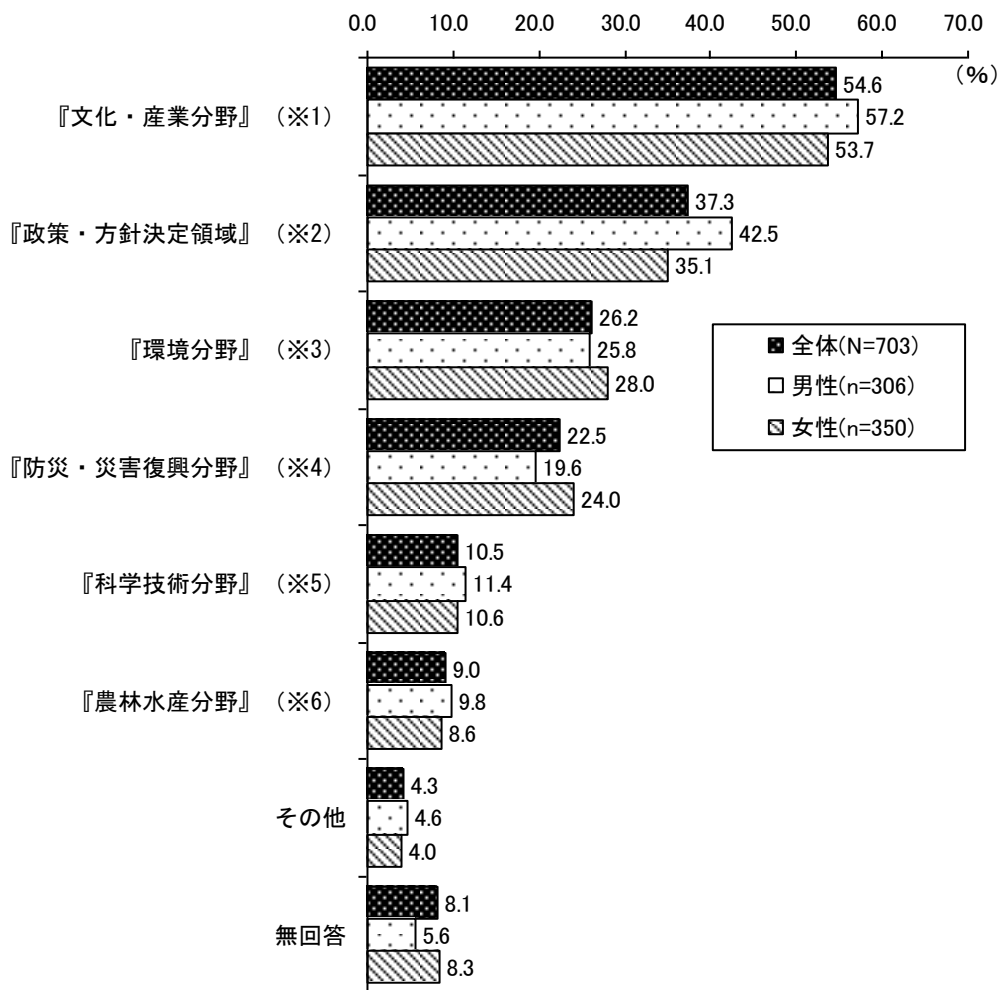
注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。
(例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)
但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。
また「無回答」は表記から省略している。
(本報告書においては以下同様)

3. 今後女性の参画が必要と思う分野・領域

問8. あなたは、今後どのような分野・領域で、より一層女性の参画が必要だと思いますか。
(○印2つまで)

今後女性の参画が必要と思う分野・領域については、「文化・産業分野」の割合が54.6%と最も高く、次いで「政策・方針決定領域」(37.3%)、「環境分野」(26.2%)、「防災・災害復興分野」(22.5%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「文化・産業分野」「政策・方針決定領域」の割合が高く、女性は「環境分野」「防災・災害復興分野」などで男性を上回っている。



- ※1 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す
- ※2 審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など
- ※3 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かす
- ※4 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など
- ※5 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など
- ※6 農業経営への参画、家族経営協定など

年齢別では、30～50 歳代の年齢層において「政策・方針決定領域」、60 歳代では特に「環境分野」や「防災・災害復興分野」、30～40 歳代で「農林水産分野」などの割合がそれぞれ高くなっている。

職業別でみると、特に家事専業で「文化・産業分野」や「防災・災害復興分野」、農林漁業で「農林水産分野」などの割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)		〔※1〕 文化・ 産業 分野〕	〔※2〕 政策・ 方針 決定 領 域〕	〔※3〕 環境 分 野〕	〔※4〕 防 災・ 災 害 復 興 分 野〕	〔※5〕 科 学 技 術 分 野〕	〔※6〕 農 林 水 産 分 野〕	そ の 他
全体(N=703)		54.6	37.3	26.2	22.5	10.5	9.0	4.3
年 齢 別 (男 女 計)	20歳代(n=31)	51.6	35.5	12.9	25.8	16.1	9.7	6.5
	30歳代(n=71)	53.5	49.3	14.1	25.4	12.7	12.7	2.8
	40歳代(n=85)	56.5	47.1	17.6	16.5	11.8	10.6	4.7
	50歳代(n=138)	52.2	48.6	29.0	18.8	8.7	8.7	2.9
	60歳代(n=180)	57.8	36.7	32.8	28.9	12.8	7.2	3.3
	70歳以上(n=193)	54.4	22.3	29.0	20.2	7.3	8.8	6.2
職 業 別	農林漁業(n=53)	54.7	28.3	28.3	11.3	7.5	18.9	5.7
	商工自営・自由業(n=53)	58.5	47.2	28.3	24.5	15.1	7.5	1.9
	勤め人(n=206)	59.2	47.1	18.9	21.4	11.7	8.7	3.9
	パート・アルバイト(n=74)	41.9	37.8	32.4	17.6	10.8	10.8	2.7
	家事専業(n=77)	61.0	28.6	27.3	32.5	9.1	11.7	1.3
	無職(n=194)	51.0	33.5	29.4	23.7	10.3	6.7	6.2
	その他(n=32)	59.4	18.8	34.4	21.9	6.3	3.1	6.3

- ※1 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す
- ※2 審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など
- ※3 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かす
- ※4 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など
- ※5 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など
- ※6 農業経営への参画、家族経営協定など

【2】職業生活について

1. 女性が仕事をする事について

問9. 女性が仕事をする事（会社などで働くこと）について、あなたはどのように思いますか。（○印1つ）

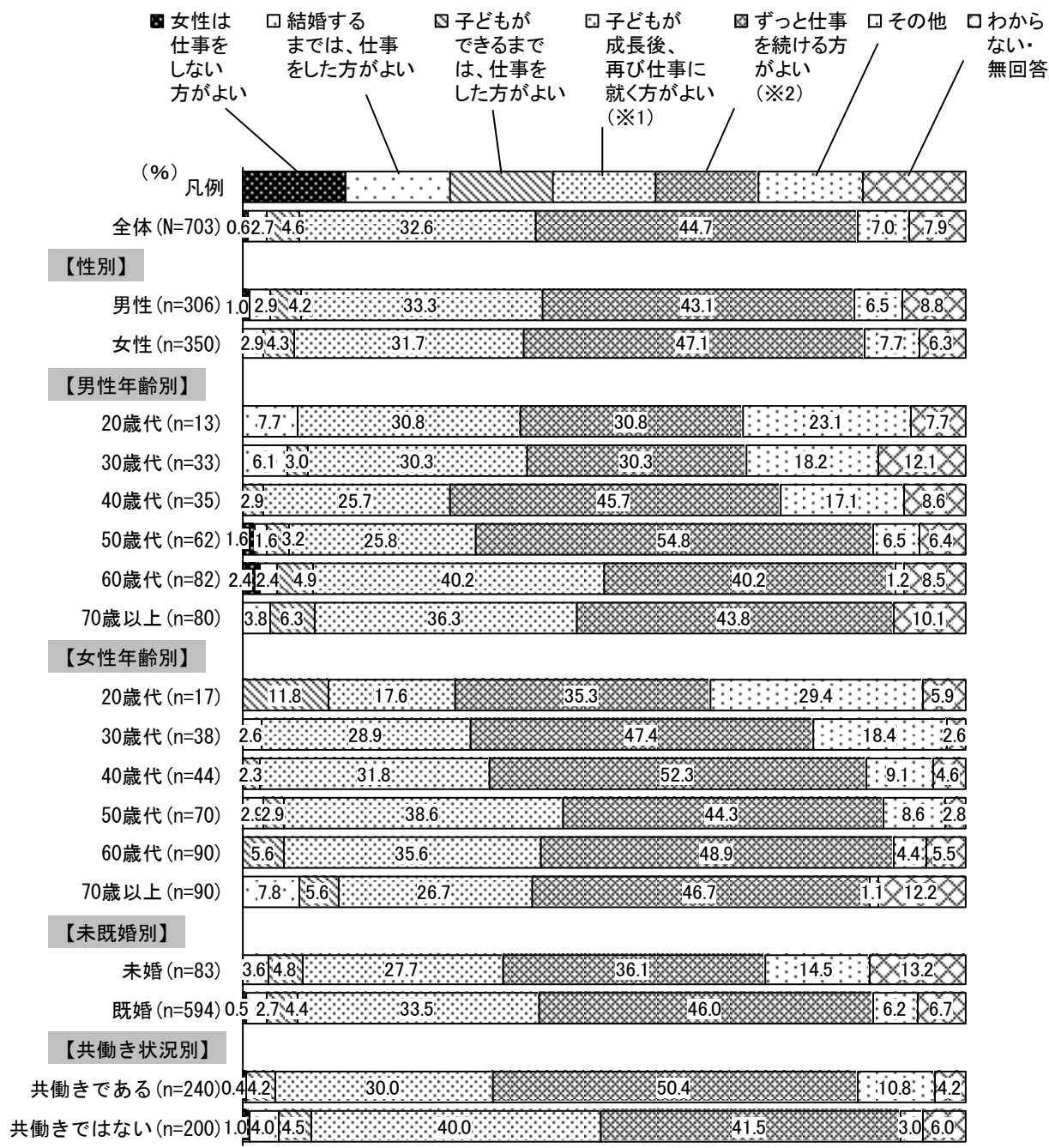
女性が仕事をする事（会社などで働くこと）については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が44.7%と最も高く、「子どもができたなら退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい」が32.6%で続き、その他の回答については、それぞれ割合は低く、両者が主流の考え方となっている。

性別では大きな差は目立たないが、性・年齢別では、男性の場合60歳以上の年齢層において「子どもが成長後、再び仕事に就く方がよい」の割合が高い。女性の場合、特に40歳代で「ずっと仕事を続ける方がよい」、20歳代では「子どもができるまでは、仕事をした方がよい」がそれぞれ高くなっている。また、女性の20歳代では「その他」への回答も多いが、具体的回答（5件）としては次のとおりであった。

- ・個人の自由。
- ・世帯の収入によると思う。
- ・人それぞれだと思う。
- ・人による。どちらでもよい。
- ・夫婦間で決めればよい。

さらに、未既婚別でみると、未婚者の場合は「わからない」回答が多いが、既婚者では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高い。

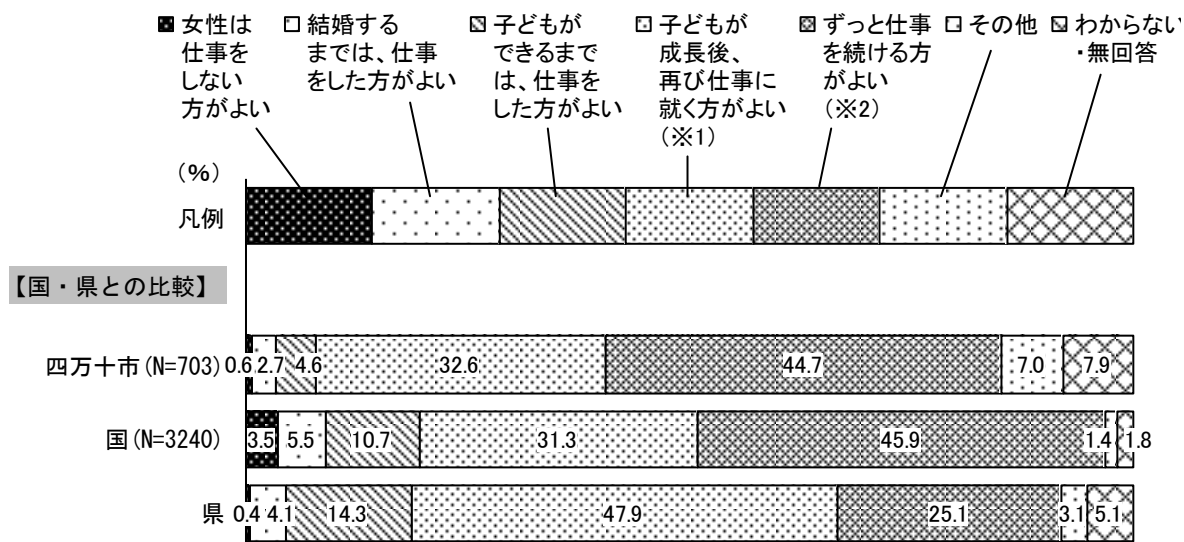
また、共働き世帯ほど「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高い。



※1 子どもができれば退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい
 ※2 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい

【参考／国・県調査との比較】

本市の調査結果に比べ、県の調査結果では「子どもができるまでは、仕事をした方がよい」「子どもができたら退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい」の割合が高く、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が低い。



※1 子どもができたら退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい

※2 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい

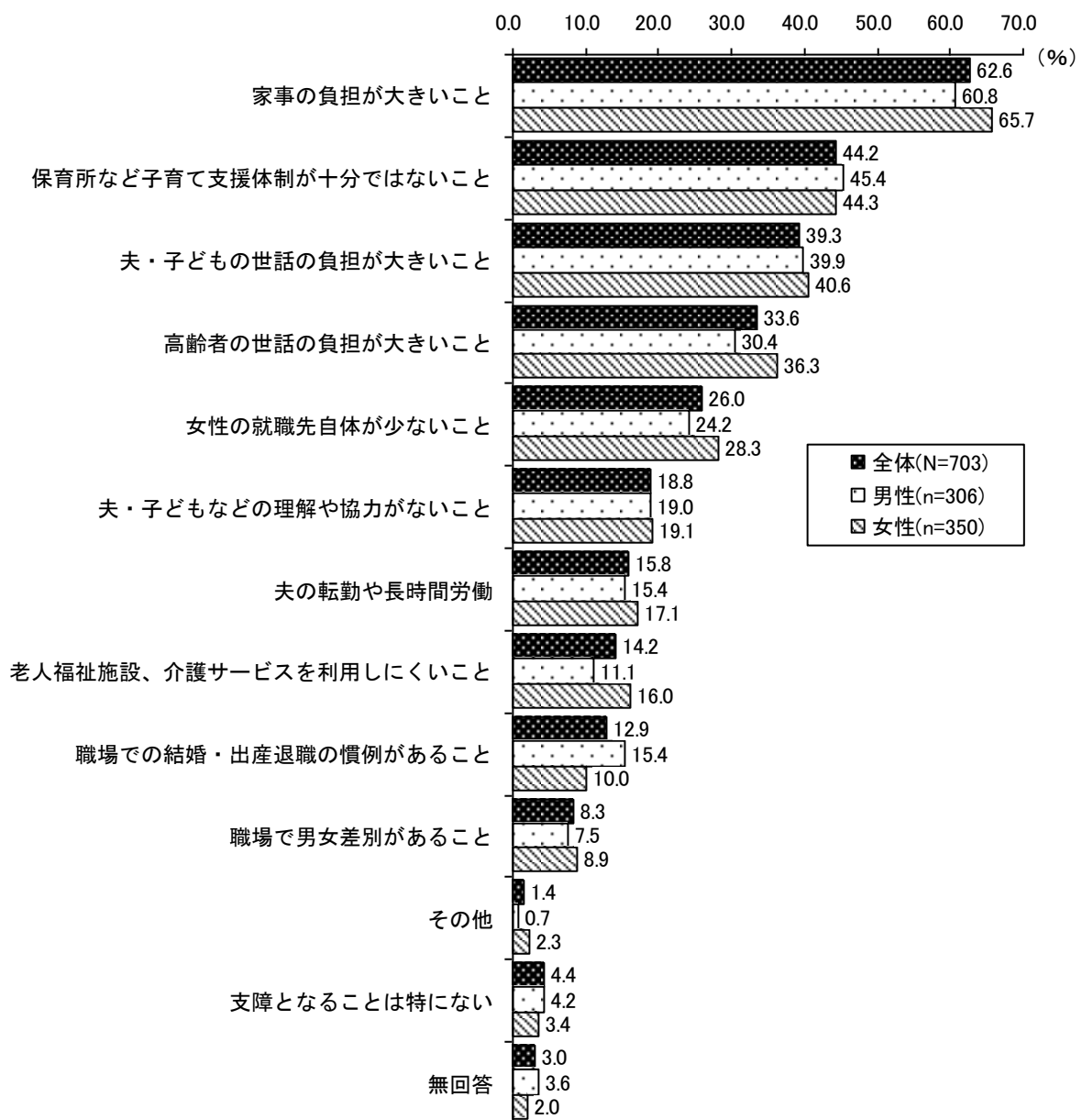
注：国、県の調査と、本市の選択肢の文言に多少の差異があるが、図では同意のものとして比較している。

2. 女性が働く上で支障となると思うこと

問 10. あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。
(○印いくつでも)

女性が働く上で支障となると思うことについては、「家事の負担が大きいこと」の割合が62.6%と最も高く、次いで「保育所など子育て支援体制が十分ではないこと」(44.2%)、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」(39.3%)、「高齢者の世話の負担が大きいこと」(33.6%)、「女性の就職先自体が少ないこと」(26.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「職場での結婚・出産退職の慣例があること」などの割合が高く、女性は「家事の負担が大きいこと」「高齢者の世話の負担が大きいこと」「老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと」などで男性を上回っている。



性・年齢別では、特に男性の40歳代で「夫・子どもなどの理解や協力がいないこと」「夫の転勤や長時間労働」の割合が高く、女性では特に20～30歳代で「職場での結婚・出産退職の慣例があること」、30歳代で「保育所など子育て支援体制が十分ではないこと」「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」「女性の就職先自体が少ないこと」などが他の年齢層に比べ高くなっている。また、年齢が上がるほど「老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと」などが増える傾向にある。

単位(%)		家事の負担が大きいこと	保育所など子育て支援体制が十分ではないこと	夫・子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者の世話の負担が大きいこと	女性の就職先自体が少ないこと	夫・子どもなどの理解や協力がいないこと	夫の転勤や長時間労働	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	職場での結婚・出産退職の慣例があること	職場で男女差別があること	その他	支障となることは特にな
全体(N=703)		62.6	44.2	39.3	33.6	26.0	18.8	15.8	14.2	12.9	8.3	1.4	4.4
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	69.2	53.8	38.5	15.4	23.1	30.8	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	0.0
	男性30歳代(n=33)	39.4	42.4	48.5	12.1	18.2	21.2	27.3	0.0	21.2	6.1	0.0	6.1
	男性40歳代(n=35)	68.6	37.1	42.9	25.7	25.7	31.4	34.3	11.4	25.7	11.4	2.9	2.9
	男性50歳代(n=62)	58.1	54.8	38.7	38.7	24.2	22.6	19.4	9.7	21.0	9.7	1.6	3.2
	男性60歳代(n=82)	69.5	46.3	37.8	31.7	26.8	19.5	8.5	12.2	13.4	8.5	0.0	3.7
	男性70歳以上(n=80)	58.8	40.0	38.8	35.0	23.8	7.5	8.8	16.3	6.3	2.5	0.0	6.3
	女性20歳代(n=17)	47.1	47.1	41.2	11.8	23.5	11.8	5.9	5.9	29.4	5.9	0.0	11.8
	女性30歳代(n=38)	71.1	63.2	50.0	23.7	47.4	28.9	28.9	7.9	26.3	18.4	2.6	2.6
	女性40歳代(n=44)	72.7	43.2	38.6	22.7	15.9	27.3	25.0	15.9	6.8	13.6	2.3	2.3
	女性50歳代(n=70)	70.0	51.4	44.3	47.1	27.1	21.4	17.1	12.9	7.1	10.0	2.9	1.4
	女性60歳代(n=90)	66.7	41.1	40.0	43.3	30.0	17.8	17.8	17.8	5.6	7.8	2.2	1.1
	女性70歳以上(n=90)	60.0	34.4	35.6	37.8	26.7	12.2	10.0	22.2	7.8	3.3	2.2	5.6

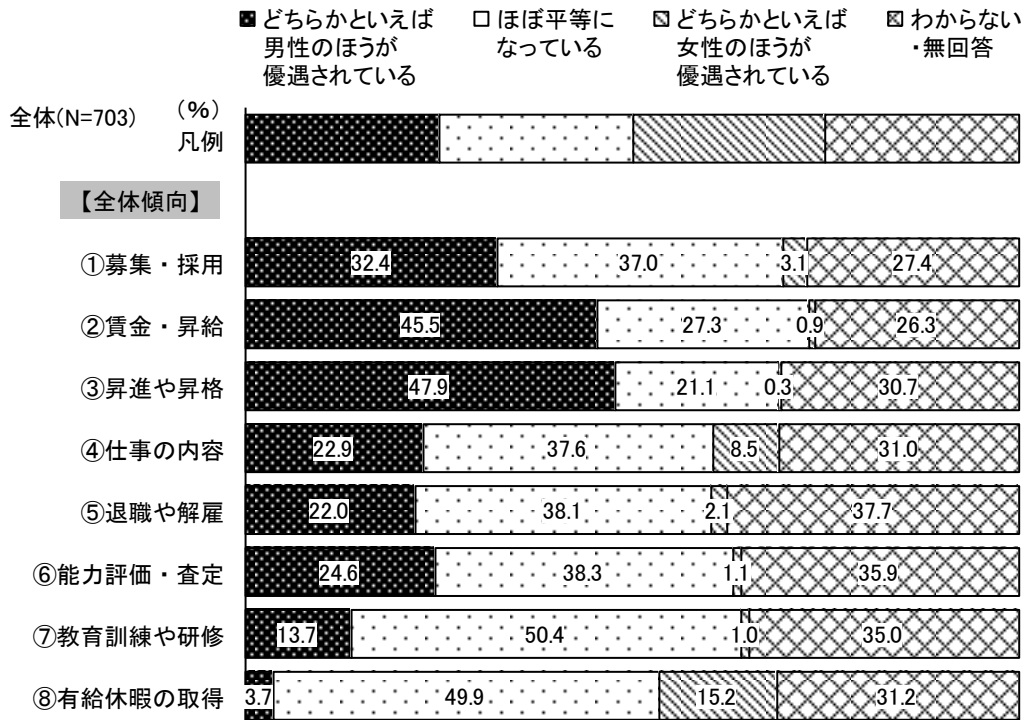
3. 職場における男女の扱いについて

問 11. 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

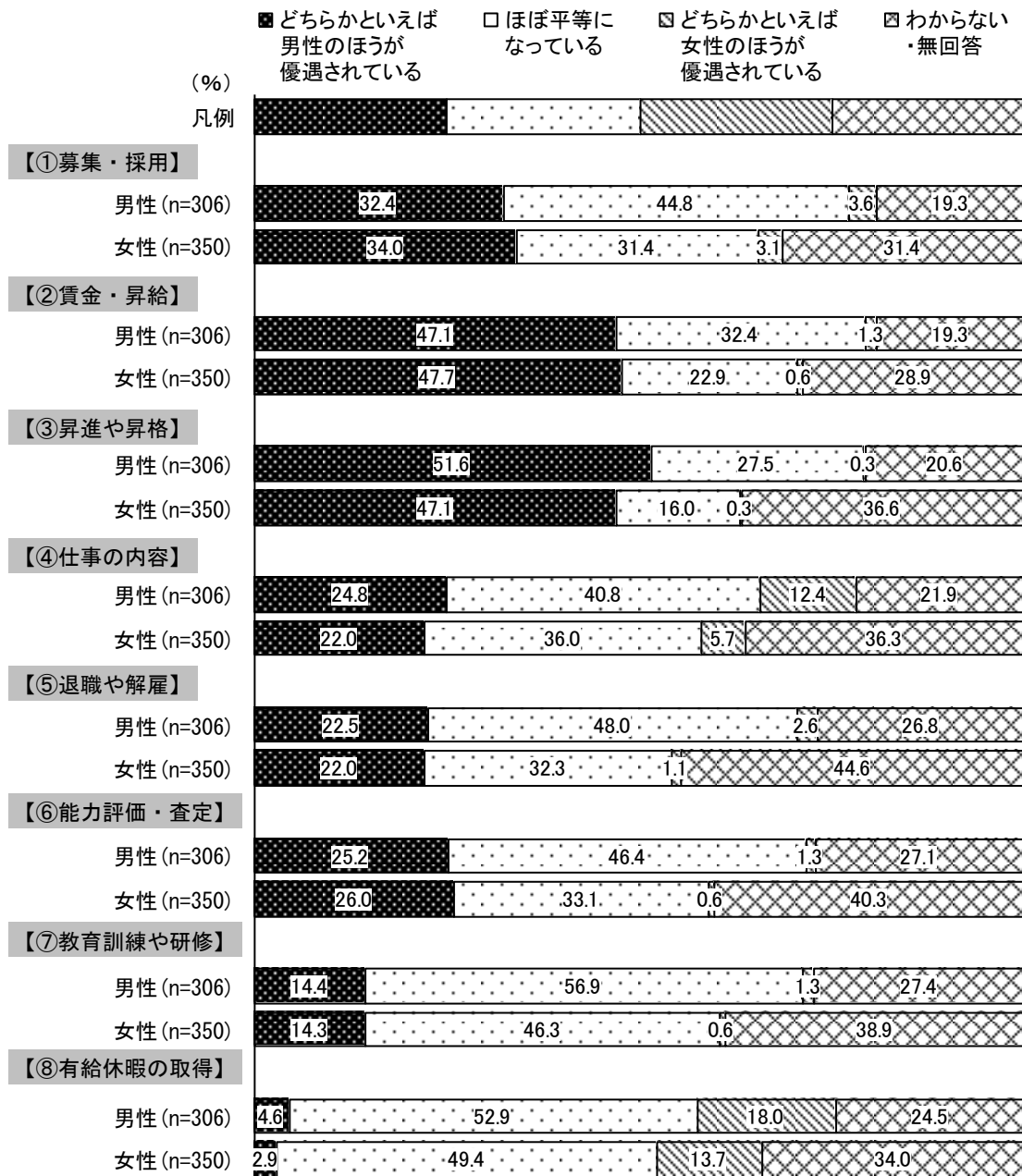
職場における男女の扱いについて、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を高い順にみると、「③昇進や昇格」が47.9%で最も高く、次いで「②賃金・昇給」(45.5%)、「①募集・採用」(32.4%)となっている。

「ほぼ平等になっている」については、「⑦教育訓練や研修」(50.4%)、「⑧有給休暇の取得」(49.9%)などが比較的高い割合となっている。

一方、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」への回答については、「⑧有給休暇の取得」(15.2%)、「④仕事の内容」(8.5%)などがあげられるが、いずれもその割合は相対的に低い。



性別では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の回答については、各項目ともに大きな男女差は目立たないが、「ほぼ平等になっている」の回答については、全ての項目で男性の方が女性を上回っている。また男性は「④仕事の内容」「⑧有給休暇の取得」などで「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」割合が女性を上回っている。



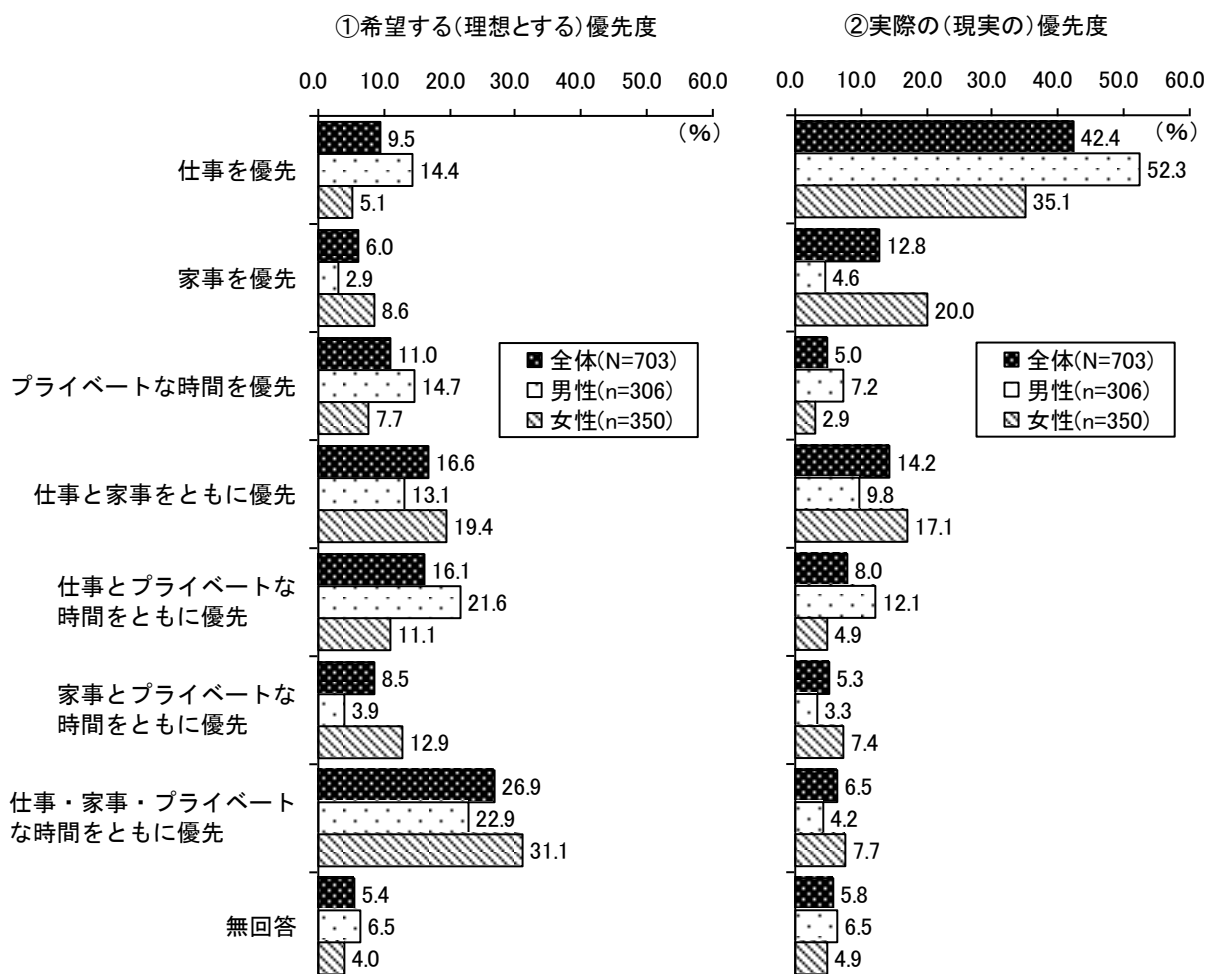
4. 日常生活の理想と現実について

問 12. 日常生活における、仕事・家事（育児含む）・プライベートな時間（趣味や地域活動など）のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度をお答えください。また、②実際の（現実の）優先度をお答えください。（〇印1つずつ）

①希望する（理想とする）優先度については、「仕事・家事・プライベートな時間をともに優先」が 26.9%で最も高く、次いで「仕事と家事をともに優先」（16.6%）、「仕事とプライベートな時間をともに優先」（16.1%）の順となっている。

一方、②実際の（現実の）優先度については、「仕事を優先」が 42.4%と突出して高くなっており、次いで「仕事と家事をともに優先」（14.2%）、「家事を優先」（12.8%）などが続いている。

性別では、①希望する（理想とする）優先度では、男性は女性に比べ「仕事とプライベートな時間をともに優先」、女性は「家事とプライベートな時間をともに優先」の割合がそれぞれ高い点で差がみられる。②実際の（現実の）優先度では、男性は「仕事を優先」、女性は「家事を優先」の割合がそれぞれ高く、男女ともに理想と現実では、大きな乖離がみられる。

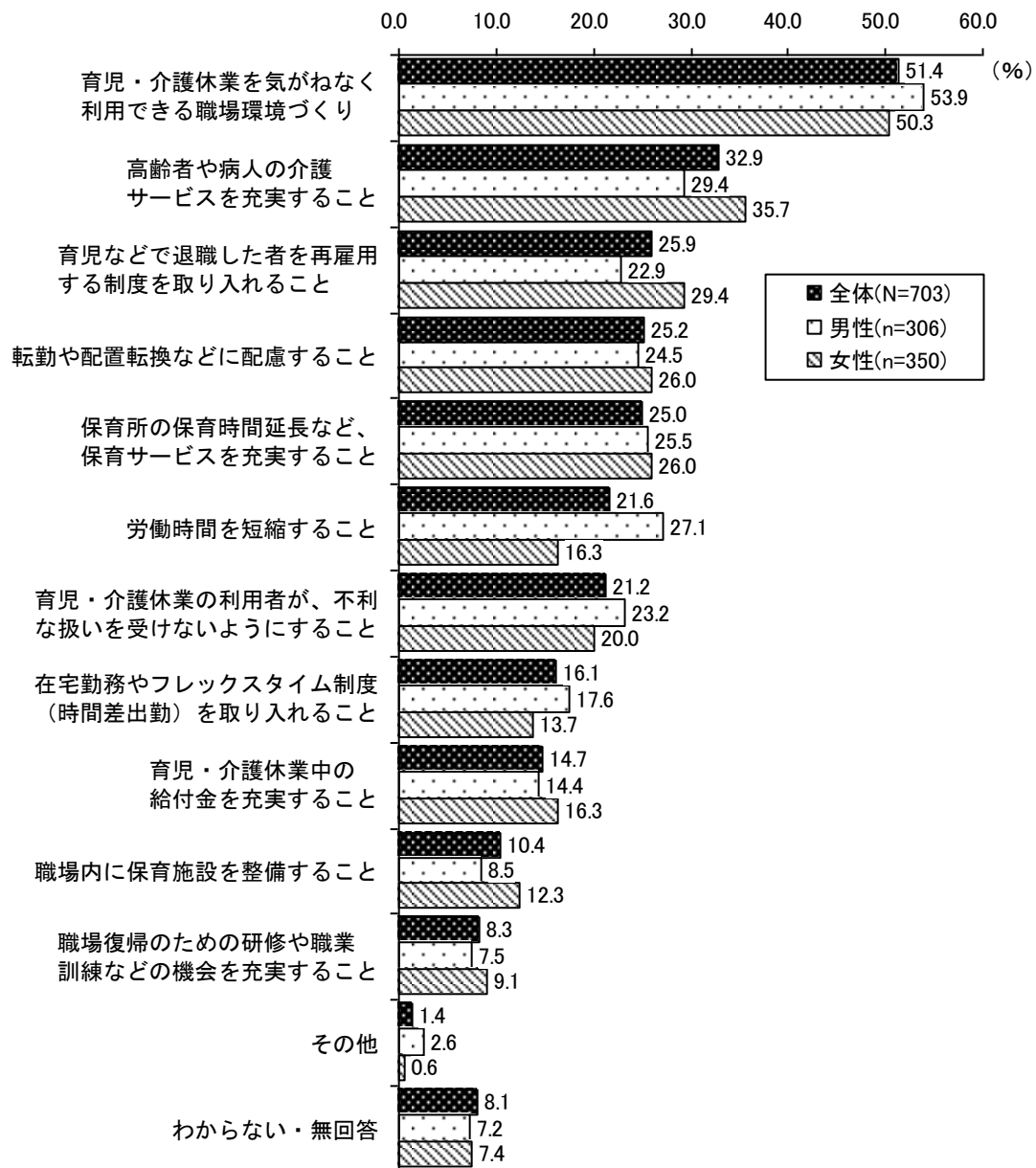


5. 仕事と家庭の両立に必要と思うこと

問 13. 男女がともに、仕事と家庭の両立をし続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

仕事と家庭の両立に必要と思うことについては、「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」(32.9%)、「育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること」(25.9%)、「転勤や配置転換などに配慮すること」(25.2%)、「保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること」(25.0%) の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「労働時間を短縮すること」、女性は「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」「育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること」などで男性との差がみられる。



性・年齢別では、特に男性 20 歳代で「育児・介護休業の利用者が、不利な扱いを受けないようにすること」「育児・介護休業中の給付金を充実すること」などの割合が高く、女性は 20～30 歳代で「保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること」、年齢が上がるほど「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」などが増える傾向にある。

単位 (%)	育児・介護休業を利用できる職場環境がね	高齢者や病人の介護サービス	再雇用などでの退職を取り入る	再雇用などでの退職を取り入る	転勤や配置転換などに配慮すること	保育所の保育時間を延長など、保育サービスを充実すること	労働時間を短縮すること	育児・介護休業の利用者が不利な扱いを受けないようにすること	在宅勤務やフレックスタイトム制（時間差出勤）を取り入れること	育児・介護休業中の給付金を充実すること	職場内に保育施設を整備すること
全体(N=703)	51.4	32.9	25.9	25.2	25.0	21.6	21.2	16.1	14.7	10.4	
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	61.5	15.4	15.4	7.7	23.1	30.8	38.5	23.1	30.8	0.0
	男性30歳代(n=33)	51.5	12.1	24.2	24.2	42.4	30.3	12.1	18.2	9.1	12.1
	男性40歳代(n=35)	62.9	22.9	25.7	25.7	25.7	34.3	22.9	22.9	8.6	14.3
	男性50歳代(n=62)	59.7	24.2	27.4	24.2	32.3	22.6	27.4	22.6	21.0	1.6
	男性60歳代(n=82)	52.4	35.4	26.8	22.0	25.6	24.4	18.3	19.5	14.6	9.8
	男性70歳以上(n=80)	47.5	38.8	15.0	30.0	13.8	28.8	27.5	8.8	11.3	10.0
	女性20歳代(n=17)	52.9	11.8	29.4	23.5	41.2	5.9	23.5	5.9	23.5	17.6
	女性30歳代(n=38)	60.5	5.3	26.3	21.1	47.4	21.1	21.1	26.3	26.3	23.7
	女性40歳代(n=44)	61.4	36.4	20.5	22.7	34.1	22.7	18.2	18.2	22.7	13.6
	女性50歳代(n=70)	60.0	38.6	40.0	20.0	28.6	11.4	15.7	17.1	15.7	5.7
	女性60歳代(n=90)	50.0	44.4	27.8	28.9	21.1	16.7	21.1	11.1	12.2	14.4
女性70歳以上(n=90)	33.3	41.1	28.9	32.2	13.3	16.7	22.2	7.8	12.2	8.9	

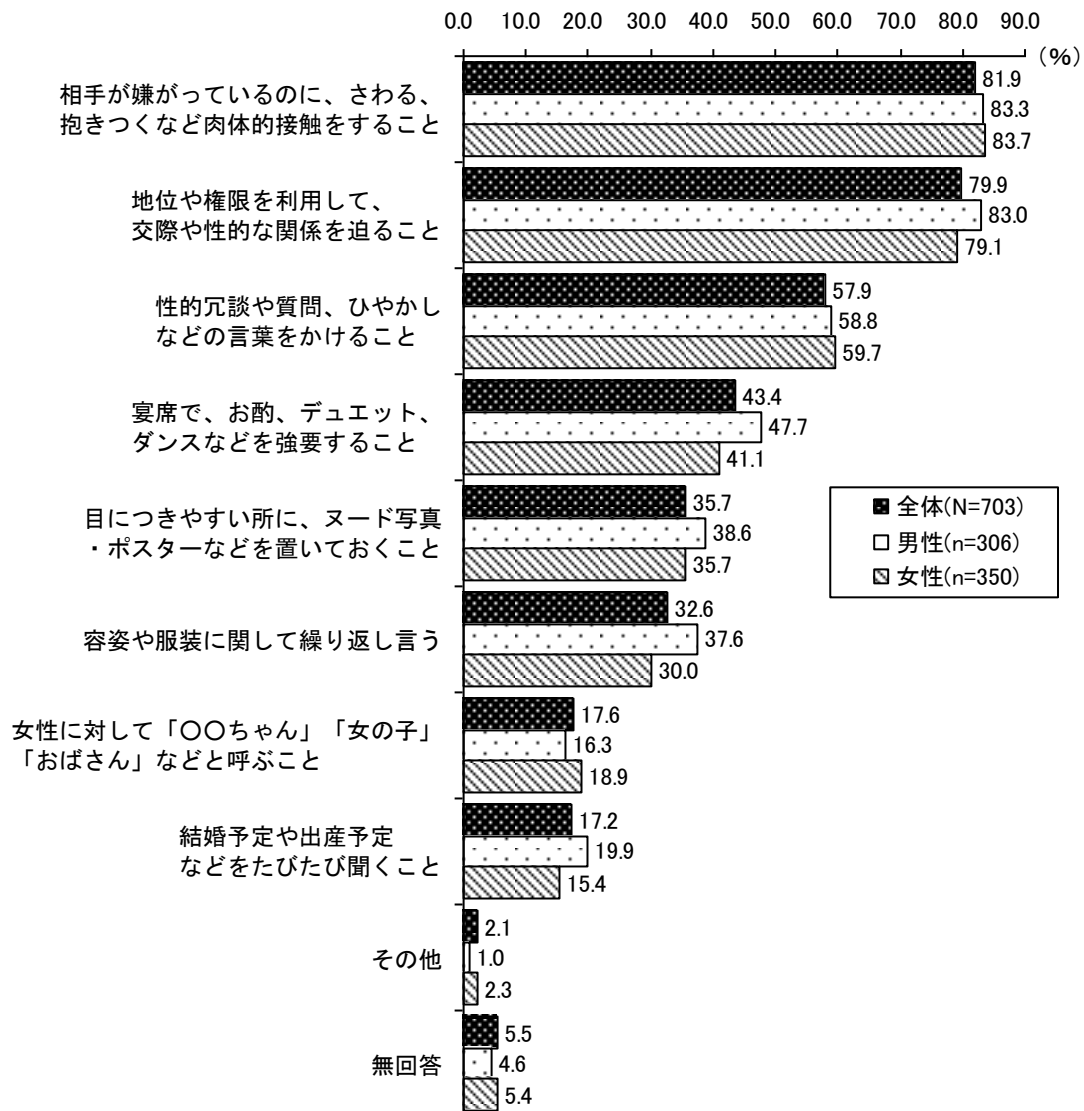
単位 (%)	実職場での研修などの機会を充実	その他	わからない	
全体(N=703)	8.3	1.4	6.4	
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	0.0	0.0	7.7
	男性30歳代(n=33)	6.1	9.1	3.0
	男性40歳代(n=35)	2.9	5.7	2.9
	男性50歳代(n=62)	6.5	3.2	4.8
	男性60歳代(n=82)	9.8	0.0	2.4
	男性70歳以上(n=80)	10.0	1.3	11.3
	女性20歳代(n=17)	5.9	0.0	0.0
	女性30歳代(n=38)	7.9	0.0	0.0
	女性40歳代(n=44)	6.8	2.3	2.3
	女性50歳代(n=70)	11.4	0.0	1.4
	女性60歳代(n=90)	12.2	1.1	3.3
女性70歳以上(n=90)	6.7	0.0	17.8	

6. セクシュアル・ハラスメントとと思う行為

問 14. セクシュアル・ハラスメント（性的な嫌がらせ）が近年問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。（○印いくつでも）

セクシュアル・ハラスメントとと思う行為については、「相手が嫌がっているのに、さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」の割合が 81.9%と最も高く、ほぼ並んで「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」が 79.9%で続いている。以下「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」（57.9%）、「宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」（43.4%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」「容姿や服装に関して繰り返し言う」などの割合が高く、女性は「女性に対して〇〇ちゃん、女の子、おばさんなどと呼ぶこと」などが男性をやや上回る。

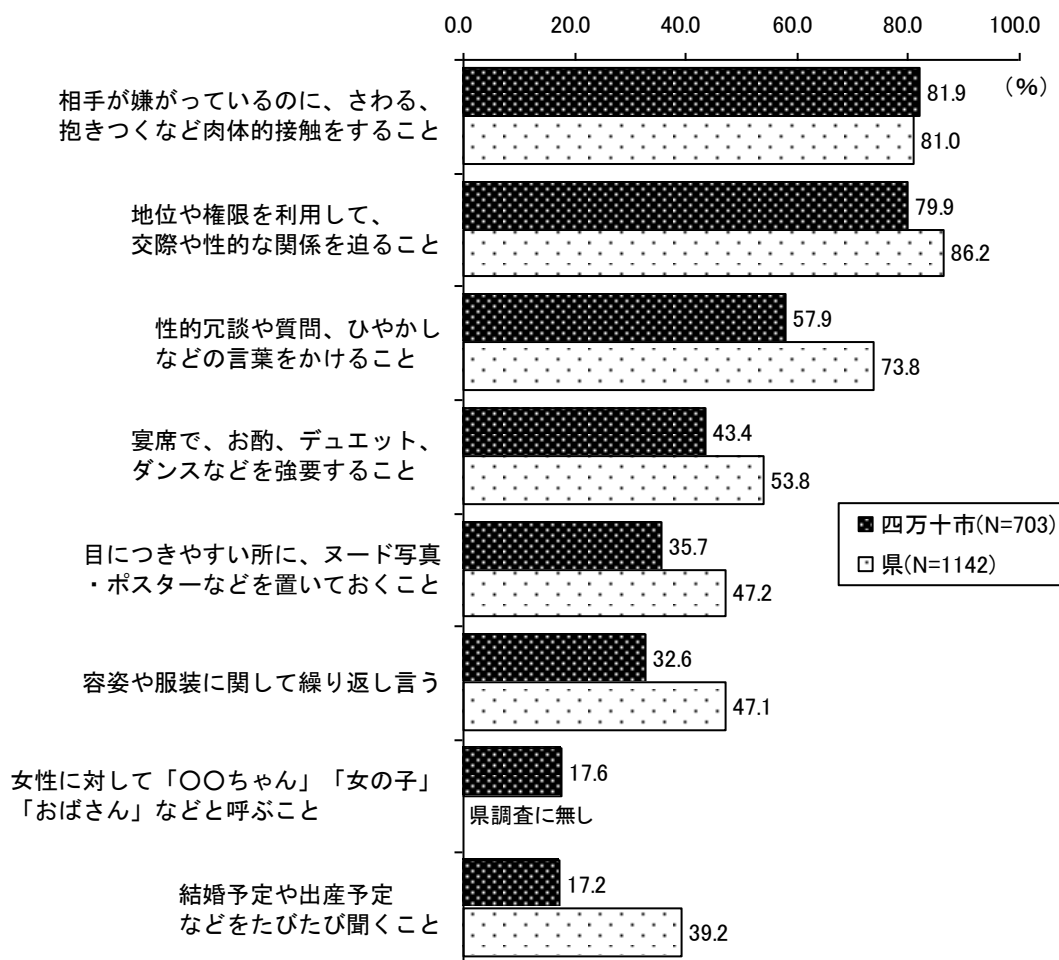


性・年齢別でみると、特に女性の30歳代において「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」「目につきやすい所に、ヌード写真・ポスターなどを置いておくこと」などで他の年齢層を上回っている。

単位(%)	どに相 肉、手 体さが 体的わ 接るが 触、っ をを抱 すきる ことな	こ交地 と際位 やや 性的権 限を利 用して 迫る、	とし性 的の冗 談や質 問か、 けひ るか	るト宴 こと、 で、 ダンス など、 デュ エツ	どを又 を置ド いて写 おく真 こと・ ポ スター な	目につ きやす い所 に、	返容 し姿 言や う服 装に 関し て繰 り	んん女 「」性 「」に 「」対 「」し 「」て 「」お 「」お 「」ば 「」ち 「」さ や	を結 婚予 定や 出産 予定 など	そ の 他
全体(N=703)	81.9	79.9	57.9	43.4	35.7	32.6	17.6	17.2	2.1	
性・ 年 齢 別	男性20歳代(n=13)	92.3	69.2	46.2	46.2	53.8	30.8	0.0	23.1	0.0
	男性30歳代(n=33)	90.9	81.8	66.7	54.5	45.5	60.6	24.2	30.3	0.0
	男性40歳代(n=35)	88.6	91.4	74.3	62.9	57.1	48.6	28.6	34.3	2.9
	男性50歳代(n=62)	96.8	85.5	71.0	61.3	50.0	61.3	27.4	32.3	1.6
	男性60歳代(n=82)	79.3	81.7	56.1	45.1	36.6	26.8	11.0	14.6	0.0
	男性70歳以上(n=80)	70.0	81.3	43.8	31.3	18.8	17.5	7.5	5.0	1.3
	女性20歳代(n=17)	94.1	88.2	52.9	47.1	29.4	29.4	11.8	17.6	5.9
	女性30歳代(n=38)	97.4	94.7	73.7	44.7	65.8	44.7	21.1	31.6	0.0
	女性40歳代(n=44)	90.9	84.1	54.5	38.6	25.0	34.1	18.2	15.9	2.3
	女性50歳代(n=70)	85.7	87.1	65.7	54.3	44.3	41.4	21.4	21.4	2.9
	女性60歳代(n=90)	88.9	80.0	60.0	36.7	31.1	24.4	17.8	13.3	1.1
女性70歳以上(n=90)	66.7	62.2	53.3	34.4	27.8	18.9	18.9	5.6	3.3	

【参考／県調査との比較】

本市の調査に対して、県では「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」「容姿や服装に関して繰り返し言う」「目につきやすい所に、ヌード写真・ポスターなどを置いておくこと」「結婚予定や出産予定などをたびたび聞くこと」などで大きく上回っているが、傾向としては、ほぼ近い状況を示している。



注:「その他」「無回答」は省略している。

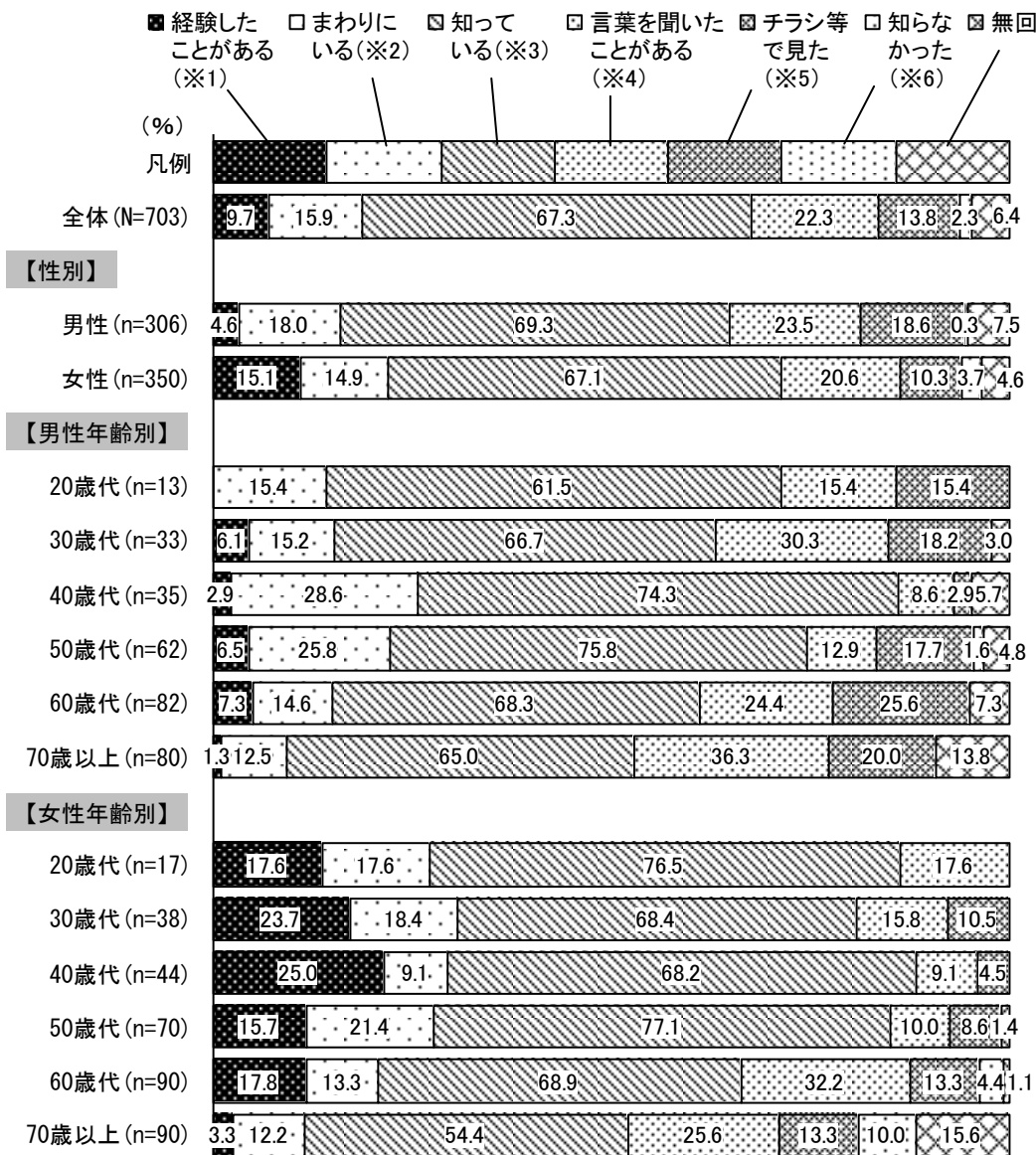
7. セクシュアル・ハラスメントの経験

問 15. あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（性的な嫌がらせ）を経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（〇印いくつでも）

セクシュアル・ハラスメントの経験については、「一般的な知識として知っている」の割合が67.3%と最も高く、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が22.3%で続き、「自分が直接経験したことがある」割合は9.7%であった。

性別では、女性の15.1%が「自分が直接経験したことがある」と回答している。

年齢別では、「自分が直接経験したことがある」割合は、女性の場合20歳代から40歳代にかけて増える傾向にあり、特に40歳代では25.0%と4人に1人の割合となっている。



- ※1 自分が直接経験したことがある
- ※2 自分のまわりに経験した人がいる
- ※3 一般的な知識として知っている
- ※4 くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
- ※5 チラシやパンフレットなどで見たことがある
- ※6 セクシュアル・ハラスメントのことを全く知らなかった

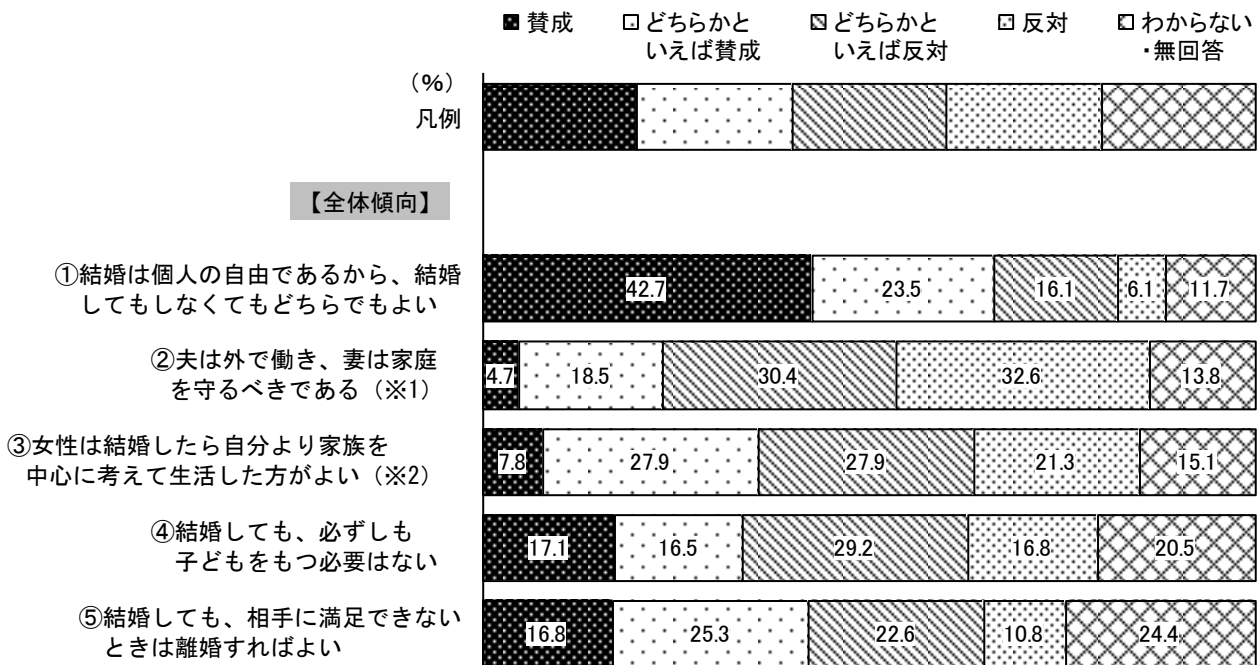
【3】家庭生活と男女の役割について

1. 結婚と家庭に関する考え方

問 16. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。
①から⑤のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

結婚と家庭に関する考え方については、「賛成」の割合が高い順に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(42.7%)、「④結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」(17.1%)、「⑤結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」(16.8%)となっている。

逆に「反対」の割合が高い順では、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)」(32.6%)、「③女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」(21.3%)となっている。



※1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

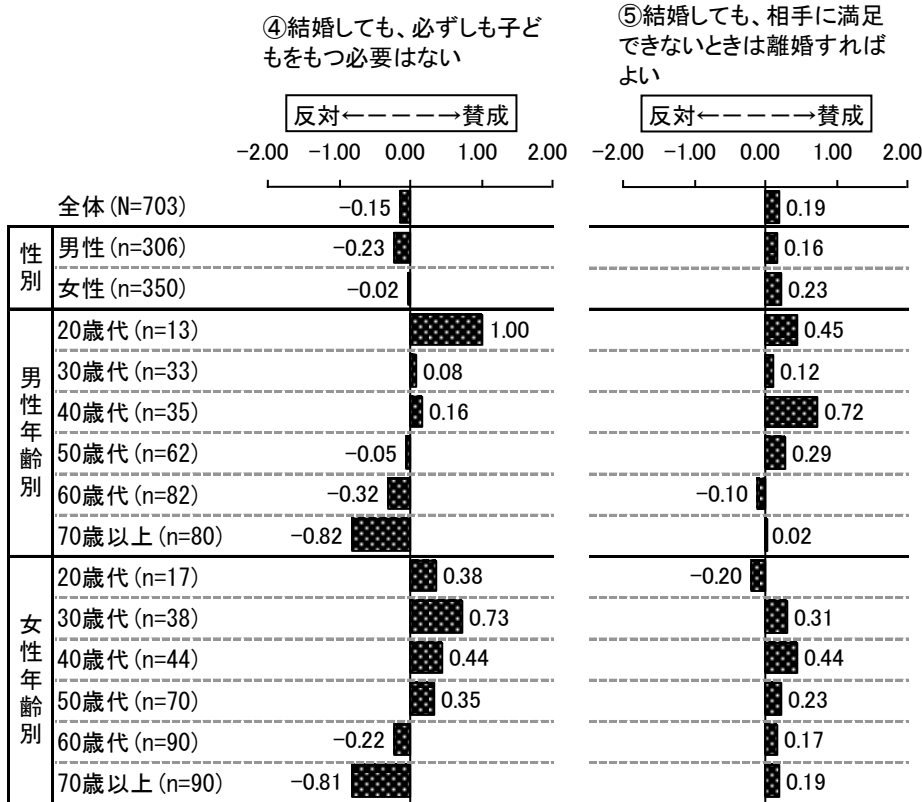
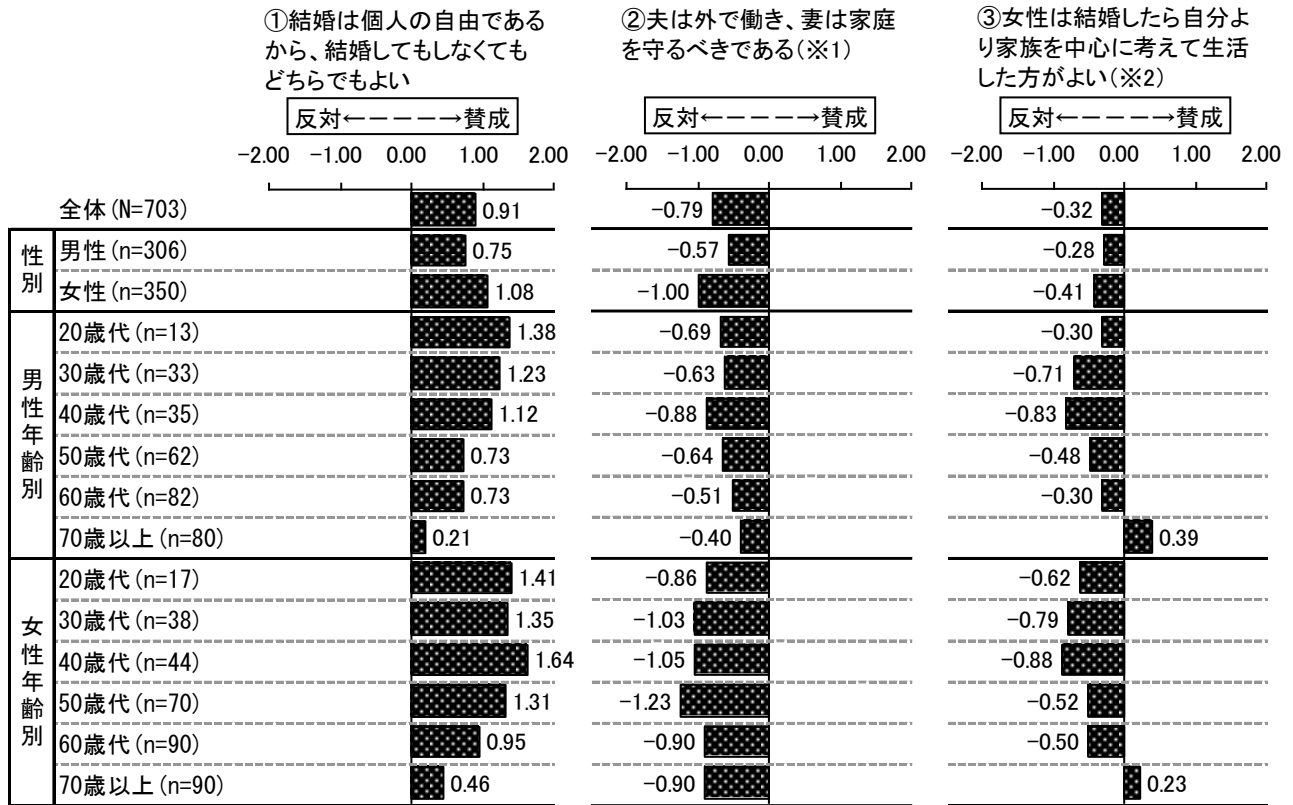
※2 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

加重平均値による属性別傾向をみると、性別では、特に女性で賛成意識が高いものとして「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」があげられ、逆に反対意識が高いものとして「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)」があげられる。

性・年齢別でみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」については、男性は若い年齢層ほど賛成意識が高く、女性は40歳代で賛成意識が他の年齢層を上回っている。「④結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」では、男女ともに若い年齢層ほど賛成意識が高く、年齢が上がるほど反対意識が高い。

◆加重平均値による属性別傾向◆

加重平均値とは、「反対」に-2点、「どちらかといえば反対」に-1点、「どちらかといえば賛成」に+1点、「賛成」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど反対、+2点に近いほど賛成を示す指標である。

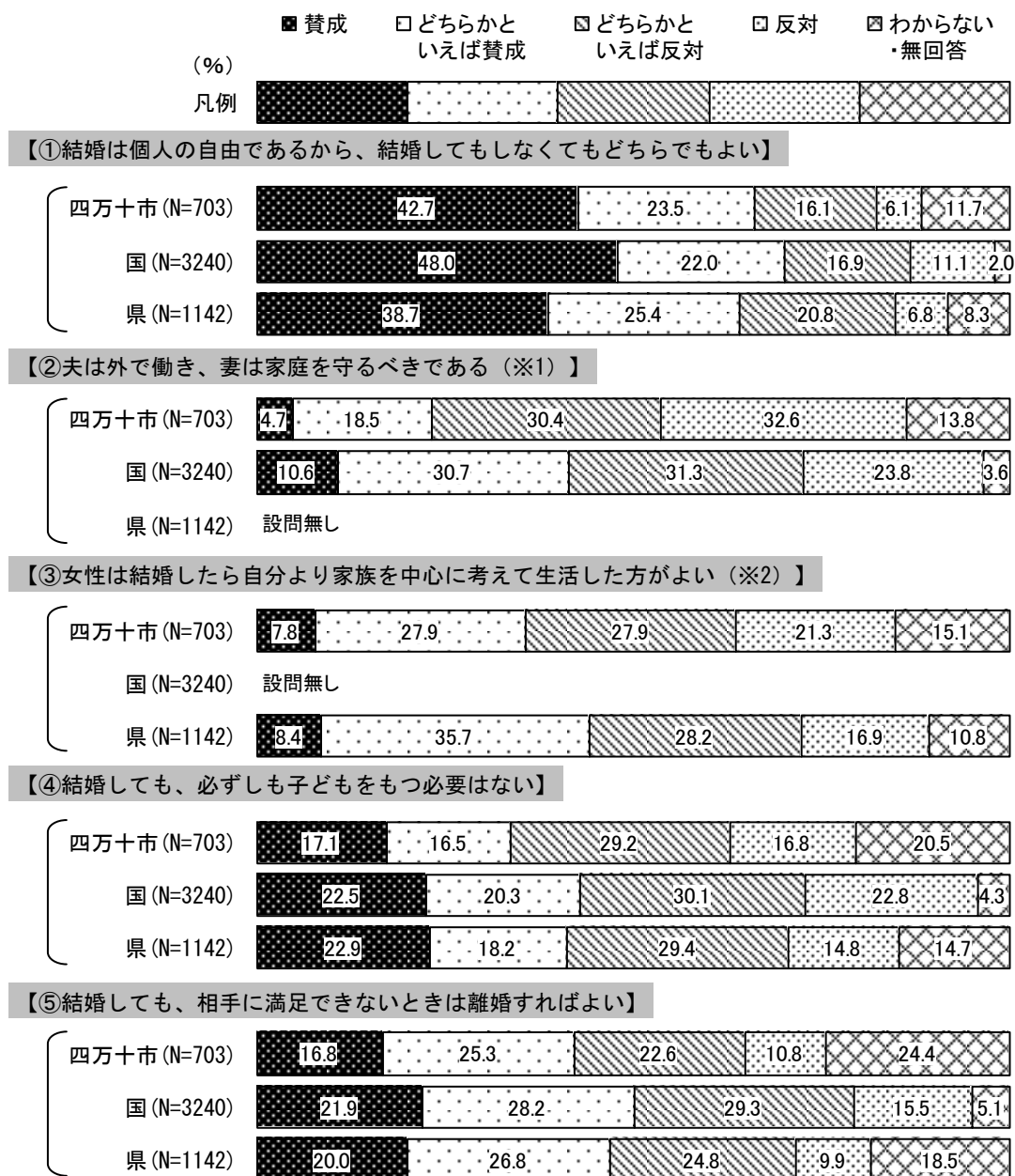


※1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

※2 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

【参考／国・県調査との比較】

国の調査では「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」や「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）」で「賛成」の割合が本市や県をやや上回っているが、各項目ともに顕著な差は目立たない。



※1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

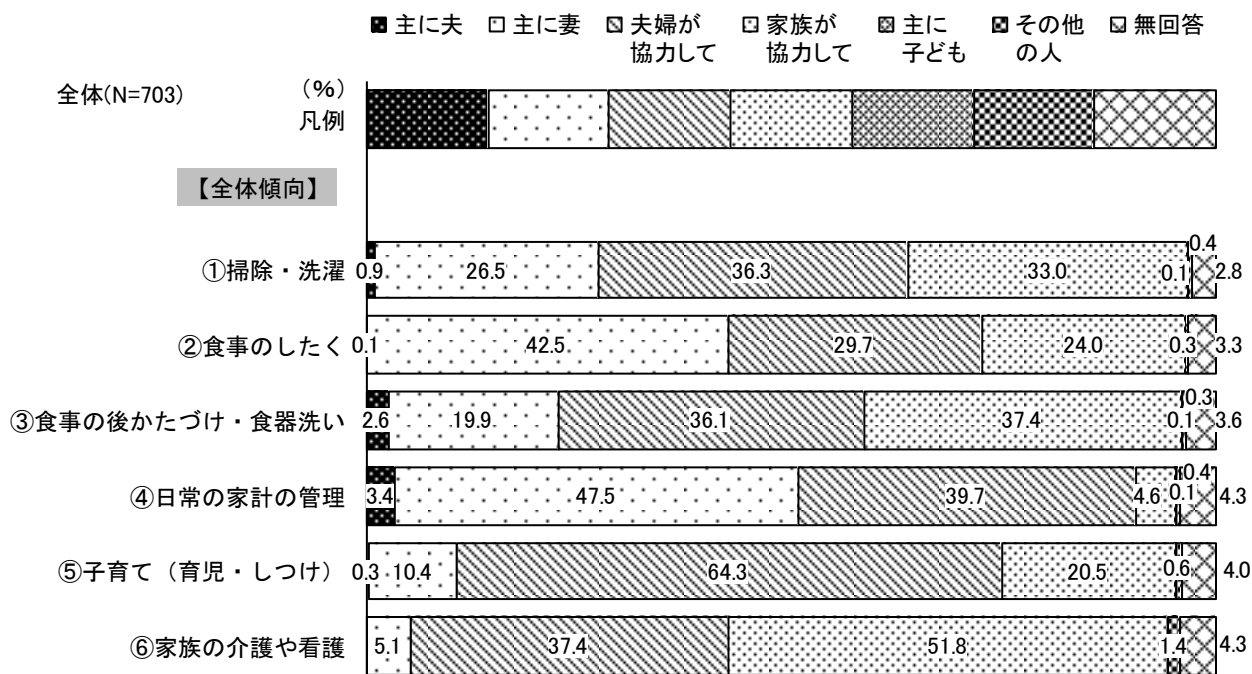
※2 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

2. 家庭内の仕事の分担

(1) 理想とする分担

問 17. あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。①から⑥のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。(〇印1つずつ)

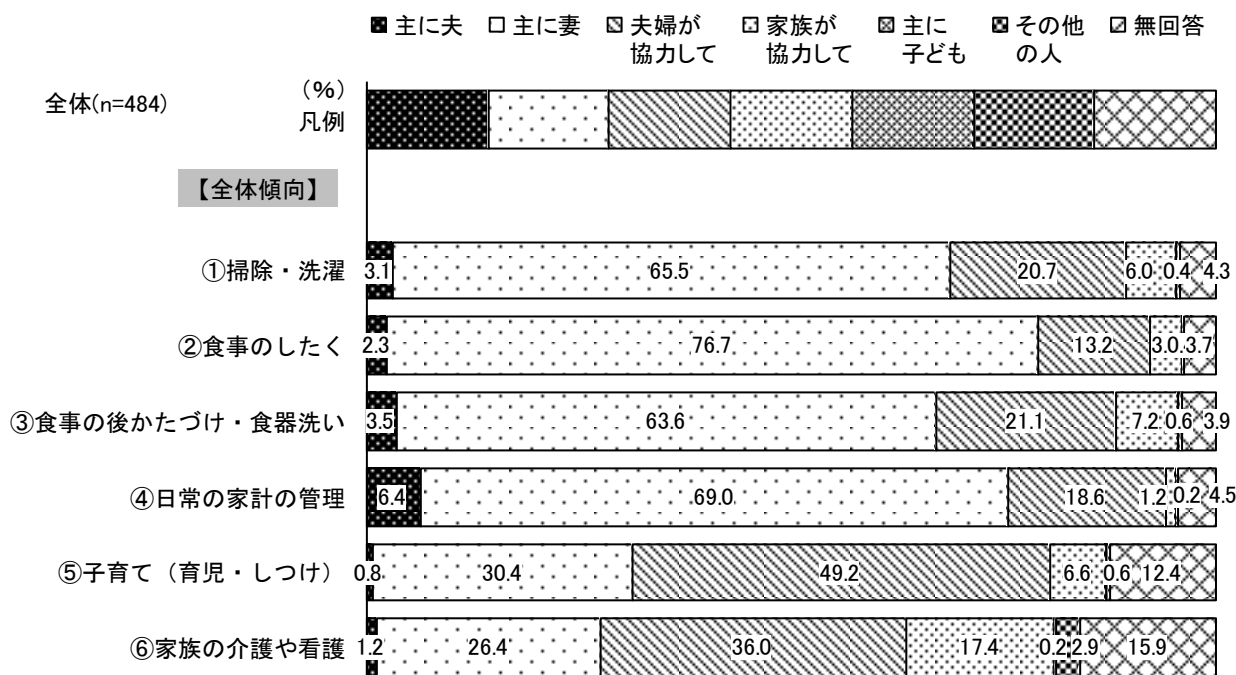
理想とする分担については、「主に夫」への回答は少ない。「主に妻」をみると、割合の高い順に「④日常の家計の管理」(47.5%)、「②食事のしたく」(42.5%)などがあげられる。「夫婦が協力して」では、高い順に「⑤子育て(育児・しつけ)」(64.3%)、「④日常の家計の管理」(39.7%)、「家族が協力して」では「⑥家族の介護や看護」(51.8%)、「③食事の後かたづけ・食器洗い」(37.4%)、「①掃除・洗濯」(33.0%)などの順に理想とされている。



(2) 実際の分担

問 18 (この設問は、問4で「2. 既婚」と回答した方にのみおたずねします。それ以外の方は次の質問にお進みください。) あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。(〇印1つずつ)

実際の分担については、全体的に「主に妻」の割合が高い傾向にあり、高い順に「②食事のしたく」(76.7%)、「④日常の家計の管理」(69.0%)、「①掃除・洗濯」(65.5%)、「③食事の後かたづけ・食器洗い」(63.6%)などがあげられる。一方で「⑤子育て(育児・しつけ)」や「⑥家族の介護や看護」については「家族が協力して」の割合が最も高くなっている。



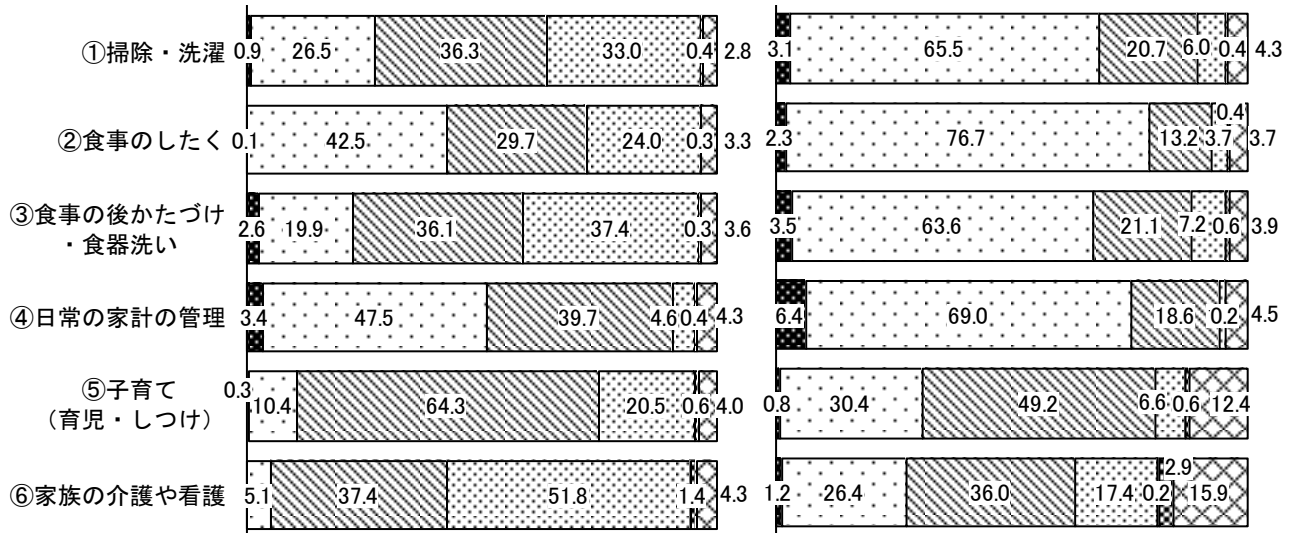
◆理想と現実の比較◆

■主に夫 □主に妻 ▨夫婦が協力して □家族が協力して ▩主に子ども ■その他 □無回答の人



【理想】

【現実(実際)】

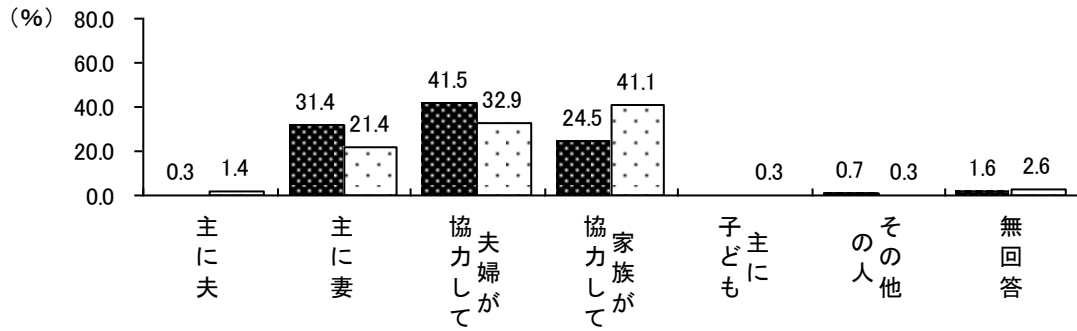


◆理想と現実の比較(性別特性)◆

①掃除・洗濯

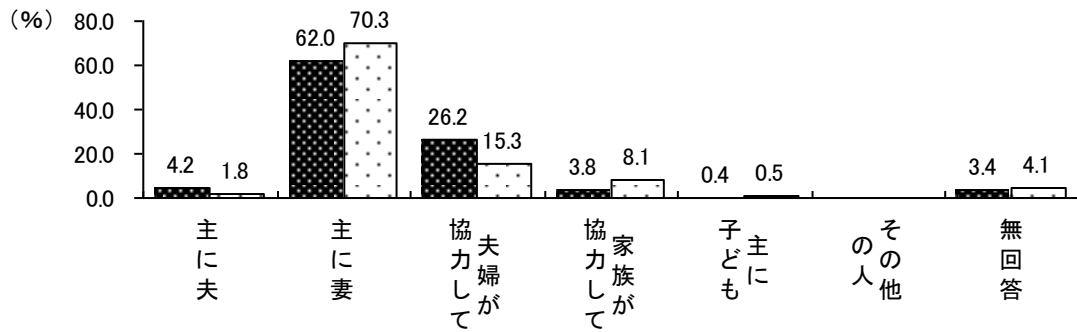
【理想】①掃除・洗濯

■ 男性(n=306) □ 女性(n=350)



【現実】①掃除・洗濯

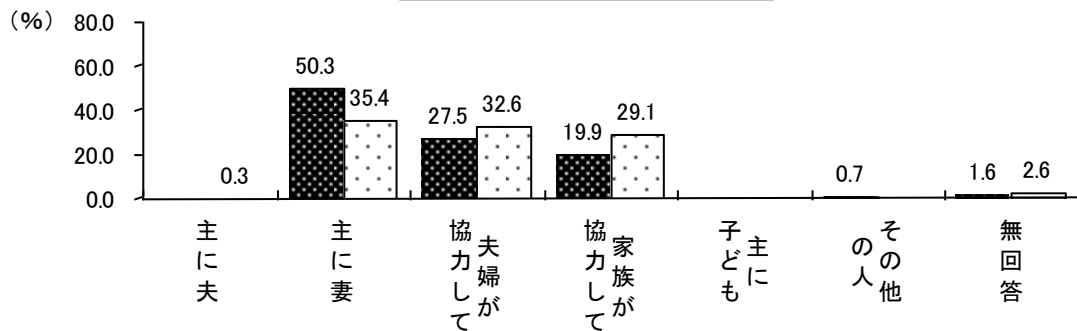
■ 男性(n=237) □ 女性(n=222)



②食事のしたく

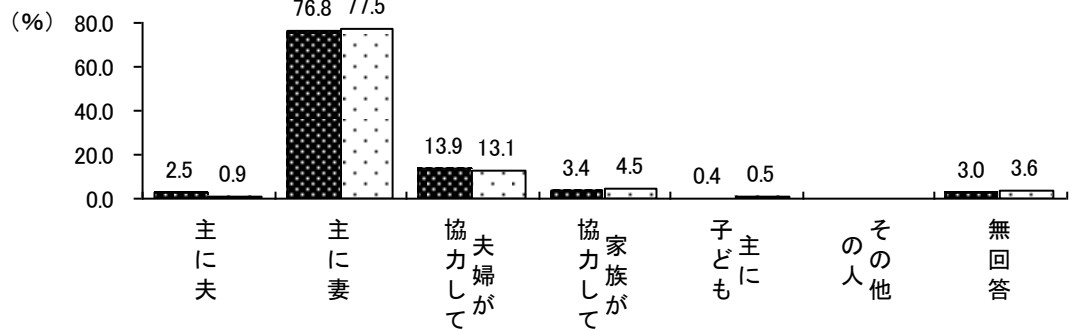
【理想】②食事のしたく

■ 男性(n=306) □ 女性(n=350)



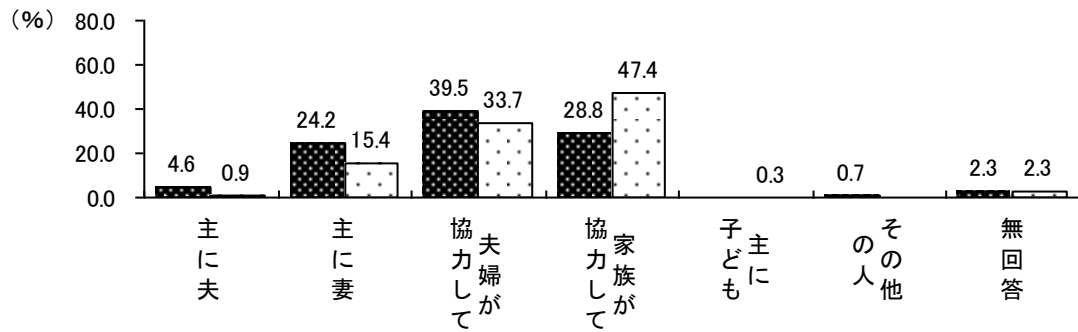
【現実】②食事のしたく

■ 男性(n=237) □ 女性(n=222)

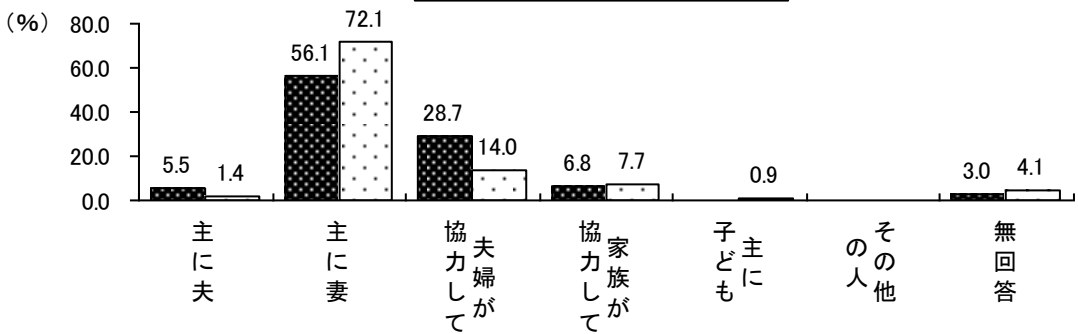


③食事後かたづけ・食器洗い

【理想】③食事後かたづけ・食器洗い ■ 男性(n=306) □ 女性(n=350)

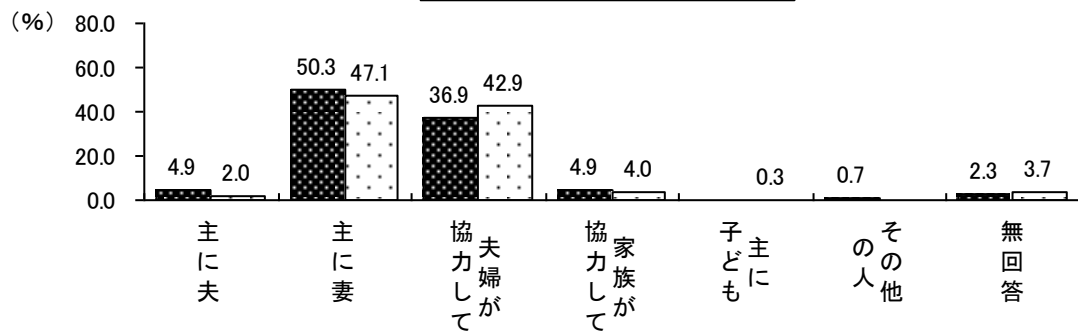


【現実】③食事後かたづけ・食器洗い ■ 男性(n=237) □ 女性(n=222)

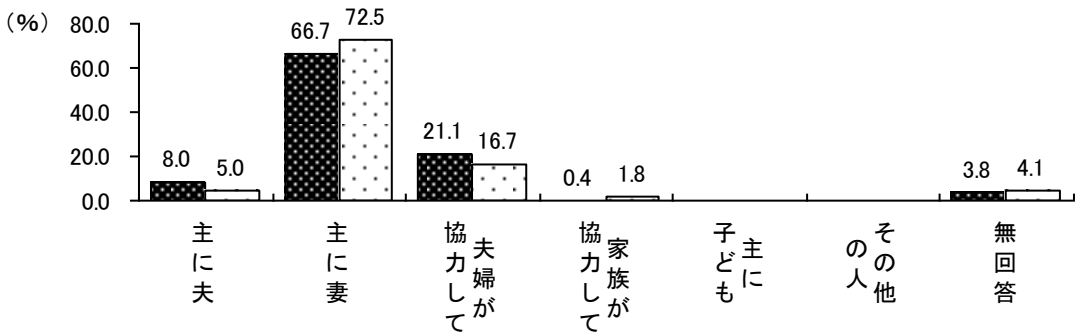


④日常の家計の管理

【理想】④日常の家計の管理 ■ 男性(n=306) □ 女性(n=350)

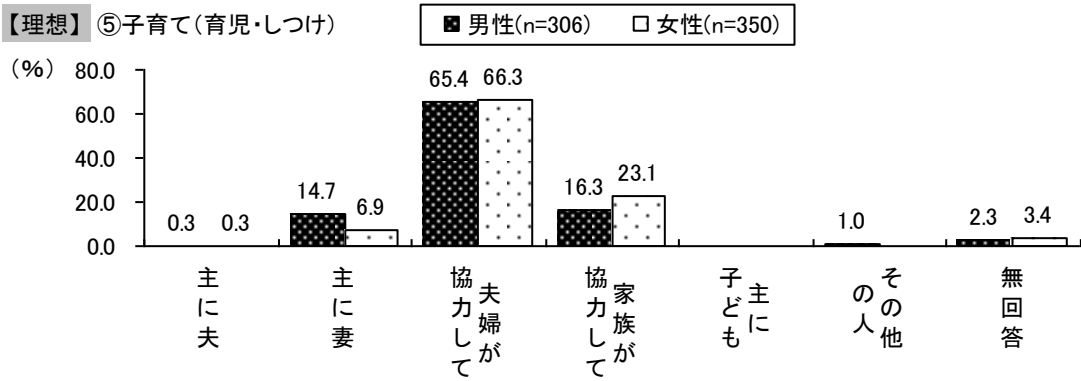


【現実】④日常の家計の管理 ■ 男性(n=237) □ 女性(n=222)

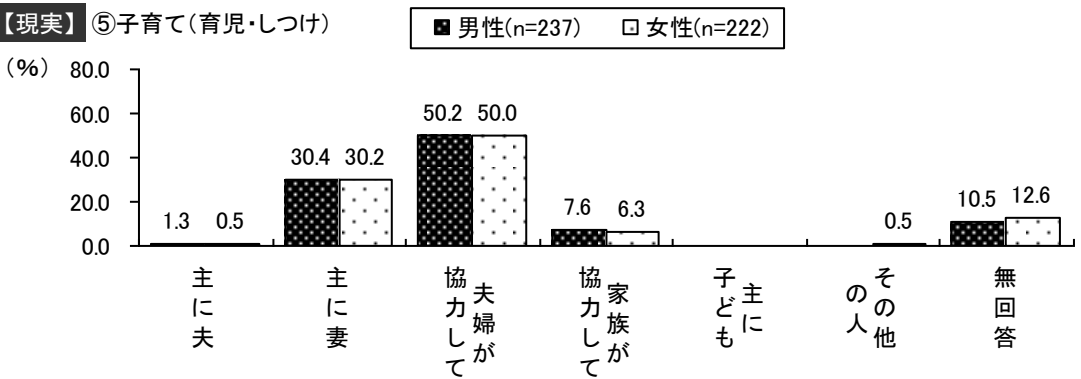


⑤子育て(育児・しつけ)

【理想】⑤子育て(育児・しつけ)

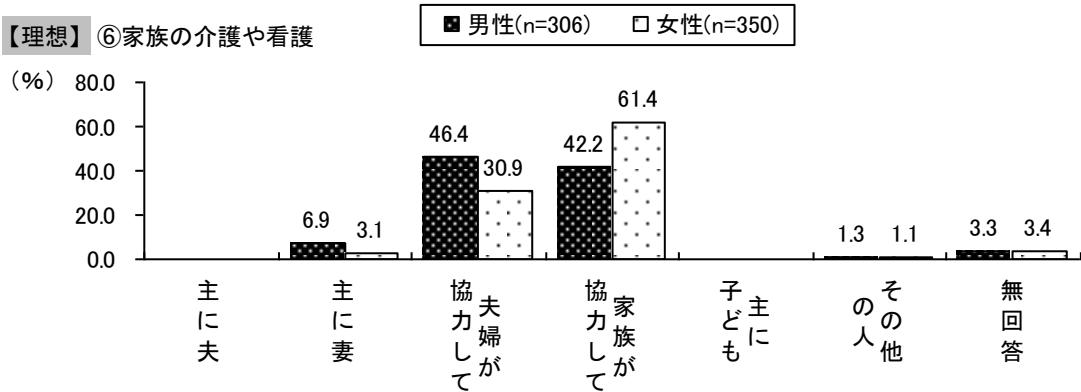


【現実】⑤子育て(育児・しつけ)

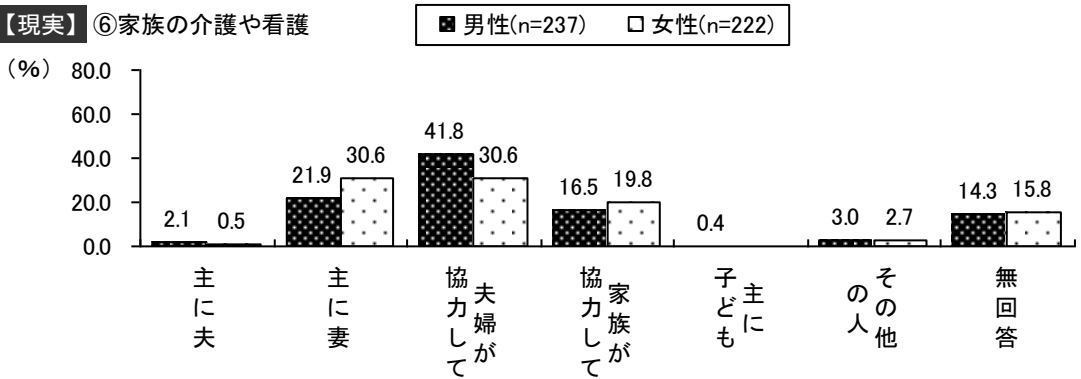


⑥家族の介護や看護

【理想】⑥家族の介護や看護



【現実】⑥家族の介護や看護

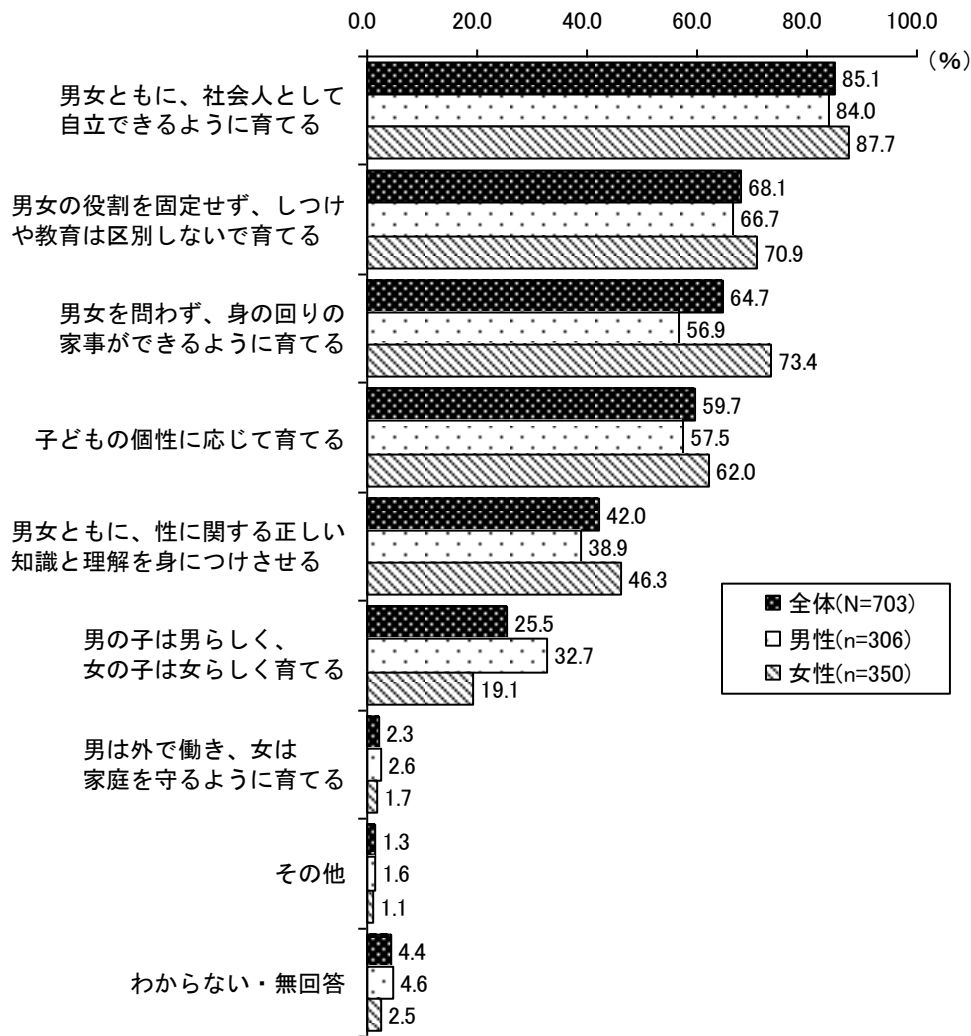


3. 子どもの育て方について

問 19. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(〇印いくつでも)

子どもの育て方については、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」の割合が 85.1%と最も高く、次いで「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」(68.1%)、「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」(64.7%)、「子どもの個性に応じて育てる」(59.7%)、「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」(42.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高い。女性は「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」などで男性を上回っている。



性・年齢別では、特に女性の20～30歳代で「子どもの個性に応じて育てる」、30歳代で「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」の割合が他の年齢層を上回って高くなっている。また男性、女性ともに70歳以上では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高くなっている。

子どもの有無別でみると、未就学の子どもがいる世帯では「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」「子どもの個性に応じて育てる」、小学生の子どもがいる世帯では「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」などが、それぞれ他の層に比べて高くなっている。

単位(%)	自立できるように育てる	男女の役割を区別せず、しつけや教育は固定せず、子どもの個性に応じて育てる	男女が問はず、身の回りの家事ができるように育てる	子どもの個性に応じて育てる	正しい知識と理解を身につける	男の子は男らしく育てる、女の子は女らしく育てる	男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	その他	わからない	
全体(N=703)	85.1	68.1	64.7	59.7	42.0	25.5	2.3	1.3	1.7	
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	92.3	61.5	38.5	53.8	38.5	15.4	7.7	0.0	7.7
	男性30歳代(n=33)	78.8	48.5	57.6	60.6	45.5	27.3	3.0	3.0	3.0
	男性40歳代(n=35)	80.0	65.7	62.9	60.0	45.7	17.1	0.0	2.9	0.0
	男性50歳代(n=62)	88.7	71.0	56.5	61.3	37.1	27.4	3.2	4.8	4.8
	男性60歳代(n=82)	80.5	63.4	48.8	56.1	24.4	35.4	2.4	0.0	0.0
	男性70歳以上(n=80)	87.5	75.0	66.3	53.8	50.0	46.3	2.5	0.0	2.5
	女性20歳代(n=17)	76.5	52.9	70.6	70.6	47.1	11.8	0.0	0.0	5.9
	女性30歳代(n=38)	92.1	84.2	78.9	76.3	60.5	10.5	0.0	0.0	0.0
	女性40歳代(n=44)	86.4	63.6	79.5	56.8	47.7	11.4	0.0	0.0	2.3
	女性50歳代(n=70)	91.4	85.7	75.7	67.1	55.7	12.9	0.0	0.0	0.0
	女性60歳代(n=90)	90.0	71.1	75.6	68.9	37.8	18.9	2.2	2.2	1.1
	女性70歳以上(n=90)	84.4	61.1	65.6	46.7	41.1	33.3	4.4	2.2	1.1
子どもの有無別	未就学の子どもがいる(n=53)	86.8	77.4	64.2	71.7	47.2	20.8	1.9	0.0	0.0
	小学生の子どもがいる(n=57)	87.7	71.9	75.4	64.9	49.1	26.3	1.8	0.0	0.0
	中学生の子どもがいる(n=42)	90.5	76.2	76.2	71.4	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0
	高校生以上の子どもがいる(n=134)	82.1	67.9	60.4	55.2	32.8	21.6	2.2	0.7	0.0
	同居している子どもはいない(n=91)	84.6	60.4	70.3	61.5	41.8	23.1	1.1	3.3	3.3

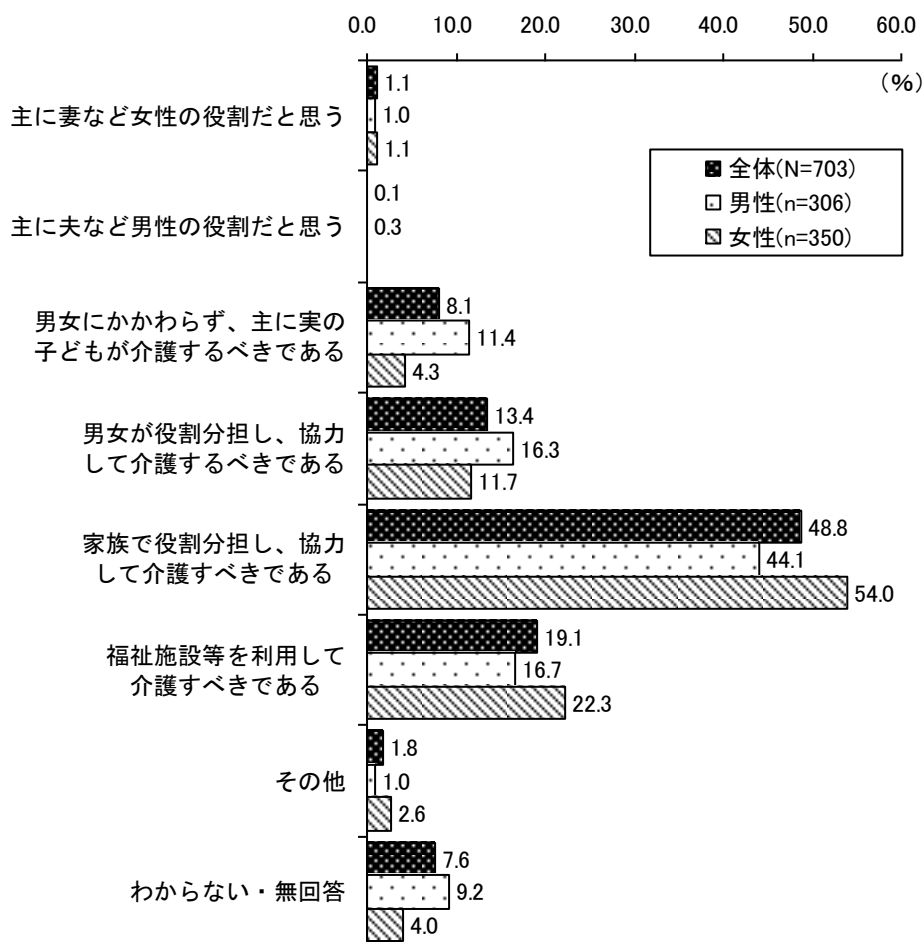
注: 子どもの有無別については、複数回答のクロス集計であるため、参考値として参照のこと。

4. 高齢者介護について

問 20. あなたは、高齢者介護についてどのように考えますか。(○印1つ)

高齢者介護については、「家族で役割分担し、協力して介護すべきである」の割合が48.8%と突出して最も高くなっている。以下「福祉施設等を利用して介護すべきである」(19.1%)、「男女が役割分担し、協力して介護すべきである」(13.4%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男女にかかわらず、主に実の子どもが介護すべきである」「男女が役割分担し、協力して介護すべきである」などの割合が高い。女性は「家族で役割分担し、協力して介護すべきである」「福祉施設等を利用して介護すべきである」などで男性を上回っている。



性・年齢別では、特に女性の30歳代で「家族で役割分担し、協力して介護すべきである」、女性40歳代で「福祉施設等を利用して介護すべきである」などの割合が他の年齢層に比べ高くなっている。

単位(%)	主に妻など女性の役割だと思ふ	主に夫など男性の役割だと思ふ	男女に問わず、主に実の子どもが介護すべきである	男女が役割分担し、協力して介護すべきである	家族で役割分担し、協力して介護すべきである	福祉施設等を利用して介護すべきである	その他	わからない	
全体(N=703)	1.1	0.1	8.1	13.4	48.8	19.1	1.8	2.3	
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	0.0	0.0	15.4	15.4	38.5	15.4	7.7	7.7
	男性30歳代(n=33)	0.0	0.0	9.1	12.1	54.5	9.1	3.0	6.1
	男性40歳代(n=35)	0.0	0.0	20.0	14.3	34.3	22.9	0.0	8.6
	男性50歳代(n=62)	1.6	0.0	8.1	16.1	51.6	16.1	1.6	1.6
	男性60歳代(n=82)	0.0	0.0	11.0	15.9	43.9	18.3	0.0	2.4
	男性70歳以上(n=80)	2.5	1.3	10.0	20.0	40.0	16.3	0.0	2.5
	女性20歳代(n=17)	0.0	0.0	0.0	17.6	52.9	17.6	5.9	0.0
	女性30歳代(n=38)	2.6	0.0	0.0	5.3	71.1	21.1	0.0	0.0
	女性40歳代(n=44)	0.0	0.0	2.3	9.1	59.1	27.3	0.0	0.0
	女性50歳代(n=70)	0.0	0.0	4.3	12.9	55.7	18.6	5.7	0.0
	女性60歳代(n=90)	0.0	0.0	5.6	13.3	52.2	22.2	3.3	1.1
女性70歳以上(n=90)	2.2	0.0	6.7	12.2	45.6	24.4	1.1	1.1	

【4】地域社会活動について

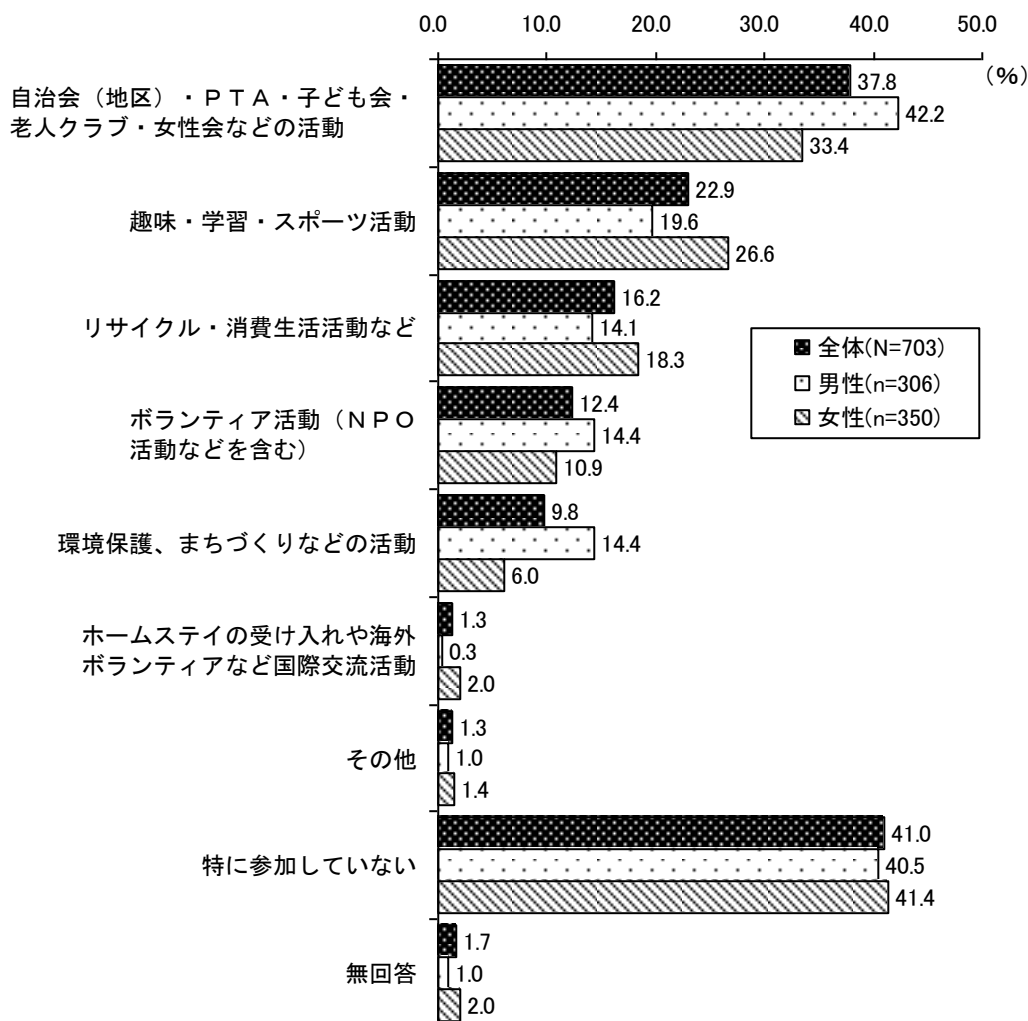
1. 地域活動参加状況

問 21. あなたは、つぎのような地域活動に参加していますか。(〇印いくつでも)

地域活動参加状況については、「特に参加していない」が41.0%であることから、おおむね6割近くが何らかの活動に参加しているとみることができる。

参加活動としては「自治会（地区）・PTA・子ども会・老人クラブ・女性会などの活動」の割合が37.8%と最も高く、次いで「趣味・学習・スポーツ活動」（22.9%）、「リサイクル・消費生活活動など」（16.2%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「自治会（地区）・PTA・子ども会・老人クラブ・女性会などの活動」「環境保護、まちづくりなどの活動」などの割合が高い。女性は「趣味・学習・スポーツ活動」「リサイクル・消費生活活動など」で男性を上回っている。



性・年齢別では、特に男性は年齢が上がるほど「自治会（地区）・PTA・子ども会・老人クラブ・女性会などの活動」「ボランティア活動（NPO活動などを含む）」などへの参加割合が高くなっている。女性では20歳代で「特に参加していない」割合が他の年齢層を上回っている。

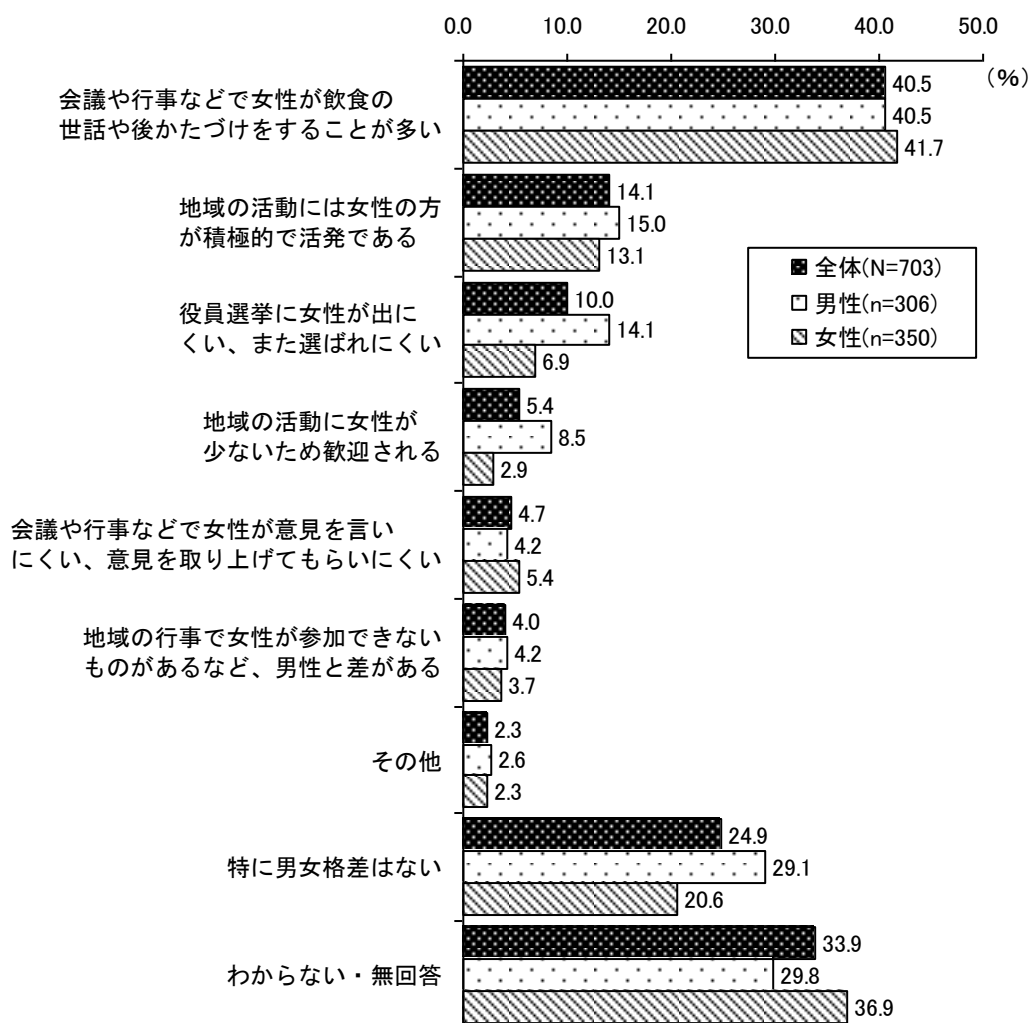
単位(%)	性 子 自 治 会 な ど の 活 動	子 ど も 会 ・ 地 区 ・ 老 人 ク ラ ブ ・ P T A ・ 女	自 治 会 （ 地 区 ）	趣 味 ・ 学 習 ・ ス ポ ー ツ 活 動	な ら び に サイ クル ・ 消 費 生 活 活 動	活 動 な ど を 含 む ）	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 （ N P O	の 環 境 保 護 、 ま ち づ く り な ど	交 流 活 動	海 外 ボ ラ ン テ ィ ア の 受 け 入 れ 国 際 や	ホ ー ム ス テ ィ の ア ナ ン ス 等	そ の 他	特 に 参 加 し て い な い
全体(N=703)	37.8	22.9	16.2	12.4	9.8	1.3	1.3	41.0					
性・ 年 齢 別	男性20歳代(n=13)	23.1	15.4	23.1	15.4	0.0	0.0	53.8					
	男性30歳代(n=33)	24.2	12.1	3.0	12.1	15.2	0.0	54.5					
	男性40歳代(n=35)	40.0	22.9	5.7	8.6	11.4	0.0	48.6					
	男性50歳代(n=62)	41.9	14.5	8.1	11.3	22.6	0.0	45.2					
	男性60歳代(n=82)	45.1	25.6	17.1	20.7	9.8	1.2	36.6					
	男性70歳以上(n=80)	51.3	20.0	22.5	13.8	16.3	0.0	28.8					
	女性20歳代(n=17)	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	88.2					
	女性30歳代(n=38)	26.3	23.7	13.2	5.3	7.9	0.0	50.0					
	女性40歳代(n=44)	34.1	36.4	20.5	2.3	4.5	4.5	34.1					
	女性50歳代(n=70)	32.9	20.0	15.7	12.9	2.9	5.7	44.3					
	女性60歳代(n=90)	41.1	32.2	26.7	17.8	10.0	1.1	33.3					
女性70歳以上(n=90)	35.6	26.7	15.6	11.1	5.6	0.0	37.8						

2. 地域活動における現状

問 22. あなたの住んでいる地域でのさまざまな活動において、次のようなことがありますか。(〇印いくつでも)

地域活動における現状については、「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「地域の活動には女性の方が積極的に活発である」(14.1%)、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」(10.0%)の順となっている。また「特に男女格差はない」が 24.9%みられた。

性別では、男性は女性に比べ「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」「特に男女格差はない」などの割合が高い。



性・年齢別では、特に男性の70歳以上で「地域の活動には女性の方が積極的に活発である」「特に男女格差はない」、女性は年齢が若い層ほど「わからない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べ高くなっている。

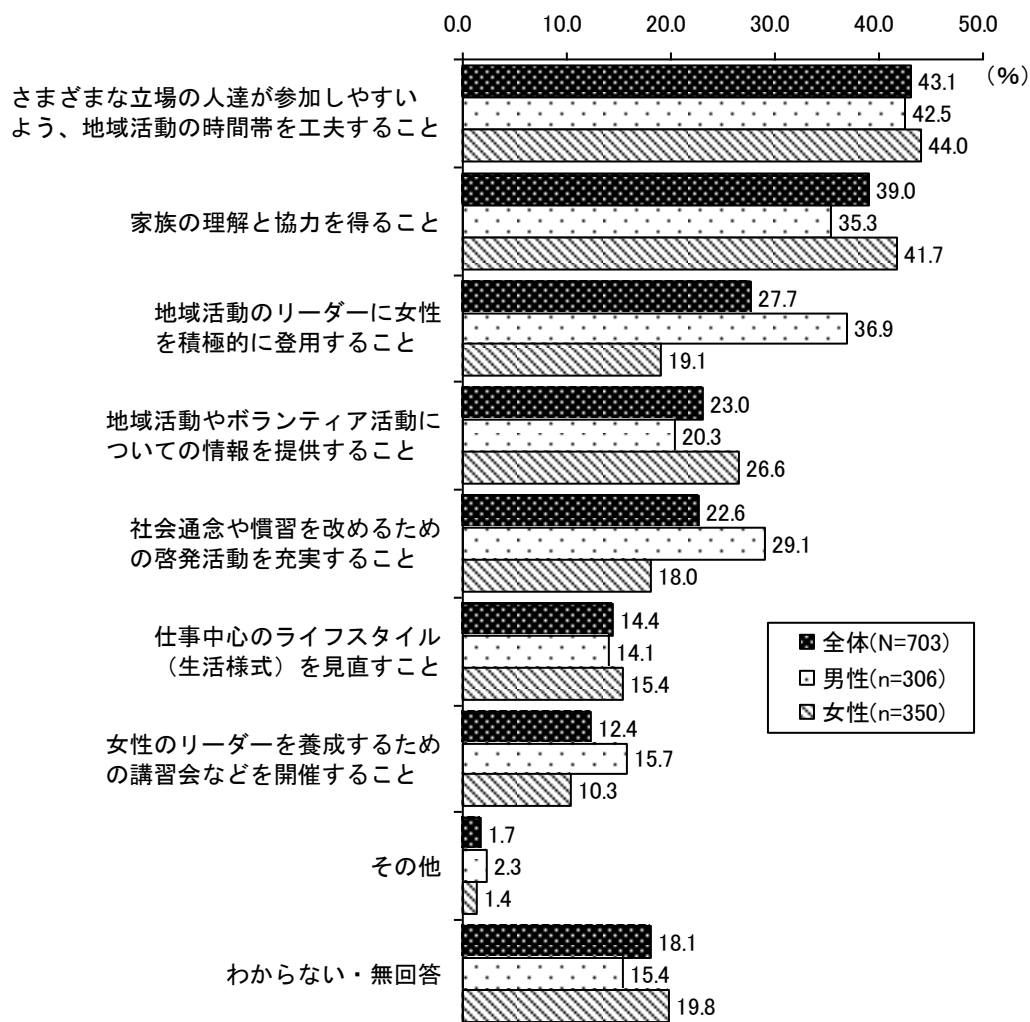
単位(%)	食の世話や後かたづけを飲	会議や行事などで女性の方が	積極的の活動には女性の方が	地域の活動に女性が少ない	役員選挙に女性が出にくい	地域の活動に女性が少ない	見を言てに、意見を取	会議や行事などで女性参加	性との差がある	地域行事で女性参加	その他	特に男女格差はない	わからない
全体(N=703)	40.5	14.1	10.0	5.4	4.7	4.0	2.3	24.9	31.3				
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	46.2	15.4	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7	23.1				
	男性30歳代(n=33)	15.2	9.1	3.0	6.1	0.0	6.1	6.1	48.5				
	男性40歳代(n=35)	40.0	2.9	14.3	14.3	0.0	2.9	0.0	8.6	42.9			
	男性50歳代(n=62)	37.1	9.7	16.1	4.8	4.8	1.6	3.2	30.6	27.4			
	男性60歳代(n=82)	47.6	18.3	17.1	8.5	4.9	6.1	1.2	29.3	25.6			
	男性70歳以上(n=80)	46.3	23.8	13.8	8.8	7.5	3.8	2.5	43.8	15.0			
	女性20歳代(n=17)	29.4	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	64.7			
	女性30歳代(n=38)	31.6	10.5	5.3	0.0	5.3	2.6	0.0	13.2	55.3			
	女性40歳代(n=44)	38.6	11.4	11.4	4.5	2.3	4.5	0.0	9.1	43.2			
	女性50歳代(n=70)	44.3	11.4	1.4	4.3	4.3	4.3	1.4	18.6	38.6			
	女性60歳代(n=90)	47.8	15.6	7.8	1.1	3.3	1.1	4.4	26.7	22.2			
女性70歳以上(n=90)	42.2	16.7	8.9	3.3	10.0	6.7	3.3	27.8	24.4				

3. 地域社会で必要と思うこと

問 23. 地域社会において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

地域社会で男女共同参画を積極的に進めるため必要と思うことについては、「さまざまな立場の人達が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫すること」の割合が43.1%と最も高く、次いで「家族の理解と協力を得ること」(39.0%)、「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」(27.7%)、「地域活動やボランティア活動についての情報を提供すること」(23.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること」などの割合が高い。女性は「家族の理解と協力を得ること」「地域活動やボランティア活動についての情報を提供すること」などで男性を上回っている。



性・年齢別では、男性は年齢が若い層ほど「地域活動やボランティア活動についての情報を提供すること」の割合が増える傾向にあり、40歳代では「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること」「仕事中心のライフスタイル（生活様式）を見直すこと」などが高くなっている。女性は40～50歳代で「家族の理解と協力を得ること」、30歳代で「女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること」、20歳代では「わからない」割合がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

単位(%)		加し の時間 帯を 工夫 する こと	さま ざま な立 場 の 人 達 が 参 加 す る こ と	と家 族 の 理 解 と 協 力 を 得 る こ と	を地 域 活 動 に 登 用 す る こ と 女 性	る動 こ と に つ い て の 情 報 を 提 供 す る こ と	と地 域 活 動 や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 を 充 実 す る こ と	め社 会 通 念 や 慣 習 を 改 め る こ と	（生 活 中 心 の ラ イ フ ス タ イ ル を 見 直 す こ と	るた め の 講 習 会 な ど を 開 催 す る こ と	女 性 の リ ー ダ ー を 養 成 す る こ と	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=703)		43.1	39.0	27.7	23.0	22.6	14.4	12.4	1.7	15.5			
性・ 年 齢 別	男性20歳代(n=13)	46.2	23.1	30.8	38.5	15.4	7.7	7.7	7.7	23.1			
	男性30歳代(n=33)	39.4	36.4	21.2	30.3	27.3	21.2	9.1	0.0	15.2			
	男性40歳代(n=35)	42.9	34.3	34.3	20.0	42.9	28.6	11.4	5.7	0.0			
	男性50歳代(n=62)	40.3	29.0	40.3	21.0	27.4	19.4	16.1	1.6	12.9			
	男性60歳代(n=82)	40.2	39.0	41.5	18.3	24.4	7.3	15.9	1.2	14.6			
	男性70歳以上(n=80)	47.5	38.8	38.8	15.0	32.5	8.8	21.3	2.5	15.0			
	女性20歳代(n=17)	47.1	29.4	11.8	29.4	5.9	17.6	11.8	0.0	29.4			
	女性30歳代(n=38)	47.4	34.2	15.8	26.3	23.7	21.1	23.7	0.0	15.8			
	女性40歳代(n=44)	50.0	50.0	18.2	27.3	22.7	22.7	6.8	2.3	13.6			
	女性50歳代(n=70)	41.4	50.0	18.6	25.7	21.4	27.1	12.9	1.4	8.6			
	女性60歳代(n=90)	48.9	38.9	22.2	33.3	15.6	8.9	7.8	1.1	15.6			
女性70歳以上(n=90)	36.7	40.0	20.0	20.0	15.6	6.7	6.7	2.2	23.3				

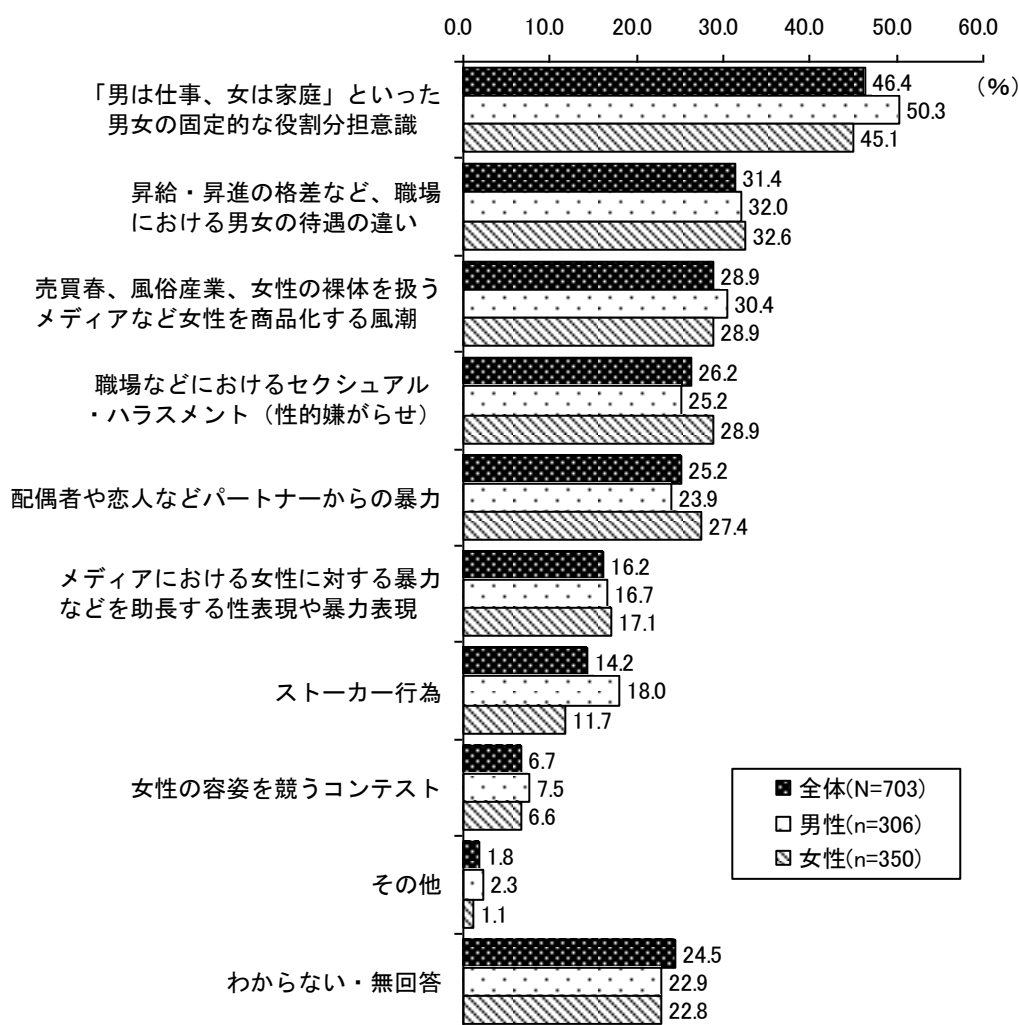
【5】人権意識について

1. 女性の人権が尊重されていないと感じること

問 24. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。(〇印いくつでも)

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「男は仕事、女は家庭といった男女の固定的な役割分担意識」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」(31.4%)、「売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うメディアなど女性を商品化する風潮」(28.9%)、「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」(26.2%)、「配偶者や恋人などパートナーからの暴力」(25.2%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男は仕事、女は家庭といった男女の固定的な役割分担意識」や「ストーカー行為」などの割合が高くなっている。女性は「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」や「配偶者や恋人などパートナーからの暴力」などで男性を上回る。



※メディア→テレビ番組や雑誌、新聞、インターネットなど

性・年齢別でみると、男性の20歳代で「男は仕事、女は家庭といった男女の固定的な役割分担意識」「配偶者や恋人などパートナーからの暴力」、女性の30～40歳代で「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、女性の30歳代では「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」、50歳代では「売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うメディアなど女性を商品化する風潮」などの割合が、それぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差が顕著である。

単位(%)	分→男は仕事、女は家庭的役割と担った意識	い場昇給・昇進の男女格差などの違い	性裸体を扱う風潮	嫌がらせ	職場などパートナーからの暴力	配偶者や恋人などパートナーからの暴力	表現や暴力表現	メディアなどにおける女性に対する暴力	ストーカー行為	女性の容姿を競うコンテスト	その他	わからない
全体(N=703)	46.4	31.4	28.9	26.2	25.2	16.2	14.2	6.7	1.8	18.5		
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	69.2	30.8	30.8	30.8	46.2	23.1	23.1	7.7	0.0	7.7	
	男性30歳代(n=33)	57.6	30.3	18.2	27.3	21.2	12.1	18.2	3.0	3.0	21.2	
	男性40歳代(n=35)	57.1	25.7	31.4	31.4	31.4	20.0	17.1	5.7	5.7	11.4	
	男性50歳代(n=62)	46.8	33.9	38.7	30.6	27.4	24.2	19.4	11.3	0.0	11.3	
	男性60歳代(n=82)	52.4	37.8	34.1	25.6	17.1	15.9	15.9	11.0	1.2	22.0	
	男性70歳以上(n=80)	42.5	27.5	25.0	16.3	22.5	11.3	18.8	3.8	3.8	27.5	
	女性20歳代(n=17)	58.8	29.4	17.6	23.5	29.4	5.9	17.6	5.9	0.0	23.5	
	女性30歳代(n=38)	57.9	44.7	21.1	44.7	42.1	28.9	23.7	5.3	0.0	15.8	
	女性40歳代(n=44)	59.1	43.2	27.3	27.3	18.2	11.4	15.9	4.5	2.3	9.1	
	女性50歳代(n=70)	47.1	31.4	41.4	34.3	32.9	28.6	7.1	8.6	1.4	5.7	
	女性60歳代(n=90)	36.7	34.4	27.8	21.1	27.8	11.1	10.0	5.6	1.1	20.0	
女性70歳以上(n=90)	37.8	22.2	26.7	27.8	21.1	14.4	8.9	7.8	1.1	18.9		

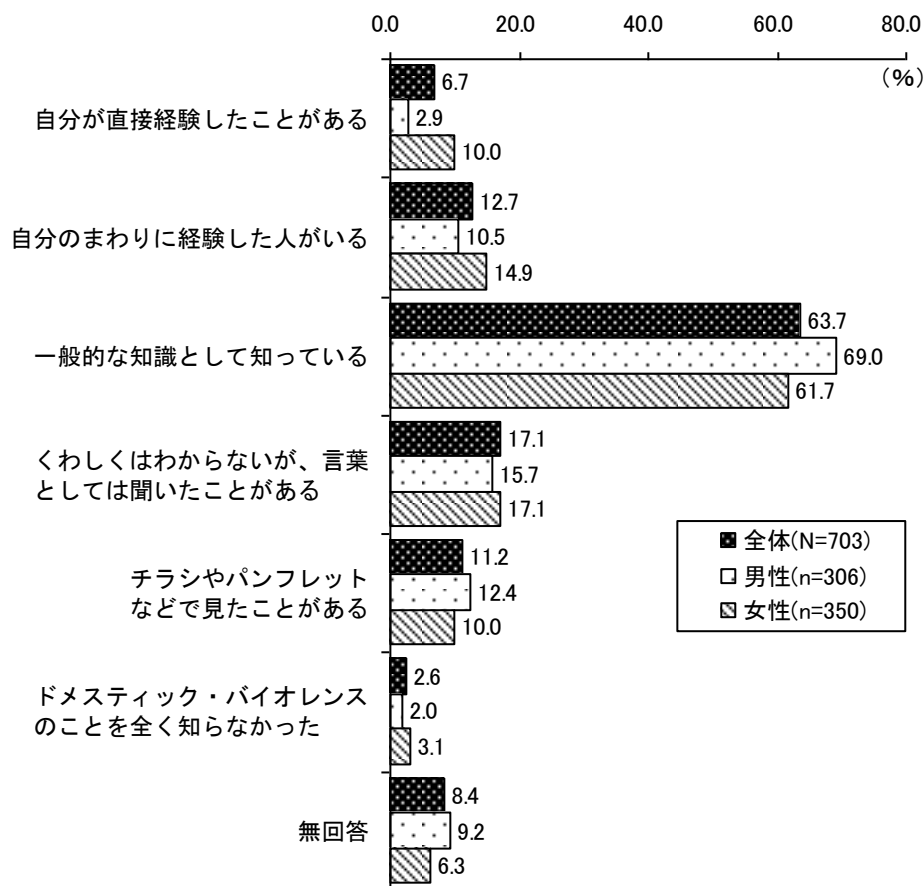
2. DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験

(1) DVの経験

問 25. あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（〇印いくつでも）

DVの経験については、「一般的な知識として知っている」が63.7%で最も高く、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が17.1%で続いている。「自分が直接経験したことがある」は6.7%、「自分のまわりに経験した人がある」は12.7%で、直接または間接に経験したことがある割合は、合計で19.4%となっている。また「ドメスティック・バイオレンスのことを全く知らなかった」は2.6%と少ない。

性別では、「自分が直接経験したことがある」割合は、女性が10.0%と、男性を上回り、「自分のまわりに経験した人がある」についても同傾向である。男性は「一般的な知識として知っている」などで女性を上回っている。



性・年齢別では、男性 20 歳代、及び女性の 30～40 歳代において「自分のまわりに経験した人がいる」の割合が高く、女性の 20 歳代では「自分が直接経験したことがある」割合が他の年齢層に比べ最も高くなっている。また、男性の 70 歳以上や女性の 60 歳以上では「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」割合が他の年齢層に比べ高くなっている。

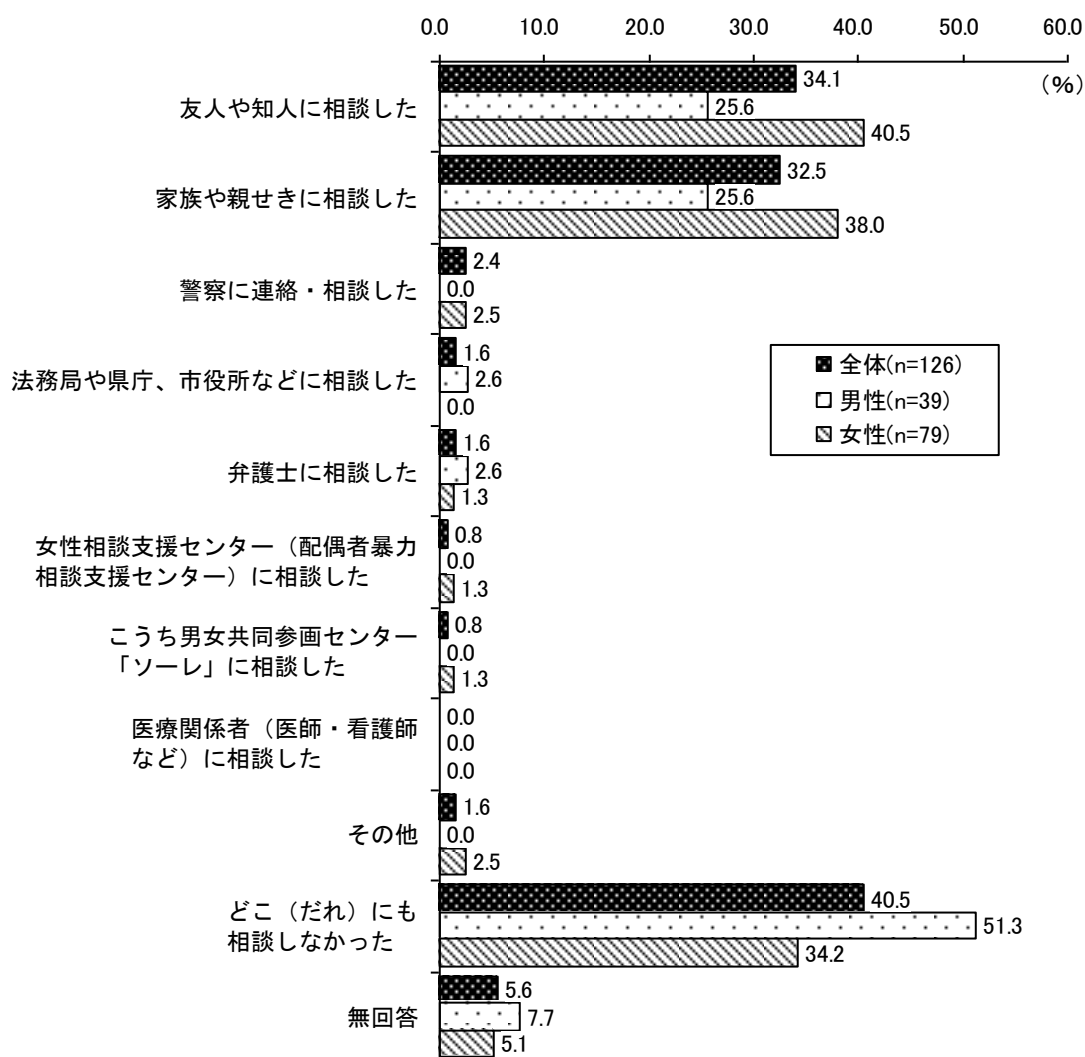
単位(%)		あ 自 分 が 直 接 経 験 し た こ と が	が 自 分 の ま わ り に 経 験 し た 人	い 一 般 的 な 知 識 と し て 知 っ て	あ 言 く わ し く は わ か ら な い こ と が 、	で チ ラ シ や パ ン フ レ ッ ト な ど	か ン ド メ ス テ ィ ッ ク ・ バ イ オ レ
全体(N=703)		6.7	12.7	63.7	17.1	11.2	2.6
性・ 年 齢 別	男性20歳代(n=13)	0.0	30.8	46.2	7.7	23.1	0.0
	男性30歳代(n=33)	3.0	9.1	78.8	15.2	12.1	3.0
	男性40歳代(n=35)	5.7	14.3	77.1	2.9	8.6	0.0
	男性50歳代(n=62)	1.6	16.1	80.6	8.1	11.3	0.0
	男性60歳代(n=82)	2.4	8.5	70.7	17.1	18.3	3.7
	男性70歳以上(n=80)	3.8	3.8	53.8	27.5	7.5	2.5
	女性20歳代(n=17)	17.6	0.0	70.6	11.8	0.0	0.0
	女性30歳代(n=38)	10.5	28.9	65.8	5.3	10.5	0.0
	女性40歳代(n=44)	13.6	25.0	61.4	4.5	0.0	0.0
	女性50歳代(n=70)	5.7	17.1	80.0	7.1	5.7	0.0
	女性60歳代(n=90)	15.6	10.0	65.6	25.6	18.9	2.2
女性70歳以上(n=90)	4.4	10.0	41.1	28.9	11.1	10.0	

(2) DV経験者の相談状況

問 25 付問 1 (問 25 で 1 または 2 と回答された方に) あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇印いくつでも)

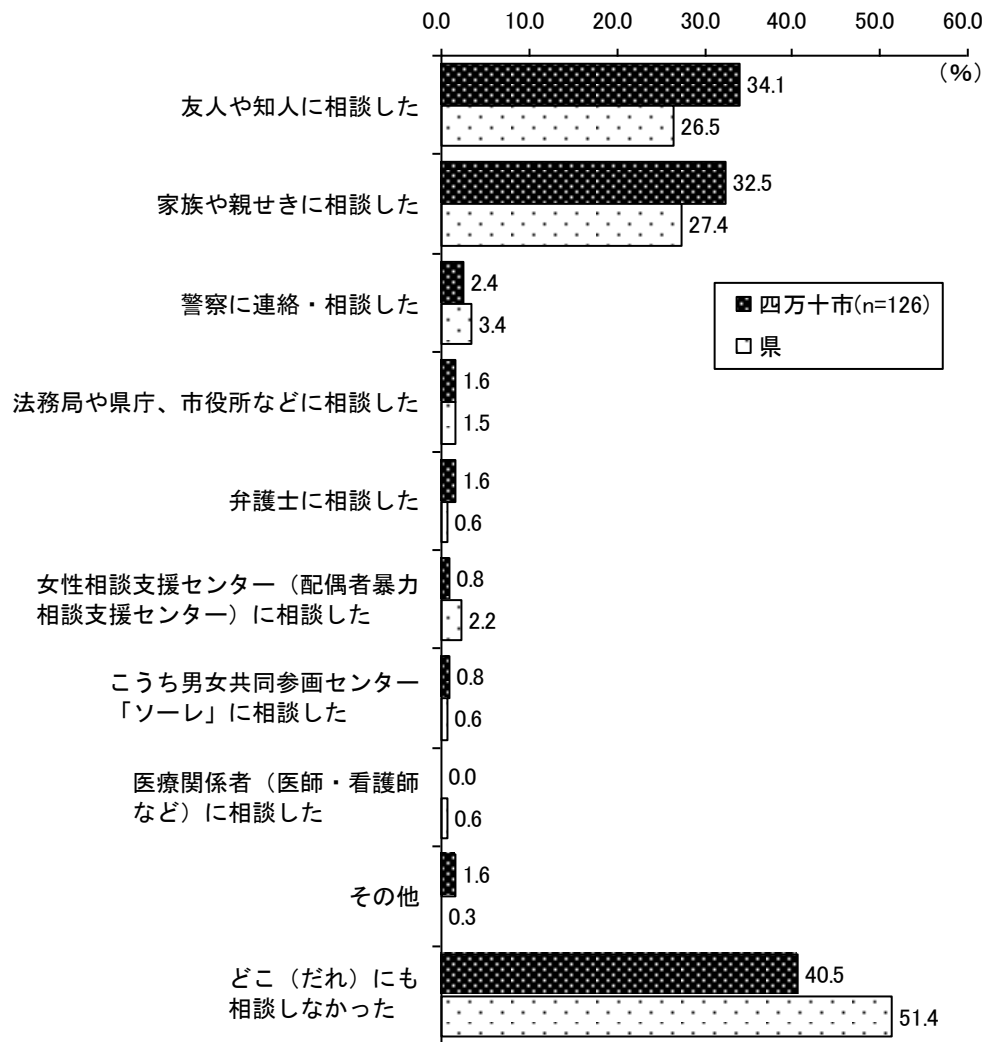
DV経験者の相談状況については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合が40.5%と最も高くなっている。相談先としては「友人や知人に相談した」が34.1%、「家族や親せきに相談した」がほぼ並んで32.5%と両者が主流であり、この他への相談割合はそれぞれ低い状況である。

性別では、男性は女性に比べ「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合が高いが、女性は「友人や知人に相談した」「家族や親せきに相談した」割合が男性を大きく上回る。



【参考／県調査との比較】

県の調査では、本市の結果に比べ「友人や知人に相談した」「家族や親せきに相談した」の割合が低く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が高くなっている。

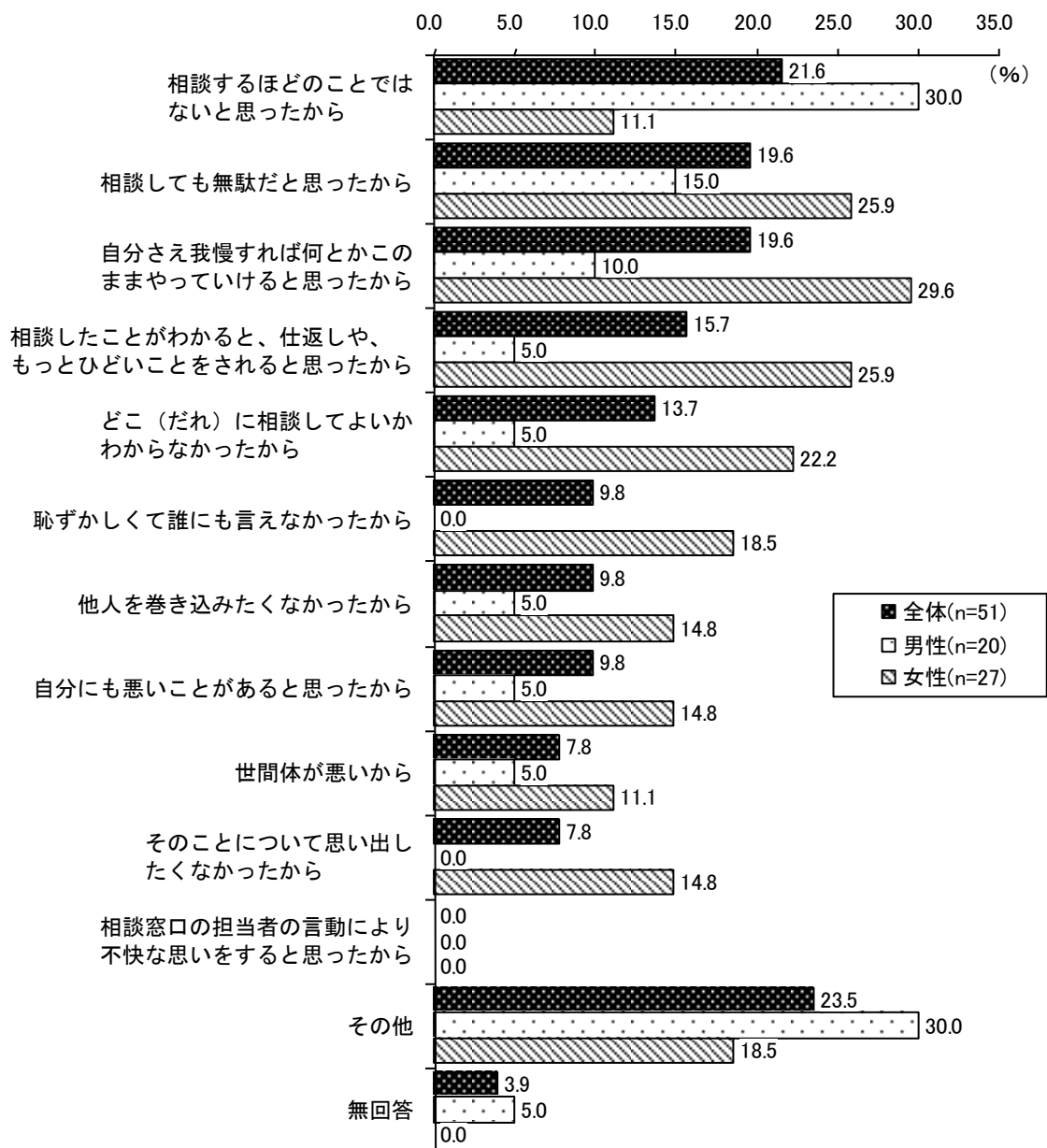


(3) どこにも相談しなかった理由

問 25 付問 2 (問 25 付問 1 で 10 と回答された方に) あなたが「どこ(だれ)にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。(〇印いくつでも)

DV 経験者がどこ(だれ)にも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」(各 19.6%)、「相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから」(15.7%)の順となっている。

性別では、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」で女性を上回っているが、この他では全ての項目において女性の割合が男性を大きく上回っている。

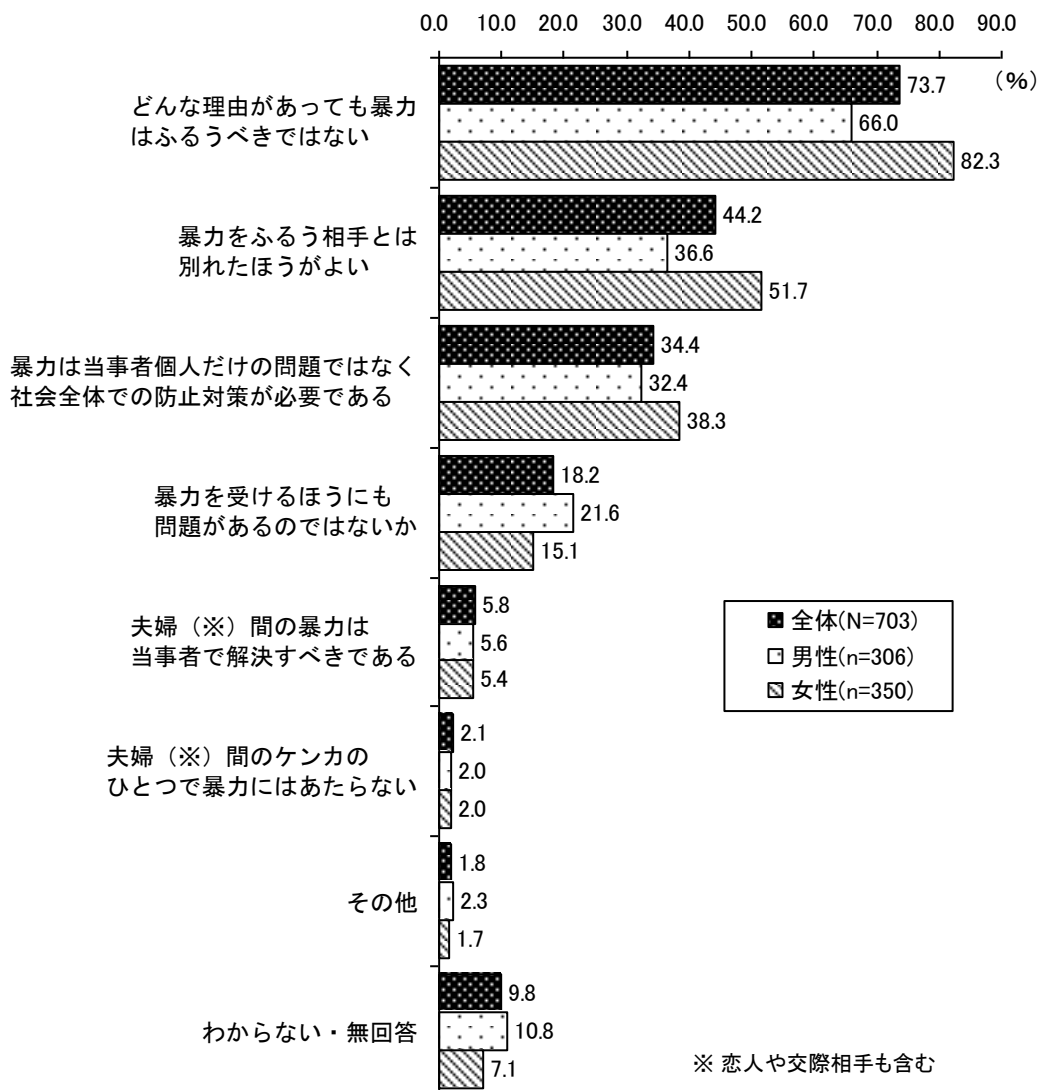


3. DVに対する意識

問 26. ドメスティック・バイオレンス (DV) について、あなたはどのように感じますか。
(○印いくつでも)

DVに対する意識については、「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」の割合が 73.7%と突出して最も高く、次いで「暴力をふるう相手とは別れたほうがよい」(44.2%)、「暴力は当事者個人だけの問題ではなく社会全体での防止対策が必要である」(34.4%)が続き、以下「暴力を受けるほうにも問題があるのではないか」(18.2%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「暴力を受けるほうにも問題があるのではないか」の割合が高い。女性は「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」「暴力をふるう相手とは別れたほうがよい」などで男性を大きく上回り、差が目立っている。



性・年齢別では、男性の20歳代で「夫婦（恋人や交際相手も含む）間のケンカのひとつで暴力にはあたらない」、60歳代では「暴力を受けるほうにも問題があるのではないか」の割合が高い。女性の20～40歳代の幅広い年齢層では「暴力をふるう相手とは別れたほうがよい」が高く、特に40歳代で最も高くなっている。また、女性の50～60歳代では「暴力は当事者個人だけの問題ではなく社会全体での防止対策が必要である」、女性の70歳以上で「夫婦（恋人や交際相手も含む）間の暴力は当事者で解決すべきである」などが、それぞれ他の年齢層に比べ高く、年齢による差が目立つ。

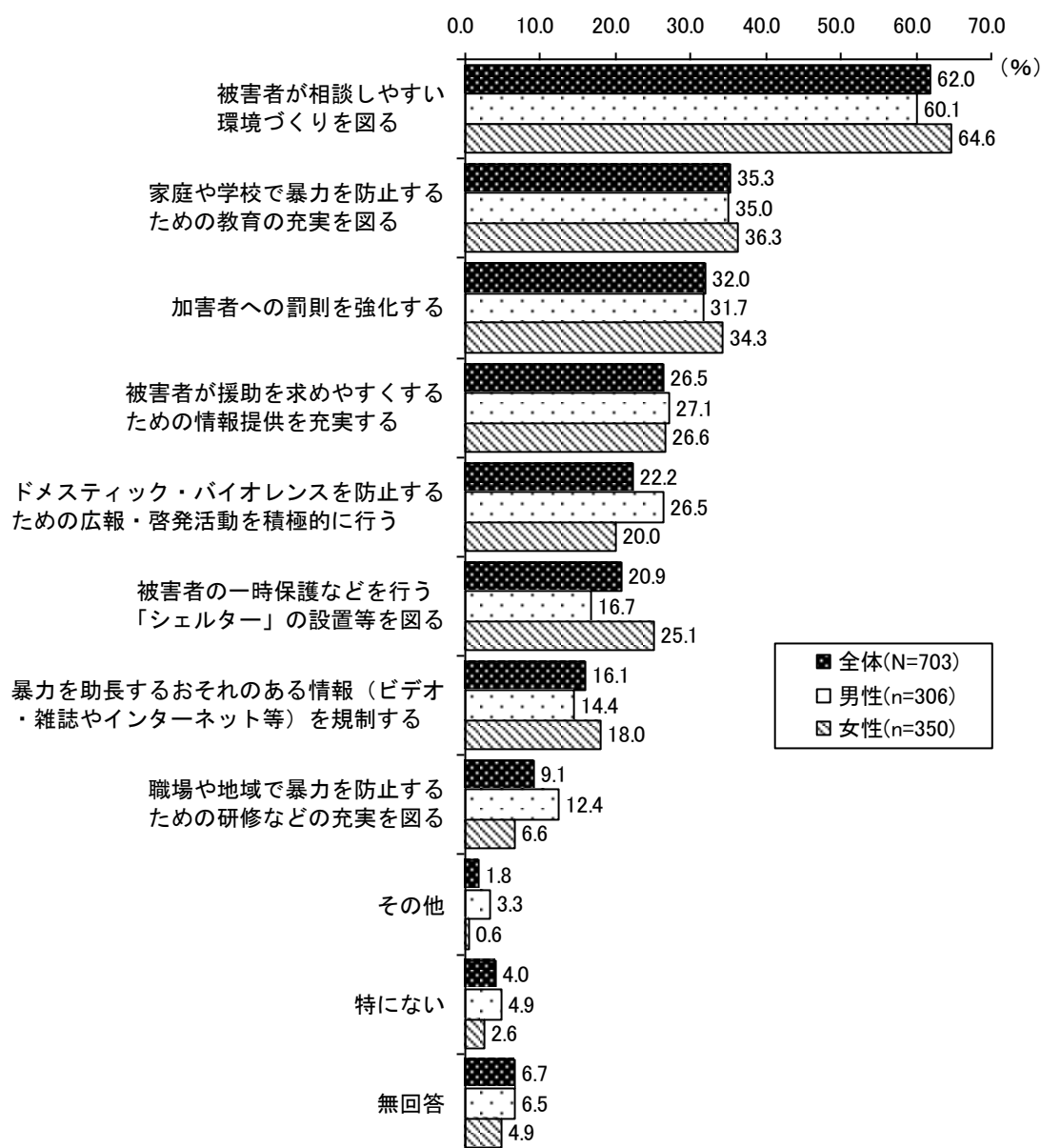
単位(%)	はどんな理由があっても暴力	た暴力をふるう相手とは別れ	止対策は必要である	問題では当事者個人だけの防	暴力は受けるほうにも問題	が暴力を受けるほうにも問題	決すべし	夫婦（恋人や交際相手も含む）間の暴力はあたら	夫婦（恋人や交際相手も含む）間の暴力はあたら	その他	わからない
全体(N=703)	73.7	44.2	34.4	18.2	5.8	2.1	1.8	4.4			
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	76.9	38.5	30.8	23.1	7.7	15.4	7.7	0.0		
	男性30歳代(n=33)	66.7	36.4	27.3	9.1	3.0	0.0	6.1	3.0		
	男性40歳代(n=35)	71.4	60.0	37.1	17.1	0.0	0.0	2.9	2.9		
	男性50歳代(n=62)	69.4	41.9	33.9	21.0	4.8	1.6	3.2	3.2		
	男性60歳代(n=82)	64.6	34.1	34.1	30.5	7.3	2.4	0.0	6.1		
	男性70歳以上(n=80)	61.3	25.0	30.0	20.0	7.5	1.3	1.3	5.0		
	女性20歳代(n=17)	82.4	64.7	29.4	23.5	5.9	0.0	5.9	5.9		
	女性30歳代(n=38)	86.8	68.4	31.6	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0		
	女性40歳代(n=44)	79.5	70.5	31.8	6.8	0.0	0.0	2.3	4.5		
	女性50歳代(n=70)	87.1	52.9	50.0	12.9	0.0	0.0	4.3	1.4		
女性60歳代(n=90)	86.7	50.0	46.7	14.4	6.7	2.2	1.1	1.1			
女性70歳以上(n=90)	73.3	33.3	28.9	18.9	12.2	5.6	0.0	8.9			

4. DVを防ぐために必要と思うこと

問 27. 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（〇印3つまで）

DVを防ぐために必要と思うことについては、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」の割合が 62.0%と、他を大きく上回って最も高く、次いで「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」（35.3%）、「加害者への罰則を強化する」（32.0%）、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」（26.5%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「ドメスティック・バイオレンスを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う」「職場や地域で暴力を防止するための研修などの充実を図る」などの割合が高い。女性は「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」「被害者の一時保護などを行うシェルターの設置等を図る」などで男性を上回る。



年齢別でみると、若い年齢層ほど割合が高い項目として「被害者の一時保護などを行うシェルターの設置等を図る」があげられ、30歳代では特に「加害者への罰則を強化する」「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」などで他の年齢層を上回っている。また年齢が上がるほど「暴力を助長するおそれのある情報（ビデオ・雑誌やインターネット等）を規制する」の割合が増える傾向にある。

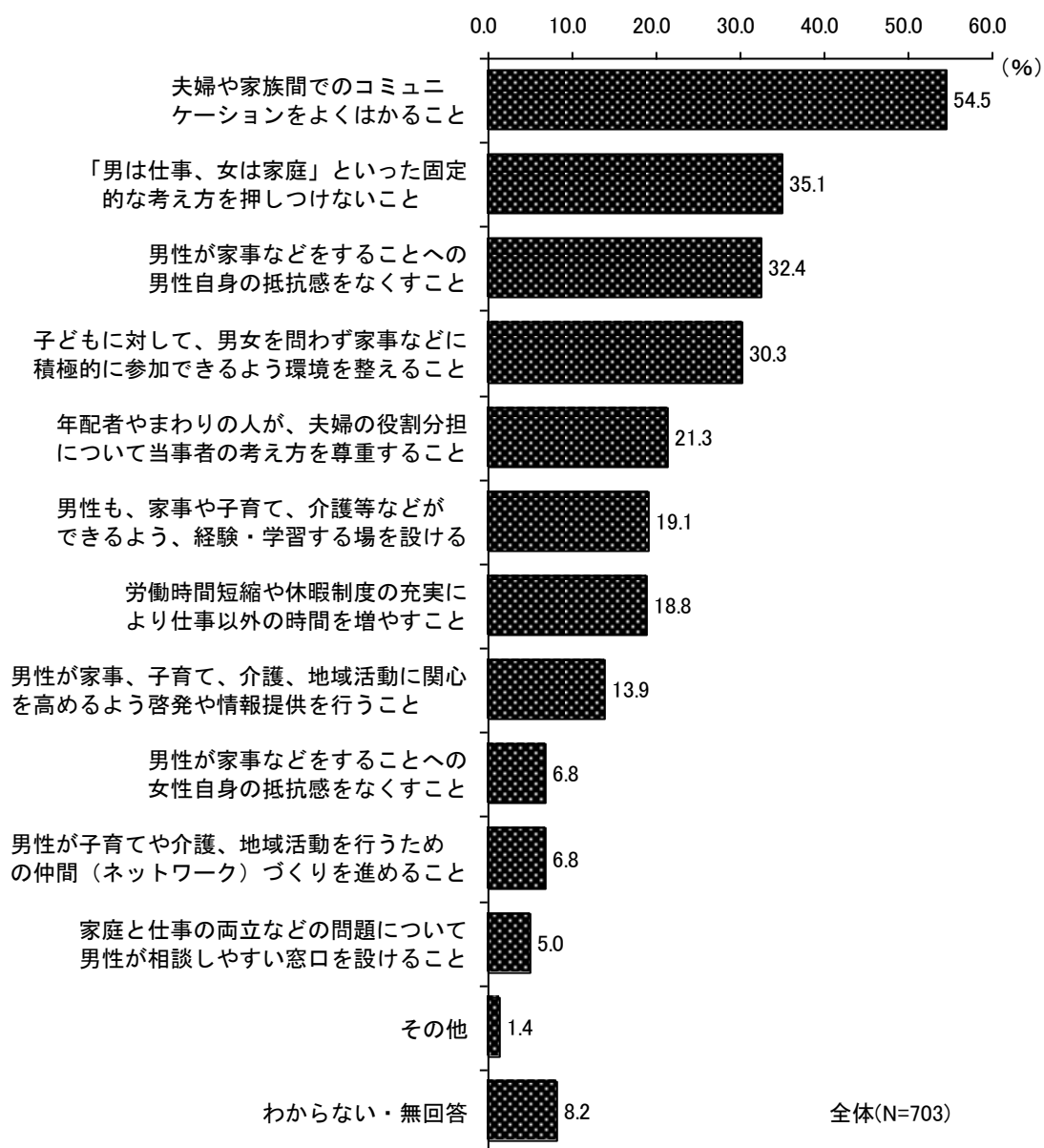
単位(%)	被害者が相談しやすい環境づく	家庭や学校での暴力を防止するための教育の充実を図る	加害者への罰則を強化する	被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する	ドメスティック・バイオレンスの活動を積極的に防ぐための啓発活動を行う	「被害者の一時保護などを行うシェルター」の設置等を図る	暴力を助長するおそれのある情報（ビデオ・雑誌やインターネット等）を規制する	職場や地域での暴力を防止するための研修などを実施を図る	その他	特にな
全体(N=703)	62.0	35.3	32.0	26.5	22.2	20.9	16.1	9.1	1.8	4.0
年齢別 (男女計)	20歳代(n=31)	61.3	32.3	35.5	25.8	35.5	6.5	0.0	3.2	3.2
	30歳代(n=71)	64.8	33.8	45.1	43.7	29.6	9.9	7.0	4.2	1.4
	40歳代(n=85)	76.5	32.9	40.0	32.9	25.9	24.7	14.1	3.5	2.4
	50歳代(n=138)	69.6	36.2	29.0	34.1	22.5	22.5	13.8	11.6	2.9
	60歳代(n=180)	62.8	36.7	33.9	18.9	22.8	21.1	22.2	8.9	0.6
	70歳以上(n=193)	49.7	35.2	24.4	19.2	19.2	13.0	17.1	10.9	0.5

【6】男女共同参画社会について

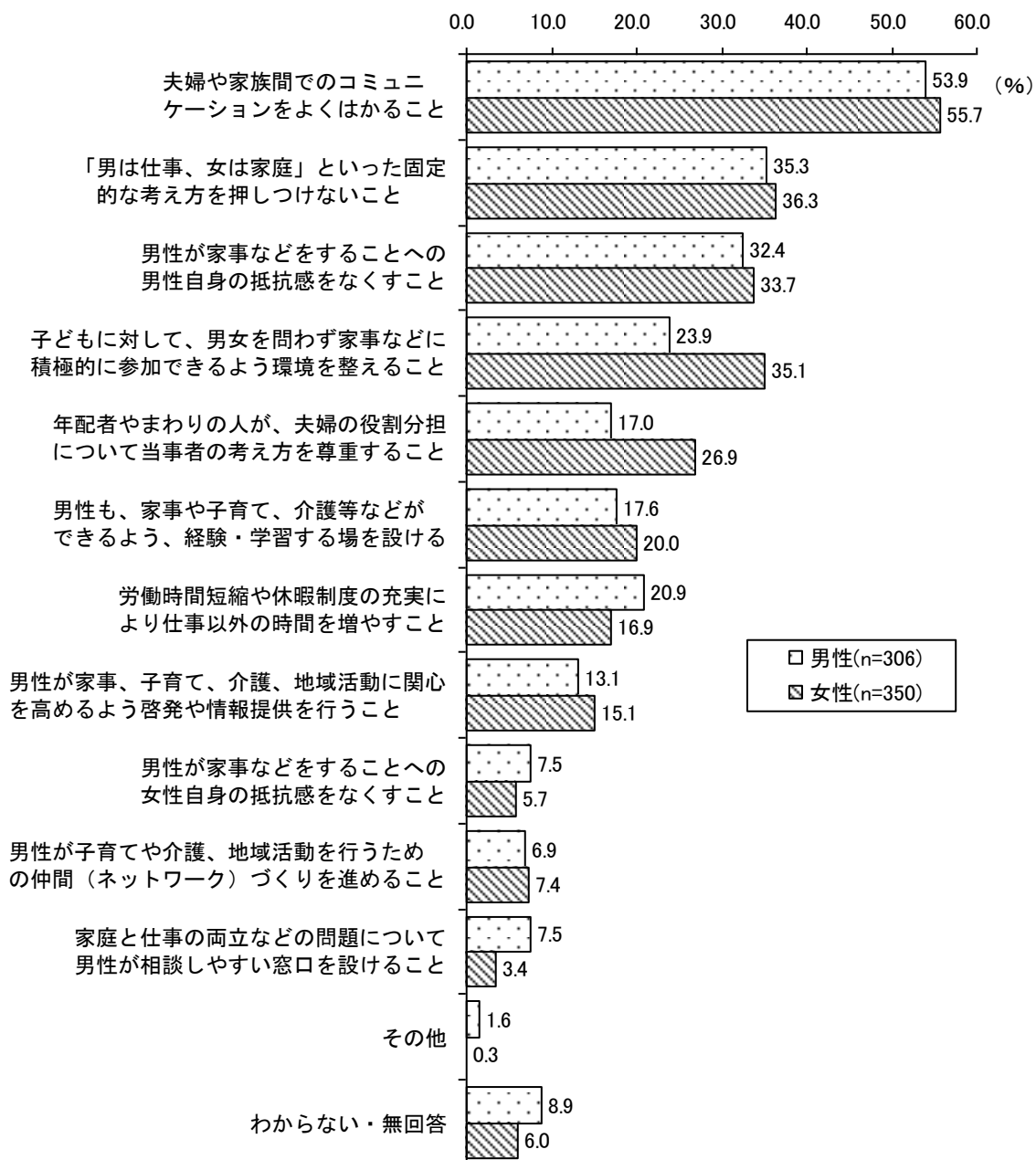
1. 男女が積極的に活動するために必要と思うこと

問 28. 今後、男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

男女が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要と思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が54.5%と最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭といった固定的な考え方を押しつけないこと」(35.1%)、「男性が家事などをする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」(32.4%)、「子どもに対して、男女を問わず家事などに積極的に参加できるよう環境を整えること」(30.3%)、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること」(21.3%)の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「労働時間短縮や休暇制度の充実により仕事以外の時間を増やすこと」「家庭と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること」などの割合が高い。女性は「子どもに対して、男女を問わず家事などに積極的に参加できるような環境を整えること」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること」などで男性を大きく上回っている。



年齢別でみると、特に 20 歳代では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはか
ること」「男は仕事、女は家庭といった固定的な考え方を押しつけないこと」「家庭と仕事
の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」の割合が高く、30
歳代では「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重するこ
と」「労働時間短縮や休暇制度の充実により仕事以外の時間を増やすこと」、70 歳以上で
は「男性も、家事や子育て、介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」など
がそれぞれ他の年齢層を上回って、年齢による差がみられる。

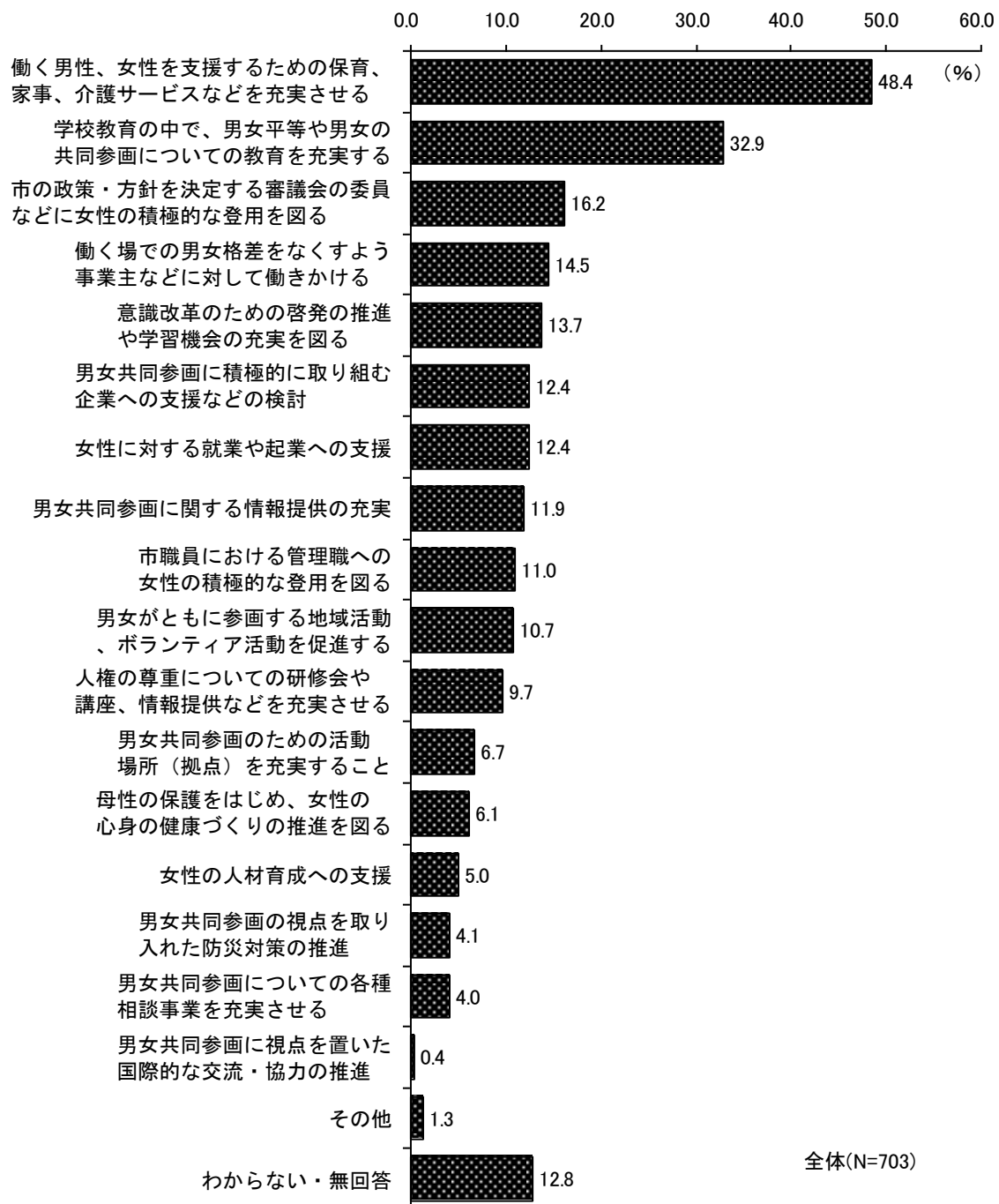
単位(%)	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはか ること	男は仕事、女は家庭といった固定的な考え方を押し つけないこと	男性が自身の抵抗感をなくす こと	子どもに対して、積極的に参加 できるように環境を整えること	役割やまわりの人が、夫 婦の役割を尊重すること	年配者やまわりの人が、夫 婦の役割を尊重すること	学習する場を設けること	男性も、家事や子育て、介 護などができるよう、経験・ 学習すること	労働時間短縮や休暇制度の充 実	地域活動に関する情報を高 めること	男性が家事、子育て、介 護などを行うこと	男性が子育てや介護、地 域活動を行うこと
全体(N=703)	54.5	35.1	32.4	30.3	21.3	19.1	18.8	13.9	6.8	6.8		
年齢別 (男女計)	20歳代(n=31)	67.7	48.4	29.0	25.8	16.1	6.5	12.9	3.2	9.7	0.0	
	30歳代(n=71)	50.7	38.0	26.8	26.8	32.4	15.5	36.6	9.9	8.5	7.0	
	40歳代(n=85)	48.2	35.3	36.5	31.8	27.1	17.6	28.2	14.1	5.9	9.4	
	50歳代(n=138)	56.5	39.1	33.3	27.5	26.1	18.8	24.6	8.7	3.6	8.0	
	60歳代(n=180)	57.2	35.0	35.6	32.2	14.4	16.7	14.4	16.7	6.1	6.7	
	70歳以上(n=193)	52.3	30.1	30.6	31.6	19.2	25.4	9.3	18.7	8.8	6.2	

単位(%)	家庭と仕事の両立などの問題 を相談しやすい窓口を設けること	その他	わからない	
全体(N=703)	5.0	1.4	8.2	
年齢別 (男女計)	20歳代(n=31)	19.4	3.2	3.2
	30歳代(n=71)	2.8	1.4	5.6
	40歳代(n=85)	2.4	2.4	1.2
	50歳代(n=138)	5.1	1.4	2.9
	60歳代(n=180)	4.4	1.1	3.9
	70歳以上(n=193)	5.2	1.0	7.3

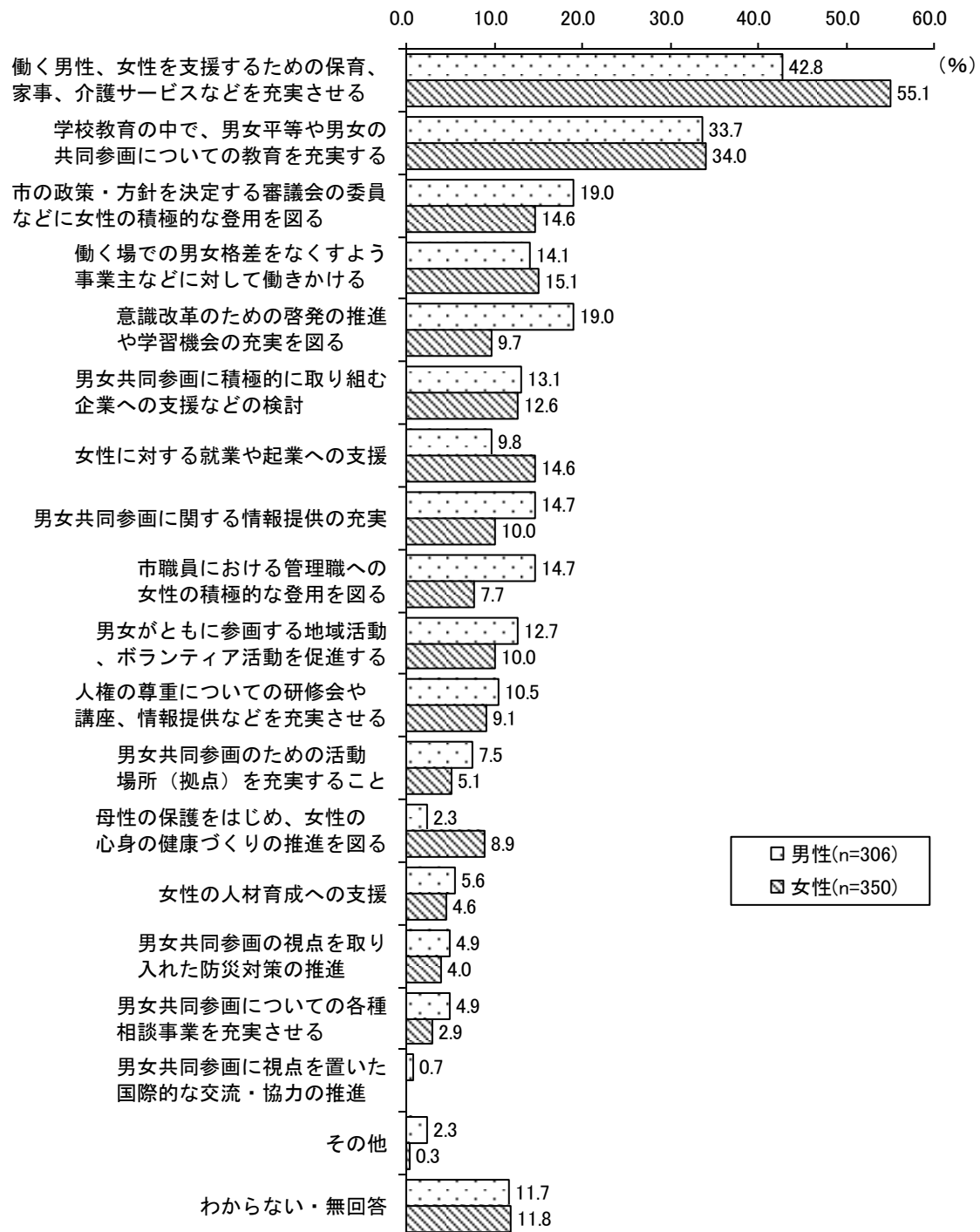
2. 男女共同参画の推進に必要と思う施策

問 29. 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、四万十市はどのようなことに力をいれていくべきと思いますか。(〇印3つまで)

男女共同参画の推進に必要と思う施策については、「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」の割合が48.4%と最も高く、次いで「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を充実する」(32.9%)が続いている。以下「市の政策・方針を決定する審議会の委員などに女性の積極的な登用を図る」(16.2%)、「働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける」(14.5%)などの順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「意識改革のための啓発の推進や学習機会の充実を図る」「市職員における管理職への女性の積極的な登用を図る」などの割合が高い。女性は「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」「母性の保護をはじめ、女性の心身の健康づくりの推進を図る」「女性に対する就業や起業への支援」などで男性を上回り、差がみられる。



IV 自由回答のとりまとめ結果

問 30. 男女共同参画についての意見・要望などがございましたら、どのようなことでも結構です。ご自由にご記入ください。

男性 20 歳代

- ・最近、初婚年齢が晩婚化している。これらは、社会全体として男女の基本的な役割に対してまで平等化しようという風潮も原因なのではないかと思えます。行政の皆さんも「差別」と「区別」の違いを考えた上で、これからも頑張ってくださいたいです。(男性 20 歳代)
- ・男女共同参画は実現されていると思えます。(男性 20 歳代)
- ・特に小学校、中学校での教育が重要だと思えます。(男性 20 歳代)

女性 20 歳代

- ・DV やセクハラはともかく、家庭での役割分担は、家族に不満がなければよいと思えます。(女性 20 歳代)
- ・子どもの頃の教育により、男女とも意識づけされると思う。共同参画に関する啓発活動や学習機会を設けても、結局はそういうことに意識の高い人が参加するだけだと思う。男性の育休制度が整備されていても、実際には取れないのが現実だと思う。そういう制度を充実させることも大切だが、子どもが小さい間はどちらかの親が家にいてあげるべきではないか。(女性 20 歳代)
- ・男女共同参画という言葉の意味はわかったのですが、質問内容が難しすぎてこのアンケートは必要なのかと疑問に思いました。(女性 20 歳代)
- ・男女の平等を推進していくことはよいことだと思います。ただ、男女がお互いにできること、できないことを補いながら取り組んでほしいと思えます。(女性 20 歳代)
- ・若い人が働ける場所を増やしてほしい。(女性 20 歳代)

男性 30 歳代

- ・各家庭での事情があり、十人十色だと思います。いろいろと問題もあり、難しいと思えますが頑張ってください。(男性 30 歳代)
- ・このアンケート自体が、女性の立場から見た質問になっており平等を感じません。人間の身体能力が男女により、異なっていると思えます。(男性 30 歳代)
- ・男女という性差を認めた上で、個人の得意能力や情熱が発揮できるような社会を実現してほしい。(男性 30 歳代)
- ・何もかもが平等ということは不可能だと思います。お互いに相手を敬い、行動に移すことが大切です。このようなアンケートをきっかけに、自分を見つめ直す良い機会だと思います。(男性 30 歳代)

女性 30 歳代

- ・高知県は、他県に比べて男女差別がある職場が多いと思います。ただ、女性軽視のこの状況に女性が甘えている現状もあると思うので、根強く残る古い考えを男女お互いに理解を深める必要があると思います。(女性 30 歳代)
- ・女性の保育サービスや働きやすい環境を作ることが大切だと思います。(女性 30 歳代)
- ・男女共同参画も大切ですが、四万十市の職員の数が多すぎると思います。(女性 30 歳代)
- ・男女共同参画を進めていくことは重要な課題だと思います。固定観念やしきたりにとらわれない教育が必要ではないでしょうか。(女性 30 歳代)
- ・男性は外に出て、女性は家庭を守るというような考えではなく、お互いが協力し合っていくことが大切だと思います。(女性 30 歳代)

男性 40 歳代

- ・家事・育児は女性という観念を変えること。男性が仕事に忙殺されない家事・育児などの必要性を、職場が許容することが重要。(男性 40 歳代)
- ・職場に対する問題は、大手企業ならともかく四万十市の地方企業では難しいと思う。(男性 40 歳代)
- ・女性が不当な条件にさらされているという実態をテレビで流してみても？(男性 40 歳代)
- ・女性には出産等男性にはないことがあり、それに必要な休暇も発生します。職場に復帰しやすい環境を整えることが必要だと思います。もともと身体的な違いがあるので、すべてを同じにすることが平等とは思いません。そのようなことを踏まえた上での「真の平等」な社会になればよいと思います。(男性 40 歳代)
- ・すべてが共同ということは困難だと思います。性差の特性は大切なことだと思います。両者の特性を生かせることが本当の共同参画だと思います。(男性 40 歳代)
- ・男女平等という言葉をはき違えている人が多いのではないかと。母子家庭では母親が父親の役を、父子家庭では父親が母親の役をしっかりとすべきである。どのような方向性でも、男女間でしっかりと理解することが重要であると考えます。(男性 40 歳代)
- ・調査することが目的とならないように、このアンケート結果を活用して下さい。(男性 40 歳代)

女性 40 歳代

- ・子どもが通学している学区では、PTA の役員など女性の役員が多く男女の格差があると思ったことはありません。(女性 40 歳代)
- ・男女の身体的な違いから、すべて平等にする必要はないと思います。小さな家族単位からお互いを尊重するように心がければ、社会全体に浸透していくと思います。無理に男女を区別するのではなく、人間として尊重し合えば住みやすい社会になると思います。(女性 40 歳代)
- ・男女の違いを把握し、お互いに尊重する。その上で、特性を生かすことで充実した活動ができると思います。男性であれ女性であれ、各家庭に応じた役割分担により時間の有効活用が可能になると思います。(女性 40 歳代)
- ・男性も仕事と家事を両立させることが当たり前の社会づくりが必要だと思います。(女性 40 歳代)

- ・幡多地域の中学校での技術家庭科教育も 10 年前に男女混合となりました。この子たちが親になる頃には、平等が当たり前になっていると思います。(女性 40 歳代)
- ・我が家では、家事や子育てについて主人も積極的に関わってくれていると思います。但し、主人の会社では「男性がそんなことを」と考えている風潮があるように思います。女性の中には、家事と仕事の両立で無理をしている人も多いと思います。世の中の意識が、少しでも現況に合うようになればよいと思います。(女性 40 歳代)

男性 50 歳代

- ・共同参画は良いですが、平等は難しいと思います。男と女の役割が違います。(男性 50 歳代)
- ・現状を見ると市政を動かしているのは男性である。どうしても女性の意見が通りにくく、軽視されているように思います。平等にするには、人数も男女の割合を同等にしなければならないと思います。(男性 50 歳代)
- ・他自治体のお手本となるプランの実施を望みます。(男性 50 歳代)
- ・男女共同参画のメリット及び四万十市のメリットがよくわからない。自然の流れの中で進めて行くのがよい。学校の教育が、基礎を作る上で重要だと考える。(男性 50 歳代)
- ・男女共同参画も大いに結構だが人口が減っていく中、福祉関連の費用が多くなると思います。税収増加のためにも公共工事の発注増加、企業誘致の促進などを先に実施して下さい。(男性 50 歳代)
- ・男女平等にすべきは間違いだと思う。男と女は違う生物。なすべきことも違うと思う。(男性 50 歳代)
- ・やさしく、お互いにを思いやる地域を作ってください。(男性 50 歳代)

女性 50 歳代

- ・「問 11 の職場」が自分の職場を指すのか、一般的なことなのか判断ができなかった。(女性 50 歳代)
- ・市税の高い四万十市で、このようなアンケートに税金を注いでいることは残念です。一般市民はボーナスも無く、仕事も休みながらでないといけません。この四万十市をよく見てほしいものです。(女性 50 歳代)
- ・四万十市では共働きは普通。経済的に成り立たない家庭が多いと思う。その中で、子育てや介護等は切り離せない問題である。高齢化や独居世帯が多くなっていく中で、男女問わず子どもの頃から自活する力をつけていくことが大事である。(女性 50 歳代)
- ・四万十市は年配の方が多いので、慣習による男女に対する固定観念があると思います。性別の違いや立場の違いを理解し合える地域・職場であってほしいと思います。(女性 50 歳代)
- ・女性が充実した仕事ができるように、企業に子どもを連れて出勤できるような職場作りが必要だと思います。(女性 50 歳代)
- ・数年前から男女共同参画と言われ続けていますが、どうもお題目を唱えているだけのようない感じがします。市や国ではなく、最初に「民」が声を上げられる体制をつくるべきではないだろうか。(女性 50 歳代)
- ・男女とも相手を思いやり、何事にも協力する気持ちが大切だと思います。(女性 50 歳代)
- ・パワハラの実態も検討してもらいたい。(女性 50 歳代)

性別不明 50 歳代

- ・一部の人の横暴をやめさせる。(性別不明 50 歳代)
- ・四万十市は、未だに男尊女卑の風潮が色濃く残っており土地柄だと思います。これを変えていくのは、家庭や学校での教育が必要だと思います。(性別不明 50 歳代)

男性 60 歳代

- ・「自分は女性だから」と言っ、女性独特の甘えがないとはいえない。特に地域社会への参加には消極的である。男性がすればよいと思っている。(男性 60 歳代)
- ・お互いによく話し合い、納得して共同参画を行うことが必要。(男性 60 歳代)
- ・このアンケートの集計だけで終わらないようにして下さい。上層部だけでの話し合いではなく、すそ野を大きく広げてほしいと思います。(男性 60 歳代)
- ・大変難しい問題だと思いますが頑張ってください。(男性 60 歳代)
- ・男女それぞれ、できることをすればよい。(男性 60 歳代)
- ・男女とも、心の余裕がほしい。(男性 60 歳代)
- ・長時間労働をなくす。残業の縮小。時間に余裕がないと人間らしい生活ができない。(男性 60 歳代)

女性 60 歳代

- ・共同参画の拠点を充実し、促進情報をわかりやすく発信してほしいと思います。(女性 60 歳代)
- ・女性が介護している場合、男性はそれに対して感謝の言葉をいってほしい。足りないと思う。親の介護は女性がするのが当たり前と思っている男性が多いと思う。(女性 60 歳代)
- ・女性の経験から出てくる意見が、多くの場で生かされるように男性管理者の意識を変えてほしいです。(女性 60 歳代)
- ・男女ともに気兼ねなく育休等休みが取れるとうれしいです。(女性 60 歳代)
- ・男女平等とはいかないところもあると思います。体力的にも男女の違いがあります。また、家事や育児は女性の方が向いていると思います。男は男らしく、女は女らしくすることが大事だと思います。(女性 60 歳代)
- ・男性、女性とそれぞれ特長があります。お互いに理解し合って、向上できればよいと思います。(女性 60 歳代)
- ・明治生まれの祖母、大正生まれの母、昭和生まれの私を振り返ってみると、現在は男女の差はほとんどなくなっているのではないのでしょうか。しかし、男性からのセクハラ等で苦しんでいる女性も多いのではないのでしょうか。四万十市も相談窓口を充実して、相談に乗ってあげられる場所がほしいと思います。(女性 60 歳代)
- ・私は定年退職後に四万十市にUターンしてきました。帰ってきて感じることは、住民のコミュニケーション能力の低さに驚いています。人権啓発課のみなさんに頑張してほしいです。(女性 60 歳代)

性別不明 60 歳代

- ・その家なり、地域なり自分たちに合ったスタイルを保ちつつ、周りとも合わせながら生活できたらよいと思います。(性別不明 60 歳代)

男性 70 歳代

- ・行政の職員の皆さんは、住民の権利や義務について勉強してもらいたい。(男性 70 歳代)
- ・私は 70 代なので古いかもしれませんが、昔から「男は男らしく、女は女らしく」という言葉がありますが、今の時代でもその言葉を当てはめてもよいと思います。男も女も才能のある人は、それぞれの分野で活躍できればよいと思う。(男性 70 歳代)

女性 70 歳代

- ・男の役割と女の役割は、昔から決まったようなものがあります。女性に対して無理に男性の仕事を押しつけても無理がきます。無理強いせず、自然体で毎日が送れたらと思います。(女性 70 歳代)
- ・結婚していない 40 代の人も多いので、積極的に男女共同参画に参加してほしい。(女性 70 歳代)
- ・高齢者の女性ほど、「家事は女性」と思いこんでいると思います。男女共同は、小さいころから自然に学ぶことが大切だと思います。(女性 70 歳代)
- ・男女共同参画は、子どものころから道徳教育として学校で教えていかないと遅いと思います。(女性 70 歳代)
- ・法的には男女平等がうたわれ、男女共同参画も一段と進んできていると思います。若い層は、家事や育児など男女が協力してやっているといます。ただ、年配者の中には、昔ながらの社会通念が残っているように思えます。改善してほしいです。(女性 70 歳代)

性別不明 70 歳代

- ・四万十市で何をしているのかわからない。(性別不明 70 歳代)
- ・男女同権。(性別不明 70 歳代)

男性 80 歳以上

- ・意識改革（特に男性）が必要だと思う。(男性 80 歳以上)
- ・この調査は高齢者には適当でない。(男性 80 歳以上)

女性 80 歳以上

- ・すべての人を隔てなく尊重することが大切だと思います。(女性 80 歳以上)
- ・若い世代も高齢者も、それぞれ相応の男女共同参画の活動場所があることを望みます。(女性 80 歳以上)

性別・年齢不明

- ・若者が生活保護に頼らない社会を目指してほしい。(性別不明、年齢不明)

四万十市 男女共同参画に関する市民意識調査

～ご協力のお願い～

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

本市では、男女が固定的な役割分担意識や慣習にとらわれることなく、それぞれが個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことのできる社会をつくることを目指した「しまんと男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを続けています。

このたび、社会環境の変化や新たな課題に対応するため、プランの見直しを行います。

このアンケートは、市民の皆様の男女共同参画に関する意識やご意見等をおうかがいし、今後、事業を推進していく上での基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

調査の実施にあたっては、20歳以上の市民の方から無作為に2,000人を選んだところ、あなた様に回答をお願いすることになりました。

このアンケートは、統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、本調査の目的以外に使用することはありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、調査の目的、趣旨をご理解いただきましてご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成24年（2012年）7月

四万十市長 田中 全

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆又はボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に（○印1つ）（○印3つまで）などと指定してありますので、それに従ってご回答ください。
4. （○印3つまで）などと回答数を指定してある場合は、あなたの気持ちに最も近いものから順に選んでください。（○印いくつでも）の場合は、あてはまるものを全てお答えください。
5. 設問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただくものなどがありますので、その説明に従いご記入ください。
6. ご不明な点、調査に関するお問い合わせなどは、下記までお願いいたします。

調査のお問い合わせ先

四万十市 人権啓発課 男女共同参画推進係
〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目10（電話：0880-35-1035）

記入していただいた調査票は、**7月23日（月）**までに、同封の返信用封筒に入れて（切手を貼らずに）投函してください。

◆はじめに、あなたご自身（ご回答者）のことについておたずねします

あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにお答えください。（○印1つずつ）

問1. 性別	1. 男性	2. 女性	
問2. 年齢	1. 20～29歳 4. 50～59歳 7. 80歳以上	2. 30～39歳 5. 60～69歳	3. 40～49歳 6. 70～79歳
問3. 職業	1. 農林水産業の自営業主 2. 農林水産業の家族従事者 3. 商工・サービス業の自営業主 4. 商工・サービス業の家族従事者 5. 自由業【開業医・弁護士・芸術家など】 6. 勤め人【管理職以上】 7. 勤め人【専門技術職（技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など）】 8. 勤め人【事務職（一般事務職・営業職など）】 9. 勤め人【労務職（建築作業員・工員・運転手など）】 10. 勤め人【臨時職（パート・アルバイト・派遣など）】 11. 専業主婦・主夫 12. 学生 13. 無職 14. その他（ ）		
問4. 未既婚	1. 未婚	→問5へお進み下さい	
	2. 既婚	→問4付問へお進み下さい	
	3. 離別・死別	→問5へお進み下さい	
問4付問（問4で2と回答した方に） 共働きの状況	1. 共働きである 2. 共働きではない		
問5. 同居世帯の構成	1. ひとり暮らし	→問6へお進み下さい	
	2. 夫婦ふたり暮らし	→問6へお進み下さい	
	3. 親と子（二世帯同居）	→問5付問へお進み下さい	
	4. 親と子と孫など（三世帯以上同居）	→問5付問へお進み下さい	
	5. その他（ ）	→問5付問へお進み下さい	
問5付問（問5で3～5と回答した方に）同居している子どもの有無 （○印いくつでも）	1. 未就学の子がいる 3. 中学生の子がいる 5. 同居している子どもはいない	2. 小学生の子がいる 4. 高校生以上の子がいる	

◆男女平等意識についておたずねします

問6. あなたは、今の社会において、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動の中では	1	2	3	4	5	6
⑤議会や政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体としては	1	2	3	4	5	6

問7. 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。(○印いくつでも)

1. 男女の身体的・生理的な違い	2. 男女の役割についての固定観念
3. 社会通念やしきたり・慣習	4. 法律や制度上の差
5. 働く上での有利・不利	6. 男女差の自覚やお互いの理解の不足
7. その他 ()	8. 男女不平等な点はない
9. わからない	

問8. あなたは、今後どのような分野・領域で、より一層女性の参画が必要だと思いますか。(○印2つまで)

1. 『文化・産業分野』(地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す)
2. 『環境分野』(環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かす)
3. 『防災・災害復興分野』(被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など)
4. 『科学技術分野』(女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など)
5. 『農林水産分野』(農業経営への参画、家族経営協定など)
6. 『政策・方針決定領域』(審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など)
7. その他 ()

◆職業生活についておたずねします

問9. 女性が仕事をする事（会社などで働くこと）について、あなたはどのように思いますか。（〇印1つ）

1. 女性は仕事をしない方がよい
2. 結婚するまでは、仕事をした方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をした方がよい
4. 子どもができたら退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい
5. 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
6. その他（ ）
7. わからない

問10. あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。（〇印いくつでも）

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 家事の負担が大きいこと | 2. 夫・子どもの世話の負担が大きいこと |
| 3. 高齢者の世話の負担が大きいこと | 4. 夫・子どもなどの理解や協力が無いこと |
| 5. 職場で男女差別があること | 6. 職場での結婚・出産退職の慣例があること |
| 7. 夫の転勤や長時間労働 | 8. 女性の就職先自体が少ないこと |
| 9. 保育所など子育て支援体制が十分ではないこと | |
| 10. 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと | |
| 11. その他（ ） | |
| 12. 支障となることは特になし | |

問11. 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。（〇印1つずつ）

	優 男性のほう 遇されてい る	い え ば ど ち ら か と	な ほ ぼ 平 等 に な っ て い る	優 女 性のほう 遇されてい る	い え ば ど ち ら か と	わ か ら な い
①募集・採用	1		2		3	4
②賃金・昇給	1		2		3	4
③昇進や昇格	1		2		3	4
④仕事の内容	1		2		3	4
⑤退職や解雇	1		2		3	4
⑥能力評価・査定	1		2		3	4
⑦教育訓練や研修	1		2		3	4
⑧有給休暇の取得	1		2		3	4

問 17. あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。

①から⑥のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

	主に夫	主に妻	協夫 力婦 してが	協家 力族 してが	子主 どもに	のそ 人他
①掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5	6
④日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑤子育て(育児・しつけ)	1	2	3	4	5	6
⑥家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6

問 18 (この設問は、問4で「2. 既婚」と回答した方にのみおたずねします。それ以外の方は次の質問にお進みください。) あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。(○印1つずつ)

	主に夫	主に妻	協夫 力婦 してが	協家 力族 してが	子主 どもに	のそ 人他
①掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5	6
④日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑤子育て(育児・しつけ)	1	2	3	4	5	6
⑥家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6

問 19. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(○印いくつでも)

1. 男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる 2. 男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる 3. 男女ともに、社会人として自立できるように育てる 4. 男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる 5. 男は外で働き、女は家庭を守るように育てる 6. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる 7. 子どもの個性に応じて育てる 8. その他 () 9. わからない

問 20. あなたは、高齢者介護についてどのように考えますか。(○印1つ)

1. 主に妻など女性の役割だと思う
2. 主に夫など男性の役割だと思う
3. 男女にかかわらず、主に実の子どもが介護するべきである
4. 男女が役割分担し、協力して介護するべきである
5. 家族で役割分担し、協力して介護すべきである
6. 福祉施設等を利用して介護すべきである
7. その他 ()
8. わからない

◆地域社会活動についておたずねします

問 21. あなたは、つぎのような地域活動に参加していますか。(○印いくつでも)

1. 自治会(地区)・PTA・子ども会・老人クラブ・女性会などの活動
2. 趣味・学習・スポーツ活動
3. 環境保護、まちづくりなどの活動
4. ボランティア活動(NPO活動などを含む)
5. リサイクル・消費生活活動など
6. ホームステイの受け入れや海外ボランティアなど国際交流活動
7. その他 ()
8. 特に参加していない

問 22. あなたの住んでいる地域でのさまざまな活動において、次のようなことがありますか。(○印いくつでも)

1. 会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い
2. 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性の方が積極的で活発である
7. 特に男女格差はない
8. その他 ()
9. わからない

問 23. 地域社会において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること
2. 地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること
3. 女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること
4. さまざまな立場の人達が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫すること
5. 地域活動やボランティア活動についての情報を提供すること
6. 仕事中心のライフスタイル(生活様式)を見直すこと
7. 家族の理解と協力を得ること
8. その他()
9. わからない

◆人権意識についておたずねします

問 24. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。(○印いくつでも)

1. 「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い
3. 配偶者や恋人などパートナーからの暴力
4. 職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)
5. ストーカー行為
6. 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うメディア*など女性を商品化する風潮
7. メディア*における女性に対する暴力などを助長する性表現や暴力表現
8. 女性の容姿を競うコンテスト
9. その他()
10. わからない

※メディア→テレビ番組や雑誌、新聞、インターネットなど

問 25. あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力)について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。(○印いくつでも)

1. 自分が直接経験したことがある → 問 25 付問1をお答えください
2. 自分のまわりに経験した人がいる → 問 25 付問1をお答えください
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. チラシやパンフレットなどで見たことがある
6. ドメスティック・バイオレンスのことを全く知らなかった

→「1」または「2」と回答された方は問 25 付問1へ、それ以外の方は問 26 へお進みください

問 25 付問 1 (問 25 で 1 または 2 と回答された方に) あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印いくつでも)

1. 家族や親せきに相談した
2. 友人や知人に相談した
3. 警察に連絡・相談した
4. 法務局や県庁、市役所などに相談した
5. 女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した
6. こうち男女共同参画センター「ソーレ」に相談した
7. 医療関係者(医師・看護師など)に相談した
8. 弁護士に相談した
9. その他()
10. どこ(だれ)にも相談しなかった → 問 25 付問 2 をお答えください

→「10」と回答された方は問 25 付問 2 へ、それ以外の方は問 26 へお進みください

問 25 付問 2 (問 25 付問 1 で 10 と回答された方に) あなたが「どこ(だれ)にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。(○印いくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいか、わからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いことがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他()

問 26. ドメスティック・バイオレンス(DV)について、あなたはどのように感じますか。(○印いくつでも)

1. どんな理由があっても暴力はふるうべきではない
2. 暴力を受けるほうにも問題があるのではないか
3. 夫婦(恋人や交際相手も含む)間のケンカのひとつで暴力にはあたらない
4. 夫婦(恋人や交際相手も含む)間の暴力は当事者で解決すべきである
5. 暴力は当事者個人だけの問題ではなく、社会全体での防止対策が必要である
6. 暴力をふるう相手とは別れたほうがよい
7. その他()
8. わからない

問 29. 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、四万十市はどのようなことに力をいれていくべきと思いますか。(○印3つまで)

1. 意識改革のための啓発の推進や学習機会の充実を図る
2. 学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を充実する
3. 人権の尊重についての研修会や講座、情報提供などを充実させる
4. 男女共同参画に関する情報提供の充実
5. 市の政策・方針を決定する審議会の委員などに女性の積極的な登用を図る
6. 市職員における管理職への女性の積極的な登用を図る
7. 男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援などの検討
8. 働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける
9. 働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる
10. 女性の人材育成への支援
11. 女性に対する就業や起業への支援
12. 男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する
13. 男女共同参画の視点を取り入れた防災対策の推進
14. 男女共同参画についての各種相談事業を充実させる
15. 男女共同参画のための活動場所(拠点)を充実すること
16. 男女共同参画に視点を置いた国際的な交流・協力の推進
17. 母性の保護をはじめ、女性の心身の健康づくりの推進を図る
18. その他()
19. わからない

問 30. 男女共同参画についての意見・要望などがございましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～